



伊藤音次郎日記

1927(昭和2)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼0ページ▲▼

昭和二年

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

ライトプレインクラブノ完成

満州発展策

▲▼2ページ▲▼ 昭和貳年要記

ライトプレインクラブ完成

満州発展策

工場内容充実策

航空大会社対策

▲▼3ページ▲▼ 1月

- 1 工場整理
- 2 満州策

▲▼4ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月1日(土)

天気 晴

非常ニツカレタノト昨日ノ酒ノ残リトデ十時頃床ヲハナレル

大蔵、菊池初飛行 甲三ニテ。佐野來場

松田來 單獨ニナツタトノコトニ祝ッテヤル

夕食ニ橋本ヨリ上野ノ件話シアリ 元來練習ヲ希望セシ由ニツキ本年度ヨリ所員並トシテ練習ヤラセル事トス 方法ニツイテ學校ト打合セ日曜日ダケ所員練習日ト定メル事トス

▲▼5ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月2日(日)

天気晴

七時半ヨリ事務所ニテ大連各方面其他二三手紙ヲ書ク

晝過ぎ西田大蔵來 晝食後三時過ぎヨリ千葉へ川辺ヲ見舞ニ行ク 小供ハ少シモ病人
ラシクナク赤イ顔シテ丸々太ツテ居タ 二時間程話シコンデ帰ル

鈴木札幌ヨリ手紙來 五日頃退院シタイノダガ金ヲ送ツテ呉レトノ事デアッタ 一寸
馳走スルト八九十円入ル様子デアッタ

朝上野來 引續キ就業ノ事ニ決ス タゞシ練習ヲヤリタイ希望ヲ入レテ橋本並ニナス

▲▼6ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月3日(月)

天気晴

昨夜オソク田中來トノコト 朝会フ。橋本昨夜稲垣氏へ行ツタトノコト 今朝八時半停
留所ニテ会フ約束トノコトニ行ク。成田ヲ参拜 帰途料亭ニ入り数刻ニ渡リ稲垣君ノ奮
起ヲ説ク。止ムヲ得ザル場合ヤルハヤルガ自信ガナイトノ事デモ一ツキン禪一番ト云フ
トコロニ達シナカッタガ時間ガ余リウツルノデ帰ル 六時帰宅 花ヲ遊ビ十一時終リ床
ニツク 十二時ヲ聞イテ眠ル

▲▼7ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月4日(火)

天気晴

作業初メ 佐野七時半出勤

自分七月分ヨリ決算ヲ初ム。カタコツテタマラズ午後橋本ニ教エテヤラセル

佐野ニ工場今後ノ問題ニツキ意見ヲ聞イタガ答エズ 自分ノ想像通りデアッタ 夕方

稲垣氏ヨリ話シアリ 同氏ヨリ聞イテ見テモヨイトノコトナリシモ尚本人ヨリ聞クコトニ
ス

▲▼8ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月5日(水)

天気晴

今日ハ終日寝タリ起キタリシタ 晝アンマヲ取ル イクラカヨクナツタ

午後菱井氏來(百円ダケ)暮レニ御願ヒシタダケ何ントカシテ呉レトノコトデ補助金デ
イクラカ都合スルコトニ返事シテ居ク

毎日佐野ノ事ムネニツカエル

▲▼9ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月6日(木)

天気 晴

新年ノ初上京 七時過ぎ出懸ケテ木下ニ寄ツタガ留都(ママ) スグ局ニ行ク 技術課全部ニ挨拶ヲナシ、監理課ニ行ク 課長代リテ伊勢谷氏トナツテ居タ 挨拶ノツヒデニ色々話シカケラレタノデニ三希望ヤラ抱負ヲ述ベテ居ク 獨逸カラ帰り立テノホヤ、ダトノコト 大想(ママ)丁寧ナ人デアッタ。局長來客アリ会ウコトヲ止メテ水上アブロヲ陸上ニ直シタ分ノ願書提出

三越ニテ朝日ノお年玉ヲ求メ社ニ行ク。少シ待ツテ小川氏來 お年玉ト十年式ラジエターノ件ヲ依頼シテ赤十字病院ニ兩宮氏ヲ見舞フ 元氣デアッタノデ色々奥様ニモナグサメテ居タガ大小便ガ出ナイノハ甚ダヨクナイ

晝食後小樽新聞ニ行ク 本田氏病氣欠勤。袴田氏ニ重役一人居タノデ其前デ三菱へ返事ノ爲メ残金イツ貰エルカニツキ返事シテ貰フコト、酒井辭職ノ件、破損機ノ代機整備ノ件ノ三ツヲ相談シテ居イテ貰フコトニシテ、片岡ト会フ 鳥飼ニ行ク 小西來ラズ明日ヲ約ス 白戸ニ会フ 伊東屋ニ買物ニツキ今日明日家具ノ写真ヲ写シテ呉レトノコトニイヤダツタガ引受ケル 佐藤ニ寄ル 家ノ件依頼ス 四ミリケーブルナシ 夜十一時帰宅

▲▼10ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月7日(金)

天気 曇雨

大倉ヲ局へ金受取りニヤル 貰ツテ來タ 本人へ十円渡シ分工場遠藤分請求書萩野氏へ頼ンテ來タトノコト。

小西金出來ズ 片岡二二両日中延期セシム

七分分決算ヲ行フ 午後約束ニヨリ止ムナク白戸へ行ク 此頃ヨリポツリ、ヤツテ來タ 二時ノ電車デ行キ夕食後帰ル 久シ振リノ降雨デアッタ

井上長一ヨリハンサー運賃ノ件ニツキ嚴重ナル手紙來ル。佐野ハ仕方ガナイトノ返事。アキレタ支配人殿ダ

就寝後十二時目ヲ醒シ眠レズ 色々ノ事ガ考ヘラレルノデ三時ヨリ之レヲ記入シ初ム。尚思ヒ出シタ用件ヲ用箋ニ書イテ居ク

局拂下希望ノ願書提出

▲▼11ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月8日(土)

天気 晴

非常ニアタ、カナ日デアッタ

晝頃朝日ニ行ク 久松氏早川氏ヨリ別室ニテ十年式整備費領収書ノ件ニツキ懇談アリ スグ帰宅 計算書ト領収書ヲ作り上京 社ニ届ケル

夕方丁度岡崎君來 音更ノ將來ノ件ニツキ課長ヨリ僕ニ相談セヨトノ事デアッタトノコト
トデ來タトノ話シ 明日晝頃局デ会フ約束ヲナス 東京泊リ
朝川畑氏へ返事出ス

▲▼12ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月9日(日)

天気 晴風

金融ノ予定ヲ作ルベク予算書ヲ作製ス 十年式ヲドウシテモマトメナケレバナライ

▲▼13ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月10日(月)

天気 晴

晝前局ニ出頭 阿部大尉ヨリ小樽デ辭職ヲ勸告シタニツキ酒井野中ニ歸ル様打電シタ
トノ(ママ)デアッタ。課長ヨリ音更ノ件ニツキ四台整備ノ件及補助金ノ件下附ノ話シア
リ 金(音更)ハラナクテモヨイカラ万事タノムトノコトニ駭(ママ)查ノコト 十日打合せ
岡崎君來ラズ 名刺ニ明日津田沼へ來ル様書イテ預ケ、朝日ニ行キ十年式計器ヲタノ
ミ、スグ小樽ニ行ク ダレモ居ナイノデ藤原君ガ今夜本田氏宅へ行クトノコトニ酒井君
ノコト金ノ事傳言シテ鳥飼ニヨリ工場佐野ノ件一寸相談ス ヤハリ、反対デアッタ。明
日工場へ來テ貰フコトニ話シテ、佐藤デ買物ヲナシ帰宅 夜業シテ居タ 十二時頃終ル

▲▼14ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月11日(火)

天気 雨

今日ハ八月分ノ決算ヲホトンド一日デ終ツタ

鳥飼氏モ雨ノ爲メ來ラズ 夕方仕舞フ頃岡崎君來場 丁度アンマヤツテ居タノデ少
シ待ツテ貰ヒ、大体予算ヲ立テ補助金全部デ四台ノ仕上ゲヲナシ残ヲ先ギノ貸金ニ入
ル事 之レデ利益ト云フモノガナイノデ運賃ガ貰エタラ其内一部岡崎君ノ小遣ニ一
部自分ノ方ノ利益ニ當テル事ニス。尚委任状ヲ全部貰ツテカラ職工二月上旬派遣ノ事
トス

小西ヨリ百円受取ル アト一週間程カゝルトノコトニ明日兔三角手續キヲナスコトニシテ
片岡へ局へ來ル様電報ス。

小樽新聞社平野氏宛嚴重ノ手紙出ス 酒井明日一人デ出発スルトノコトデアッタ

▲▼15ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月12日(水)

天気 晴

晝頃上京 局ニ行ク 片岡ト丁度会フ 百円小西ノ金ヲ渡シ名議(ママ)変更届ニ押印セシム。アト今月中ニ百円ヤルコトニ約ス 小西ノ判ガナカッタノデスグ提出出来ナカッタ。所沢ノ下附金取調ベタ處ニ時頃ニ來イトノコトニ待ツ内橋本來 アト橋本ニタノミ、朝日ニ行キ、サル士官學校拂下分式台ニテ百五十円現金ヲ頼ンデ受取ル。小樽ニ電話カケル。本田氏出テ來タガ要領ヲ得ナカッタ。明日會フコトニシテ神田ノ事ム所ニ行ク 田中静岡ニ行キ不在 知覧君ト、アンザニート金融ニツキ相談ス。橋本來。日本銀行間ニ合ワズ今日田中ノ處ニ泊ルトノコトニ、自分モ東京泊リトシテ、事ム所ノ近藤君ニ津田沼へ使ニヤルツイデニ朝日モ貰ツテ來タ十年式ノ温度計ト高度計ヲ持タセテヤル

▲▼16ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月13日(木)

天気晴

午前中金融ニツキ作業 機体及材料、修理費、補助金等ノ計算表ヲ作ル

十二▲▼0ページ▲▼

昭和二年

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

ライトプレインクラブノ完成

満州発展策

▲▼2ページ▲▼ 昭和貳年要記

ライトプレインクラブ完成

満州発展策

工場内容充実策

航空大会社対策

▲▼3ページ▲▼ 1月

1 工場整理

2 満州策

▲▼4ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月1日(土)

天気晴

非常ニツカレタノト昨日ノ酒ノ残りトデ十時頃床ヲハナレル

大蔵、菊池初飛行 甲三ニテ。佐野來場

松田來 單獨ニナツタトノコトニ祝ツテヤル

夕食ニ橋本ヨリ上野ノ件話シアリ 元來練習ヲ希望セシ由ニツキ本年度ヨリ所員並トシテ練習ヤラセル事トス 方法ニツイテ學校ト打合セ日曜日ダケ所員練習日ト定メル事トス

▲▼5ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月2日(日)

天気晴

七時半ヨリ事務所ニテ大連各方面其他二三手紙ヲ書ク

晝過ギ西田大蔵來 晝食後三時過ギヨリ千葉へ川辺ヲ見舞ニ行ク 小供ハ少シモ病人

ラシクナク赤イ顔シテ丸々太ツテ居タ 二時間程話シコンデ帰ル

鈴木札幌ヨリ手紙來 五日頃退院シタイノダガ金ヲ送ツテ呉レトノ事デアッタ 一寸

馳走スルト八九十円入ル様子デアッタ

朝上野來 引續キ就業ノ事ニ決ス タゞシ練習ヲヤリタイ希望ヲ入レテ橋本並ニナス

▲▼6ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月3日(月)

天気晴

昨夜オソク田中來トノコト 朝会フ。橋本昨夜稲垣氏へ行ツタトノコト 今朝八時半停留所ニテ会フ約束トノコトニ行ク。成田ヲ参拜 帰途料亭ニ入り数刻ニ渡リ稲垣君ノ奮起ヲ説ク。止ムヲ得ザル場合ヤルハヤルガ自信ガナイトノ事デモ一ツキン揮一番ト云フトコロニ達シナカッタガ時間ガ余リウツルノデ帰ル 六時帰宅 花ヲ遊ビ十一時終リ床ニツク 十二時ヲ聞イテ眠ル

▲▼7ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月4日(火)

天気晴

作業初メ 佐野七時半出勤

自分七月分ヨリ決算ヲ初ム。カタコツテタマラズ午後橋本ニ教エテヤラセル

佐野ニ工場今後ノ問題ニツキ意見ヲ聞イタガ答エズ 自分ノ想像通りデアッタ 夕方

稲垣氏ヨリ話シアリ 同氏ヨリ聞イテ見テモヨイトノコトナリシモ尚本人ヨリ聞クコトニ
ス

▲▼8ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月5日(水)

天気 晴

今日ハ終日寝タリ起キタリシタ 晝アンマヲ取ル イクラカヨクナツタ
午後菱井氏來(百円ダケ)暮レニ御願ヒシタダケ何ントカシテ呉レトノコトデ補助金デ
イクラカ都合スルコトニ返事シテ居ク
毎日佐野ノ事ムネニツカエル

▲▼9ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月6日(木)

天気 晴

新年ノ初上京 七時過ぎ出懸ケテ木下ニ寄ツタガ留都(ママ) スグ局ニ行ク 技術課全
部ニ挨拶ヲナシ、監理課ニ行ク 課長代リテ伊勢谷氏トナツテ居タ 挨拶ノツヒデニ
色々話シカケラレタノデニニ希望ヤラ抱負ヲ述ベテ居ク 獨逸カラ帰り立テノホヤ、
ダトノコト 大想(ママ)丁寧ナ人デアッタ。局長來客アリ会ウコトヲ止メテ水上アブロ
ヲ陸上ニ直シタ分ノ願書提出

三越ニテ朝日ノお年玉ヲ求メ社ニ行ク。少シ待ツテ小川氏來 お年玉ト十年式ラジエ
ターノ件ヲ依頼シテ赤十字病院ニ雨宮氏ヲ見舞フ 元氣デアッタノデ色々奥様ニモナ
グサメテ居タガ大小便ガ出ナイノハ甚ダヨクナイ

晝食後小樽新聞ニ行ク 本田氏病氣欠勤。袴田氏ニ重役一人居タノデ其前デ三菱へ
返事ノ爲メ残金イツ貰エルカニツキ返事シテ貰フコト、酒井辭職ノ件、破損機ノ代機整
備ノ件ノ三ツヲ相談シテ居イテ貰フコトニシテ、片岡ト会フ 鳥飼ニ行ク 小西來ラズ
明日ヲ約ス 白戸ニ会フ 伊東屋ニ買物ニツキ今日明日家具ノ写真ヲ写シテ呉レトノコ
トニイヤダツタガ引受ケル 佐藤ニ寄ル 家ノ件依頼ス 四ミリケーブルナシ 夜十一時
帰宅

▲▼10ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月7日(金)

天気 曇雨

大倉ヲ局へ金受取リニヤル 貰ツテ來タ 本人へ十円渡シ分工場遠藤分請求書萩野氏へ
頼ンテ來タトノコト。

小西金出來ズ 片岡ニ一両日中延期セシム

七月分決算ヲ行フ 午後約東ニヨリ止ムナク白戸へ行ク 此頃ヨリポツリ、ヤツテ來

タ一二時ノ電車デ行キタ食後帰ル 久シ振りノ降雨デアッタ
井上長一ヨリハンサー運賃ノ件ニツキ嚴重ナル手紙來ル。佐野ハ仕方ガナイトノ返事。
アキレタ支配人殿ダ
就寢後十二時目ヲ醒シ眠レズ 色々ノ事ガ考ヘラレルノデ三時ヨリ之レヲ記入シ初ム。
尚思ヒ出シタ用件ヲ用箋ニ書イテ居ク
局拂下希望ノ願書提出

▲▼11ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月8日(土)

天気 晴

非常ニアタ、カナ日デアッタ

晝頃朝日ニ行ク 久松氏早川氏ヨリ別室ニテ十年式整備費領収書ノ件ニツキ懇談アリ
スグ帰宅 計算書ト領収書ヲ作り上京 社ニ届ケル
夕方丁度岡崎君來 音更ノ將來ノ件ニツキ課長ヨリ僕ニ相談セヨトノ事デアッタトノコ
トデ來タトノ話シ 明日晝頃局デ会フ約束ヲナス 東京泊リ
朝川畑氏へ返事出ス

▲▼12ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月9日(日)

天気 晴風

金融ノ予定ヲ作ルベク予算書ヲ作製ス 十年式ヲドウシテモマトメナケレバナラナイ

▲▼13ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月10日(月)

天気 晴

晝前局ニ出頭 阿部大尉ヨリ小樽デ辭職ヲ勸告シタニツキ酒井野中ニ帰ル様打電シタ
トノ(ママ)デアッタ。課長ヨリ音更ノ件ニツキ四台整備ノ件及補助金ノ件下附ノ話シア
リ 金ノ音更ヘヤラナクテモヨイカラ万事タノムトノコトニ駈(ママ)查ノコト 十日打合せ
岡崎君來ラズ 名刺ニ明日津田沼へ來ル様書イテ預ケ、朝日ニ行キ十年式計器ヲタノ
ミ、スグ小樽ニ行ク ダレモ居ナイノデ藤原君ガ今夜本田氏宅へ行クトノコトニ酒井君
ノコト金ノ事傳言シテ鳥飼ニヨリ工場佐野ノ件一寸相談ス ヤハリ、反対デアッタ。明
日工場へ來テ貰フコトニ話シテ、佐藤デ買物ヲナシ帰宅 夜業シテ居タ 十二時頃終ル

▲▼14ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月11日(火)

天気 雨

今日ハ八月分ノ決算ヲホトシド一日デ終ツタ

鳥飼氏モ雨ノ爲メ來ラズ。夕方仕舞フ頃岡崎君來場。丁度アンマヲヤツテ居タノデ少シ待ツテ貰ヒ、大体予算ヲ立テ補助金全部デ四台ノ仕上ゲヲナシ残ヲ先キノ貸金ニ入ル事。之レデ利益ト云フモノガナイノデ運賃ガ貰エタラ其内一部岡崎君ノ小遣ニ一部自分ノ方ノ利益ニ當テル事ニス。尚委任状ヲ全部貰ツテカラ職工二月上旬派遣ノ事トス

小西ヨリ百円受取ル。アト一週間程カ、ルトノコトニ明日兎ニ角手續キヲナスコトニシテ片岡へ局へ來ル様電報ス。

小樽新聞社平野氏宛嚴重ノ手紙出ス。酒井明日一人デ出發スルトノコトデアッタ

▲▼15ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月12日(水)

天気晴

晝頃上京。局ニ行ク。片岡ト丁度會フ。百円小西ノ金ヲ渡シ名議(ママ)変更届ニ押印セシム。アト今月中ニ百円ヤルコトニ約ス。小西ノ判ガナカッタノデスグ提出出來ナカッタ。所沢ノ下附金取調べタ處ニ時頃ニ來イトノコトニ待ツ内橋本來。アト橋本ニタノミ、朝日ニ行キ、サル士官學校拂下分式台ニテ百五十円現金ヲ頼ンデ受取ル。小樽ニ電話カケル。本田氏出テ來タガ要領ヲ得ナカッタ。明日會フコトニシテ神田ノ事ム所ニ行ク。田中静岡ニ行キ不在。知覽君ト、アンザニト金融ニツキ相談ス。橋本來。日本銀行間ニ合ワズ今日田中ノ處ニ泊ルトノコトニ、自分モ東京泊リトシテ、事ム所ノ近藤君ニ津田沼へ使ニヤルツイデニ朝日モ貰ツテ來タ十年式ノ温度計ト高度計ヲ持タセテヤル

▲▼16ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月13日(木)

天気晴

午前中金融ニツキ作業。機体及材料、修理費、補助金等ノ計算表ヲ作ル

十二時事ム所ニ行ク。田中ニ會フ。後橋本來。同所沢ノ分モ計算表ヲ作製

知覽君ヨリ安田大尉會見ノ模様ヲ聞キ日曜日自分行ク事ニス。後チ各計算表ニヨリ調査方依頼ス

終ツテ工場ノ件ニツキ稲垣ヨリ田中橋本へノ手紙モアリ遽急(ママ)取キメノ必要ヲ感ジ、月末迄ニ決定スルコトトス。佐野ノ身柄處置ニツキ自分一人デ考慮スルコトトス。鳥飼ニ相談ニ寄ツタガ丁度津田沼へ行ツテ不在デアッタノデ明日モシ千葉へ行クナラ寄ツテ貰フコトヲ頼ム

小樽新聞ニテ本田氏ニ會フ。本社ハ飛行事業ヲタイムスト協定中止シタトノコトデアッタ。計算ニツイテハ近ク本社カラ何等カノ通信アル迄待ツテ貰ヒタイトノコトデアッタ。云フベキ事モアッタガ川辺ト相談ノ上ニスルコトトシテ引上ゲル

帰宅シテ見ルト徳治ト恵美子ガ目ガ悪クナツテ居タ 徳治ハ今醫師ニ見セタ由

▲▼17ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月14日(金)

天気 曇リ後晴

八月分計算ヲ少シヤル アト白戸ノ写真現像ニ一日カヽル

鈴木北海道ヨリ帰場 初テ出場挨拶ニ來ル

旦代君ニ學校ノ模様ヲ聞ク 尚川辺君ト小樽新聞ノ件相談ノ爲メ帰場スル様事傳ル。
ツヒニ來ナカッタ 酒井飛行士ヨリクワシイ手紙來タ 本人モ何ソノ爲メノ解顧(ママ)カ
ワカラヌマヽニ辭職ノ止ムナキニ至ッタラシイ。今日東京ヘツク筈 心待チニシテ居タガツ
ヒニ來ナカッタ

川畑氏ヨリ中沢氏ト会見ノ模様及ビ張宗昌ヘ五台ノ件ニツキ手紙來 返事ヲ書ク 尚
高見、荒木ニ手紙出ス

大川手形入金出來ズ書替テ旦代君ニ手紙ト共ニ事傳テル

明日十年式電通ノモノ局検査明後日引渡ス旨朝日ヘ電話スル。電通エンジニアトシテ
飯島君晝頃來場 泊ル

▲▼18ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月15日(土)

天気 晴

夕方十年式電通ノ分試運轉ヲ行フ 良好 朝日ヘ打電ス

本日九月分記帳

▲▼19ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月16日(日)

天気 晴風強シ

朝ヨリ仕度シテ待ツ 昨夜ノ風名残りナク風グ 十時頃試飛行ス 約十五分 風次第
ニ強クナル 着陸困難 芝入氏立會ヒ、着陸ト同時ニ久松氏來 尚約一時間以上遅レ
テ、電通ノ上田氏來。久松氏ヨリ引渡シヲ終了ス。晝食ヲ取タガ誰レモ喰フ人ガナクナ
ツテ内ノモノデ喰フ

後チ九月分ノ記帳ヲ懸命ニナシタ方終ル

▲▼20ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月17日(月)

天気 晴

上京 木ノ下ニ寄り晝頃局ニ行き橋本ニ會フ。山階ノ宮家ノ機体補助金ニツキ取調ベル

アプロ広二十一号一機分ダケデアッタノデ、ソレノ書類ヲ御殿へ持参。事ム所所用ノ爲メ河名君ニ渡ス。アトノ分発動機ニツキ東京自動車學校へ交渉ノ事トス。名刺ヲ貰テ神田事ム所ニテ橋本ニ会フ。後チ鳥飼ニ行ク。夕食ヲ共ニス。氏ハ工場改革ニツキ金モウケノ方針ニ進マナケレバナラナイトノ事デアッタ。低(ママ)意ニ工場ニ何等カ関係シタイ希望ラシイノガ見エタ。明日午後会谈ノ約ヲシテ今日ハ鳥飼氏ノ意見ダケヲ聞イテ居ク。帰仕度ノ處へ田中來。共ニ本石町ニ行キ三菱、銀行ノ報告ヲ聞ク。工場改革ヲ口実ニ今月中延期ヲ申込ンダトノ事デアッタ。

▲▼21ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月18日(火)

天気 曇リ少雨

陸軍省ニ安岡大尉ヲ訪問。アンザニーノ件懇願。大尉困テ課長ニ照(ママ)介依頼スル。課長ハ全然今ノ處ナイトノ事デアッタノデヤムナク局ニ引返シ荒井少佐ト相談ス。願書ハマダ却下サレナイカラ其レ迄其マヽニシ返ツテ來タ時少佐自身ニ行ツテヤルトノ事デアッタ。

今日ハ局引越シデ急(ママ)ガシカッタ

小西ノ機体ノ願書ニツキ荻野氏ノ書類ヲ調べサセテ貰フ。鳥飼デ知覽君ニ會フ。明日十時半頃先方ノ人ニ會フトノコト。大分有望ナ話シデアッタ。補助金下附ト同時ニ半額ツヽ入レル事ニシタイ希望。先方モ其ノ希望トノコトデアッタ。

吉田君ニ會ヒ二時間程工場ノ事ライトプレーンノ事等ニツキ協議ス

朝日二四十一号不時着ノ件ニツキ一寸行ク。鳥飼氏三時頃迄帰ラズ。明日ノ事ニス

▲▼22ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月19日(水)

天気 晴

金州民政署及森田ニ手紙出ス。上京鳥飼ニ行ク。知覽オクレル。航空局ニ行ク。課長ヨリ補助金ノ件ニツキ整備イツナルベク多ク急グコト及出張作業ヲ認メテ呉レルトノ事デアッタ。安辺氏、課長ヨリ富沢飛行士十月入営ニツキソレ迄預ル事。月給六十円。右オシツケラレル。

知覽君局ニ來テ呉レル。三越前ノカフェーニ行キ打合セヲナス。先方デ何ニカ書類ガナイカトノ事デアッタトノコト二局へ出ス願書ト委任状ヲ預ケル事ニ話シス。明日、岡野氏ニ會ツテ呉レルカラ明後日自分カスミガ浦ヨリ帰り上京スル事ニ約束ス。

所沢へケーブル線ヲ近藤ニ持参セシム
田中ニ会エズ

▲▼23ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月20日(木)

天気晴

終日在所 バイキングボート水試験 サイトヨリ多少モルモ修理ノ見込ミ立ツ 明日霞ケ浦拂下ニ大蔵ヲヤル事ニス 稲垣同行
晝頃富沢飛行士來場 本日ヨリ稲垣君ノ手許ニオク 櫛部君午後來場 一回試飛行ス

知覽君ニ明日会フベク打電シタガ行違イニ明後日会ヒタシトノ電報アリタリ
夕方且代ト學校練習機ノ件外ニ三打合セヲナス
家内トお金ガ小供ヲ連レテ船橋ノ醫者カラ中山へ參詣ニ行キ日ガ暮レルノニ帰ラズ心配シテ見ニヤル 六時過ギ帰ル 電車ガ二時間近クモ停電シタ爲メトノコト

▲▼24ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月21日(金)

天気晴

終日在所 十月分記帳ヲ終ル
川畑氏ヨリ來信アリ 返事出ス
大蔵、稲垣霞ケ浦ニ出張ス

▲▼25ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月22日(土)

天気晴

朝上京スベク仕度シタ處下腹イタミ出シ、カイロヲ入レテモダメナノデツヒニ中止。原商店へ電話ヲカケ明日行クコトヲ知覽君ニ事傳ツテル
午後電通ヨリ活動取ル爲メ來所 総務吉川氏ニ會フ
大毎福知、奉天田辺、木沢、長岡氏ニ大連竹内氏ニ手紙出ス

▲▼26ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月23日(日)

天気晴

今日ハ中央氣象台デ朝ノ温度○下七度八分 東京初マツテ以來ノ寒サトノ事デアッタ
北海道ノ横山氏來ルトノ事デアッタガ知覽君ニ會フ必要上十一時頃ヨリ上京ス 之レヨリ先キ横山氏ノ件ト小樽ニ対策ニツキ川辺ニ手紙持タセテヤル
知覽君ニ鳥飼ニテ會フ 明日岡田氏ト會ツタ上本人ト会見ノ事ニ運ブトノコト 何ンダカ延ビタ々ニナルノデアヤシクナツテ來タ
鳥飼氏ニ工場ノ事相談シ初メタガ來客カラ外出デ明日ノ事ニス

▲▼27ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月24日(月)

天気 晴

十時半局二行ク 知覧君來 本日本人休ンデ居ルノデ明日決メルトノコトデアッタ イヨ、ダメカナ

局ニテ森川氏ニ有田ノ判ヲ貰フコトヲ話ス 判見當ラズ明日ノ事ニシテ書類ヲ預ケル。 検査ノ事ヲ打合セヲナシ東京駅ニ草野君ヲ訪問 丸ビル東洋軒ニテ晝食ヲ共ニス 雲南漢口間九百哩ヲ一氣ニ飛行スル計畫書ト飛行機ノ予定及経費等ヲ閣ニ應ジ、ザツト書キ出シテ提出ス

二時半頃終リテ鳥飼ニ行ク 不在 朝日ニ行キ久松氏ニ四十五号整備ノ件ヲ依頼シ八百円内借リス 外ニ三百円受領証ヲ渡シ久松氏ニ提供ス

小樽新聞ニ行キ袴田氏ニ會フ。脱スイ軒ニ同道シタ食ヲシツ、本社ノ意ヲ聞ク。マダ、タ イムストノ提携シタニアラズ 之レカラ、スルモノノ如ク、兎ニ角金ニハ行詰リ居ルラシカッタ。ソレニツキ本社トシテハ殘金ヲ至急所置サレタキコト 万一金デ都合悪シケレバ發動機其他ニテ引取ルモ可 別ニ協定ノ方ノキマリモツケ共ニ川辺君ノ方ノ解決モサレタキ旨依頼ス。氏ハ原稿氏(ママ)ニ以上ヲ書留メタ

田中ニ事ム所デ会ヒ三百円所沢へ事傳ル 十時帰宅

▲▼28ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月25日(火)

天気 晴少曇

昨日入金デ諸拂ヲナシ井上ニ會フベク上京シタガ局へ二度行ツタガツヒニ來ナカッタ 鳥飼デ知覧君ニ會フ 今日モ先方ノ人來ナイトノ事。イツレ宅ニハ電話デモ有ルダロウ ニ聞イテ貰フ様ニ云フ 之レ位ノ事ニ氣ガツカズ毎日々々日參トハ知覧君モイヨ、老境ニ入ツタ。アンザニーノ件加藤正美氏徳川氏ニ聞キ合セ 尚本部長ニ會フ事ヲタノム 玉井藤一氏ニ會フ イヨ、困ルノデ石川島ヘデモ這入リタイガ紹介者ガ、ホシイト鳥飼氏ニ頼ンデ居タノデ、児玉サンニ泣付クノガ第一ト教ヘテヤッタ 尚同道シテ局ニ行キ長谷氏ニ照会状ヲ貰フ

麻布五十ヤール求メ、塗料迫行ケナカッタノデスグ帰宅 時七時

▲▼29ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月26日(水)

天気 晴

終日在所 十月分終リ十一月分夜八時過ぎ迄記帳

馬詰甲三内田アプロ受検用ニ濟ミ手直シ四ヶ所 内田アプロ発 振動トヘラ廻轉計付ケテ試験ノコトトナル

夕方榎部君來 格納庫使用ノ件 ラジエーター、ペラノ板金卷ノ件依頼ヲ受ケル 分工場橋本作業オソク泊ル 才外昨日ノ朝、田中ヨリマダ金受取ラナカッタノコト

晝頃近藤へ電話デ話シシタ由 田中モズボラナヤツダ。計算ノ事外二三打合せテ上京。橋本善局へ同行セシム

◆◆30ページ◆◆ 昭和2(1927)年1月27日(木)

天気晴

朝井上ノ計算ヲナシ瀬部ノ残金トイス。パノ二百ノ残金モ差引ヲシ尚六百五十余円アリ請求ヲナス。馬詰ノ願書オロ甲三判ヲ押ス爲メ本人へ発送
上京 橋本善所沢へゴムカン其他サル部品、トイ式マグネットダケ持参セシス(ママ)。自分局ニ出頭 馬詰アブロ金明後日ニナル。局ニテ北海道有田氏ト会フ 課長ヨリ二人ニ話シアリ 有田氏ヨリモ宜シク頼ムトノコト。願書ト委任状ニ森川氏ヨリ判ヲ貰フ。鳥飼ニ行ク 四時 不在。知覧君ニ電話シテ來テ貰フ。今日先方ヨリダメノ返事アリ。尚協議ノ上田辺氏へ今夜行ツテ貰フ。ソノ上ニテ三十日朝有田氏ヲ訪問スル事ニス スグ帰宅 七時半入浴夕食。昨夜二時カラ眠レナカッタノデ今日ハ眠カッタ

◆◆31ページ◆◆ 昭和2(1927)年1月28日(金)

天気晴

大蔵今村立川へ初風ノ標式書ク爲メ出張ニツキ午前局へ立寄ル爲メ出発ス。自分午後上京。鳥飼ニテ知覧君ニ會フ 田辺氏ト今朝事ム所ニテ會フ 原氏ノ保証ガアレバ自分ノ金融先キカラ自分ガ保証シテ借りテヤロウガ金利ガ十五銭位云フダロウトノコトデアッタガドレカ一機分ヲ犠牲ニスルツモリデ十五銭ヲ承諾シテ貰フコトニス。ライトプレーンクラブヲ報知ニ知覧君ニ持込ンデ貰フ

馬詰ノ金今日下ル 七百九十円也 大蔵朝日ニ行キ自分日日ニ吉田君ヲ訪フ 羽太和田君居リ大蔵今村ト同道東洋軒ニテ茶ヲノム。吉田君ヨリ戦闘機ナラ作ルトノ話シアリ 根岸ノヲ交渉シテ見ル事ニス 夕方分レル 分工場へシンブルヲ和田氏ニ事傳ルイ式三百分工場整備ノ分ノ受領証吉田氏ニ渡ス 金所沢へ届ケテ貰フコト 大蔵ニ木下氏へ贈物ヲ事傳ル 十三円デステキニテイサイノヨイモノガアッタ(巻タバコボン)

◆◆32ページ◆◆ 昭和2(1927)年1月29日(土)

天気晴

稲垣ト佐野ニ支拂ノ打合せヲナシ上京 朝水上改造ノアブロ試飛行ス 其成績表ヲ局ニ持参 芝入氏ニ渡ス 卅一日出張 都合悪シトノコトデ一日カ二日ニナル由。荻野氏ヨリ余リ経理局エ請求シナイ様ニ注意ガアッタ 汗顔ノ至リ
神田ノ事ム所ニテ田中ト知覧ヲ待ツコト二時間 田中來 銀行ノ件ドウシテモ一日ノ

夜ニ行カネバナライカラ、ソレ迄ニ決算間ニ合セテ呉レトノコト 明日上京シナケレバ
出來ルノデ知覽君ヲ待ツ。來。田辺氏ト早氏ト今日マダ会见シナイデ決セズ明日返聞
クコトニナリ居ルトノコトニ明日ノ事ヲ電報デ通知シテ貰フコトニシテ自分ハ決算ノ方ニ
カ、ルコトニス 知覽君今ノ風ニエリ卷ガナクテ、余リ寒ソウナノデ安モノデアッタガ須
田町ノ角デ一ツ買ツテ差上ゲル

▲▼33ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月30日(日)

天気晴

三時帰宅 家内御寒餅ヲツキニ行ツテ居タ
夜十一時半迄決算ヲ行フ

▲▼34ページ▲▼ 昭和2(1927)年1月31日(月)

天気晴

決算十二時迄 仕度シテ出懸ケル處へ東本願寺ノ光暢氏夫妻來場 小西飛行スルコト
ニナル 風強シ 注意ヲ與ヘテ、今村立川行キヲ連レテ上京。鳥飼ニヨル 片岡電話アリ
來ル様ニ云フ 知覽君電話シテ同ジク來ル様ニ話シス 朝日ニ行ク 丁度久松氏出懸ケ
ル處デアッタ 四百円借用。十年式整備費ノ電通へ見セタ分ノヲ一通送ツテ呉レトノコ
トデアッタ

住友銀行ニテ右金受取り今村三式胴体ノ金式十円ト外三三十円渡ス。鳥飼ニテ片岡
二百円渡ス 誠ニツライ金デアッタ

知覽君ニ田辺氏ノ方話聞ク 大丈夫ラシイデ安心 明日今日田辺氏ト先方ノ人会見
明日知覽返事聞キニ行ク事ニナツテ居ル由
田中ニ電話シテ明朝來テ貰フコトヲ打合せス

▲▼35ページ▲▼ 2月

- 一 工場改革
- 二 小樽新聞解決
- 三 ライトプレインクラブ速(ママ)進

▲▼36ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月1日(火)

天気晴

早朝ヨリ決算 晝頃漸ク貸借ガ合フ 田中來 夕方報告書出來上ル。銀行へノ返事ノ打合せヲナス 菱伊氏來 皆一所ニ夕食ヲ共ニス。千早商会ノ辨ゴ士委任ノ件モ田中ニ渡ス

▲▼37ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月2日(水)

天気 晴

終日在所

▲▼38ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月3日(木)

航空局ニ森川氏ニ会フ アプロ。ペラ駄目トノコトデアッタ 明日ノ検査頼ンダガ、タレモ來ズ 明日相談シテ居クトノコトデアッタ。井上氏ニ拂下ノコトナド聞キ
鳥飼ニテ知覧君ト会ヒ共ニ原氏ヲ訪問 急グコト補助金ノ性質ヲ話シテ自分ハ神田ニ田中ト会ヒ銀行ト千早ノ報告ヲ聞ク 銀行ハ兎ニ角一度僕ニ來テ呉レトノコトデアッタ 千早ハ一週間返事ヲ延期シタトノコト
朝職工一同ニ決算報告ト今後取ルベキ方針ヲ大体ヲ話ス

▲▼39ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月4日(金)

天気 晴

晝神田事ム所ニ行ク 田中マダ來ラズ 知覧君トノ約束ガアルノデ朝日ニ行ク 知覧君ニ電話スル マダ行カナイノデ電話デ聞イテ見ルトノコトデアッタ。久松氏出張ノ爲メ金貰エズ。大蔵來 大毎ヨリ三時ニ來テ呉レトノ電アリタリトノコト。知覧君來 三時ニ書類ヲ持ツテ來テ呉レトノ事デアッタトノコト 鳥飼ニ寄ル 菱井氏ニ会フ 出來次第トゞケルコトニス。大蔵大毎ニ行ク。自分神田事ム所ニ行ク 田中橋本ニ会フ。田辺氏ニ行ク 二分違ヒデ原氏帰ッタトノコト 事ム所ニ帰ッテ原氏ニ電話シタガ帰ラナイトノコト 田辺氏ニ電話スル 出來ルコトハ必ず作ルガ明日ハ大變イソガシイノデ大葬明ケノ九日ニ書類ヲ持ツテ來テ貰ッタラ十日ニ取引ヲスマセル事ニスルトノコトデアッタ

▲▼40ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月5日(土)

天気 大雪

朝カラチラ、降ッテ居タガ午後益々降ル 本日ノ積雪三寸一分 岡崎銀行ト朝日へ行カネバナラヌノデ上京 途中川辺ニヨリ御国ノアプロ東京自動車へ下賜ノ分交渉シテ見ルコトヲ教エル。尚學校計算書ヲ交付ス。岡崎着十二時半 支店長不在 後刻二時

半再ビ行ク 次席ノ人ニ會フ 應接室ナキ爲メ來客二三ヲ待ツ爲メ三十分余遅レル
後チ種々経過ヲ話シ先方ヨリハ確定的ノ返事ノ希望アリ 目下他債権ヲモ交渉中ニツ
キ御大喪明ケニ挨拶ヲスル旨述べテ引下ル。朝日デ四十五号ノ追加分ノ金ヲ貰フ十
年式ノ残金九十九円アツタガ久松君呉レト云ワナイノデ請求セズ 鳥飼へ二十五円
十二月分渡シ伊東屋ニテ帳簿三冊ヲ求メ熊野屋ニ船底塗料ヲ買ヒ宮崎へ金巾ヲ買ヒニ
ヨツタガ品切レ。日日ニモ一寸立寄ル。日本製麻々布請求 九日確實ノ返事アル筈。小
樽袴田氏風デ出勤セズ藤原君ニ聞ク 平野氏一週間内ニ上京スルカラ其時皆集ツテ話
シシヨウトノ事デアツタ

◆◆41ページ◆◆ 昭和2(1927)年2月6日(日)

天気 晴

大雪ノ中ヲ歩イタセイカ左ノモ、イタミツヒニ泊ル 十一時出デ帰ル 折角雪影(ママ)
色ヲ写真ニ入レヨウト材料ヲ昨日買ツタノニ帰ツタ頃ハモウホトンドトケテ居タ
鈴木ノ高等飛行ト高度飛行(五千米迄)アリ
井上其他三四手紙ノ返事ヲ出シ職工へ小使ヲソレ、持タセテヤル。少シツラカッタガ
幕張ノ女工ニモスマセル
天王寺谷今夜出立スルノデ川辺君ノ金解決シテ呉レトノコトニ川辺千葉ニ居ルトノコト
ニ松田二手紙持タセテヤル。帰ツテ來テ五十円貸ス
田中不二雄來ル 早速工場バランスニツキ協議シ岡崎へノ返事ヲ商議其他打合セ夕食
後帰ル

◆◆42ページ◆◆ 昭和2(1927)年2月7日(月)

天気 晴

時事 大正天皇御大葬

今日ハ川辺君ト學校ノ方針ヲ定メルベク九時頃川辺宅ニ行ツタガマダ床ノ中ニ居タ。コ
レカラ御大葬ヲ拝シダ 學校部ノモノヲ連レテ行クトノ事デ話シモ出來ズ。其内大口ト
福永ガ來タノデ宅ニ帰り滑走機ノ車輪ヲツケテ仕上ル事ノ相談ヲ受ケル 兎三角マト
メテヤルコトニシ大口モ來テ差(ママ)圖ヲスル事、金工ハ自分デ作ルコト等ヲ約ス 晝食
ヲ共ニス

川辺ト松田ヲ連レテ拝觀ニ行クコトニツキ船橋署長自カラ來場 遠慮シテ欲シイトノコ
トニ川辺ヲ呼び結局ヤメサセルコトニス

電通機ニ時頃代々木ニ飛行ス 終ツテ、西田ト工場改革問題ニ稲垣ト佐野ニツキ相談
ヤハリ稲垣ニ意好(ママ)ナク、タゞ佐野ノ立場ヲ考慮シナイト、変ニ出ラレルト困ルトノ
コトデアツタ 之レモ又皆ト同感ノ様デアツタ

昨夜八朝五時頃迄眠レナカッタノデ今夜八早く床ニ入ル

▲▼43ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月8日(火)

天気晴

終日在所

▲▼44ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月9日(水)

天気晴

上京 手紙田辺氏ニ渡ス 知覧君ニ明日金渡シテ貰フコトニナル
局ニテ課長ニ決算報告ヲナス 尚將來ノコト工場改革ノ件佐野ノ立場等ニツキ課長ノ
意見モアリ伺ッテ居ク

▲▼45ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月10日(木)

天気晴

上京 神田事ム所ニテ知覧君ト会フ 日歩十五錢ニテ残り三千百八十五円小切手ヲ
貰ッテ來タガ横線ヲ引イテアッタノデ取消シテ貰フ 晝食後橋本善買物ノ爲メ上京
時二時 橋本国來ラズ 田中帰ラズ 明日休日ニツキ工場工賃支拂ヲナス爲メ橋本国
來津スル様云ヒツケテ帰ル
馬詰甲ニ検査通過 アブロ発分解 内部検メノ由

▲▼46ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月11日(金)

天気晴

上京 一時丁度時間ヲ計ッテ香川佐太郎氏訪問 磯部氏ト門口デ會フ。遅レテ知覧
君來 用件ハ磯部氏ノ案デアアル分工場ヲ利用シテ拂下ヲ受ケタイコト。出資ハ香川氏
友人ノ伊藤ト云フ金物商ガ金ヲ出ス由。次第二本所ヲ株式組織ニ發展セシムルコトニツ
キ相談アリ 幣(マ)所ノ現状ヲ話シ十五万円程ノ買収ナラ應ジ得ル旨ヲ語り会社創
立ニ必要ナル材料ヲ提借スルコトトス。尚モ一ツ東京輕井沢間ノ連絡飛行ノ予算書ヲ
作ルコト等デアッタ 三時辭シテ知覧君ト、谷田サンヲ訪問シタガ、アイニク風デ一週
間程引イテ休ンデ居ラレルトノコトデアッタ 東京泊リ

▲▼47ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月12日(土)

天気 晴

十一時局ニ行き検査ノコトヲ打合せヲシ、木材ヲ買物ヲシテ天華商会ニ行き田中ト會ヒ共ニ家ヲ見ニ行ク 思タヨリ、キタナク床ノ間ガナイノニ非(ママ)觀シタ。敷五百家賃百ニマケセルコトニ決定シテ分レテ帰ル

▲▼48ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月13日(日)

天気 晴

時事 信越方面大雪ニテ倒壊家屋死傷多シ 最大二丈一尺 四十年來ノ大雪ナリト井上長一、有田喜代平、佐渡島、竹島、中山へ発信
午後佐野ヲ呼ビ稲垣ニ工場マカセルコト 佐野ハ表面東京勤務トシテ明日、全般ニ発表スルコト、月二三回出勤スレバヨイコト等ヲ話シ本人モ稲垣ニヤツテ貰イタイ希望アツタトノコトデ円満解決 後チ写真ノ焼付ナドナス

▲▼49ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月14日(月)

天気 晴

稲毛ヨリ母本日ヨリ來ル
今朝一同ヲ事ム所ニヨビ稲垣君ニ工場ヲマカセルコトニツキ取上渡シ佐野ト引繼ギヲナス

▲▼50ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月15日(火)

天気 小雨

終日在所 芝入氏一人來場 発乙種トキマル
本日ヨリ賄井ニナス
夜田中來 敷金六百円家賃百十円ヨリマケヌトノコトデアッタ

▲▼51ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月16日(水)

天気 曇少雨

上京 局ニテ検査ノ事ヲ依頼シ明朝馬詰君ヲ訪問ノコトヲ打電シテ東京ニ泊ル

▲▼52ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月17日(木)

天気 晴風強シ

局ヲ才検査ノ打合せヲオナス

十時半馬詰宅ヲ訪問 甲三カアブロ借受ケノ件交渉 一ヶ所百円ノ借賃。二ヶ所目ヨリ七十円ニテ約束ス 二機ノ堪航書ヲ貰ヒ、晝食ノ馳走ニナリ帰途小樽新聞ニヨル 丁度坂中、平野、本田三氏ニ會フ 來京中ニ解決ヲ乞フコトトシ次回ノ会見ヲ知ラセテ貰フコトトシテ帰ル

▲▼53ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月18日(金)

天気 晴

午前中引越シノ準備ヲナシ正午ヨリ上京 銀坐ニ行ク 田中來ラズ 話シテ聞ケバニ十日迄居ルトノコト スデニ家内ヤ小供モモウ來ル時該(ママ)デアリ自動車ニテ來ルノデ田中ニ電話カケタガ居ラズ氣ヲモム。四時頃漸ク來 交渉ノ上荷造ヲ入レ今夜ハ田中宅ニ皆泊ルコトニナル。大藏家内モ泊ル

▲▼54ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月19日(土)

天気 曇リ

八時起床 志田(家主)へ電話ヲ懸ケサセルト今日中ニ引越シガ出來ルトノコト 尚村山ガ來テ居ルトノコトニ待タセテ居イテ田中君ト行ク 仕事ノ段取リヲ話シ津田沼デ作業シテ持ツテ來ル様ニ云ヒツケ材料代トシテ十円渡ス

鳥飼ニ寄り引越ノコト、菱井氏辞任ノコト佐野ノ事ヲ話シテ一時千駄ヶ谷ニ帰ル 間モナク稲垣君來。橋本來ラズ。稲垣ヨリ佐野君休職ノ件ニツキ、スデニ川辺ガシヤベッタモノノ如ク噂ガ盛ナ爲メ、万一妻君ノ耳ニ這入ルト悪イトノコトヲ氣ニシテ居タノデ月曜日佐野ニ事務所ニ來ル様ニ事ツケル。尚廿一日ノ拂下橋本善ヲ出張セシムベク明日上京ノコトトス

橋本国五時頃來 七時ノ汽車デ家内ト共ニ出發スルトノコト 不在中ノコトトシテ西尾ノ金受取ルコト 朝日同ジク、聞ク

七時半銀坐ニ行ク 田中、稲垣共ニ夜荷物ノ方付大方終ル 十二時床ニツク

▲▼55ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月20日(日)

天気 曇リ

終日方付モノヲオノナス

▲▼56ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月21日(月)

天気 曇少雪

昨夜一時ヨリヨク眠レズ 八時半起床。十時航空局ニ出頭 課長ニ引越シノコトヲ話し小樽ト解決ニツキ課長ニ発動機モラジエターモ取レナドト云ツテ居タ。後チ小樽ニ電話スル 野中昨夜帰樽シタ由

馬詰君來 引越第一ノ來客デアリ且ツ三日前ニ御馳走ニナツタノデニ階デ馳走ス。鳥飼氏來 酒屋ヤ魚屋ヲ紹介シテ呉レタ 知覧君モ來タ

橋本善カスミケ浦出張。佐野來 所沢ヘヤリ、夕方帰ル 東京ヘ旅費受取出來ナイカラ月二三日顔出シサエスレバヨイコト、清算ノ方ハ引次ギガ、スンダラ津田沼デ出來ル仕事ダカラト云フコトト解雇云々ハ決シテシナイカラ安神(ママ)スル様ニ云ツテ居ク 田中ト明日ヨリ活動ノ打合セヲナス

▲▼57ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月22日(火)

天気 大雪

今冬二回目ノ大雪 夕方迫降り五六寸ツモル

朝井上長一君來 二時間程話シ川西ト朝日ノ立場ニツキ川西ニ氣ノ毒ヲ話シヲ聞ク。

田中ノ死ニ対シ思ヒナシカ元氣ガナカッタ。金ノ事モ云ヒ出シニクカッタ

午後約東ニヨリ石戸辨ゴ土ヲ訪問シタガ二時間程待ツテ会エズ 朝日ニヨリ帰宅

夜電燈線ナド買ヒニ行ク

▲▼58ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月23日(水)

天気 晴

移轉以來初メテ朝日ガサシタ 非常ニアタ、カイ

大蔵來 夕食中家内入籍ニツキ兄ガ不服ナレバ自分出張説得サセテヤルカラト云ツテヤツタガ尚決シナカッタ

今村妹上京 迎ヘノ爲メ上京ス

▲▼59ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月24日(木)

天気 晴

田中田中ノ葬式ニ出張

自分局ニ行ク 西尾ノ分請求書出セトノコトデアッタ

知覧君ト報知ヘ行ツタガ高田氏会議中 会エズ

電話千五百三十番ニ決定ス

菊地貞來店 奉天ヤマトホテルニテ川畑氏ヨリノ電報持参 中島トニユポール金州渡五

千円ツ、アト二式四台二ヶ月以内金州渡シ 手金三分ノ一 ヨケレバ二週間以内ニ契約スルトノコト スグ返電ス 開店以來初福音 午後川辺君來 夕食後銀ブラヲナシ泊ル

▲▼60ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月25日(金)

天気 曇リ

局ニ出頭ツイデニ課長ニ奉天ヨリノ電報ヲ見セテ諒解ヲ得 但シ表面課長知ラザルコト勿論ノコト 西尾ノ請求書委任状不備ノ爲メツヒニ本日提出出來ズ大ニ弱ツタ 川辺夕方帰ル 夜七時床ニ這入ツタガ数回ノ電話ト田中ガ寄タノデヤハリ十一時頃ニナツタ

▲▼61ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月26日(土)

天気 曇リ少雨

午後大口付添ヒ母ト信太郎以下三人共來ル 急ニ賑ニナツタ 松屋ニ行ニ行ツタ信太郎マイ子ニナリ出口デベソヲカイテ居タ由 本日佐野出勤 局電通ニ使ス 日本製麻旧價十年据居キ 十二年賦ニ交渉成立ス 電通八日支拂日ノ爲メ金ニナラズ、家賃ニ差支ヲ生ズ

▲▼62ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月27日(日)

天気 晴後雨

木下十一時十五分前ニツキ二時十五分前帰ル 不在 置手紙ス 帰社稲垣、大蔵居ル 工場事ムニツキ打合セ夕刻帰ル

▲▼63ページ▲▼ 昭和2(1927)年2月28日(月)

天気 晴

朝日ニ行キシモ不在 佐野荻野氏自宅へ繪持參セシム 鈴木來店 小樽ヨリ來テ呉レトノ話シアリ 本人モ行キタシトノコトナレドモ今日ノ學校ト小樽ノ關係上又々永田ノニノ舞ヲ演ズルコトトナルベク自分ニ應マカセル様ニ話シ袴田氏ト會見スル事トス

横山氏夫妻來店 川辺同道 川辺夕食後帰ル 愛子一人泊ル

▲▼64ページ▲▼ 3月

- 一 小樽新聞解決
- 二 金融ト債務整理
- 三 ライトプレーン速(ママ)進

▲▼65ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月1日(火)

天気晴

金ノ這入ル處ナク工場小材料ヤ小遣ニモ困ルベク心痛。朝日へ十年式ノ殘金取りニ行ツタガ案シタ通り久松氏ガ遣ッテシマッテ居タノデ貰エズ
午後飛行協会へ久シ振りニ行ツタ。來月競技会ノ打合せ会 馬詰、宗里、片岡、川辺、日本飛行學校ト自分

▲▼66ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月2日(水)

天気晴

竹中ノアブロニテ金融ヲスベク佐野帰リニ竹中へ立寄ラセル
大毎十年式ニ式ニツキ相談スベク日日へ二度行ツタガ会エズ
朝鳥飼氏ニ行キ二三日五十円借ル 内三十円工場渡 十円家内渡 十円自分

▲▼67ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月3日(木)

天気晴

材料購入ニツキ金策ニ苦心 今日ハマダヨイ案モ出ナカッタ
竹中來ラズ。夕方田中ト相談 之レモマトマラズ
今日ハ又大失敗ヲ演ジタ 自分デ少シ頭ガドウカナッタノカト心配シタ。ソレハ大毎ニ今度ニ式三型ガ拂下ニナッタモノト思ヒ込ミニ二度ト日日ニ行キツヒニ吉田君ヤ福知君ト會見 局補助金ダケデ整備サセテ呉レト依頼シタコトデアッタ。ヨク調べルト拂下ハ出テ居ナイノデアッタ
夜夕食後徳治トエミ子ヲ連レテ銀ブラシテ床ニ入ル

▲▼68ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月4日(金)

天気曇り雪

航空局金下ラズ 竹中ヨリ五百円借り大ニタスカル 工場へ二百円 佐野三十三円 田中へ借りタ分五十円返ス

福知氏來 内ノモノ稲垣大蔵田中共ニ行ツタノデ非常ニ金ガカ、ツタ上、田中ガヨッパラテ羽太氏ニ失禮ノコトアリ 金ヲ使ツテ馬鹿ヲ見タ。田中モマダ、未成品デアル

▲▼70ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月5日(土)

天気 曇リ

終日在宅 田中ソレデモ今日ハ出勤シテ來タ 非常ニ恐縮シテ居タ

▲▼70ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月6日(日)

天気 晴

朝塗料ノ注文書ヲ發送シテ金属ノ出入ヲ考へ後チ外出 七時帰宅 夜店デ小供ノスリツ。パト金槌ヲ求ム

▲▼71ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月7日(月)

天気 晴

時事 夕方六時半奥丹後ニ地震アリ 大坂モ相當被害アリタル由 號外出ズ

今日ハ大分急(ママ)ガシカッタ 千早商会イヨ、裁判所へ提出シタ 今日通知來ル。岡崎デナイカト心配シタガ先ヅヨカッタ

午後一寸買物ニ出テ佐藤(寄ル) 久シ振りデ会ツタ

昨夜カラ大分御氣(ママ)嫌ノ悪カッタ妻ハ今日ハ朝起キズ小供ノ世話ヲサセラレタ 終日不快

夜徳治ヲ連レテ銀坐ヲ歩キ入學用ノ服ヲ求メル

帰ルト稲垣氏事ム打合ニ來テ居タ 丁度立川カラ所沢へ行ツタ菊地モ帰ツテ居タ ローソノピンノ事ヲ話ス

▲▼72ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月8日(火)

天気 晴小雨

時事 奥丹後ノ地震ハ一昨年ノモノヨリ大ニシテ死傷多大 一村全滅ノ處多シ

今日ハ事務ニイソガシカッタ

午後局ニ行ツタガ誰レモ居ラズ早川氏トシバラク話シ盛岡ノ件ニツイテモ話ガ出タ 格納庫ハ使ガ金ノ出處ガナイ機デデモドウカシテヤツテ貰イタイ旨ヲ述べテ居ク

田中今日ハ所沢ニ行ク 夕方帰ル
倉島君ニ手傳ツテ貰フ

▲▼73ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月9日(水)

天気 風雨

徳治泰明小學校入學領知書ヲ区长宛返信ス

千早商会ノ件ニツキ満尾氏訪問 裁判所ヘ行ツテ不在トノコト 午後三時以後帰ル由ナルモ風雨ハゲシク明日ニス

航空局ニテ明日天気ナラ森川氏津田沼ヘ行ツテ呉レルノコトデアッタ。瓦斯器具ヲ丸ビルデ求メ帰リニ汗ヲカイタ。コレデ妻ノ氣(ママ)嫌ガイクラカヨクナッタラシイ 實際病氣デアアルラシイガ今日迄口ヲ聞カナイノデ分ラナカッタ 冠木氏ニ電話カケ様ト思ッタガ電話ガナカッタ

田中次木ヲ三百円ニマケ五月二百五十円 八月二百五十円デスマセル事ニナッタトノコト 宜シイ

▲▼74ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月10日(木)

天気 晴

朝三菱ヨリ電話アリ 田中來ルノヲ待ツタガ二時半漸ク來ル 松岡辨ゴ士二千早ノ件依頼シニヨッタトノコト。丁度満尾氏ニ手紙ヲ持タセテヤッタ處デアッタガ後チ電話デ中止ス

橋本国雄各務ヶ原ニ出張ノ爲メ來ル 夕食ヲ共ニス

▲▼75ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月11日(金)

天気 晴

十二月ノ清算表ヲ作ル 七百余円ノ欠損デアッタ

朝旦代來 午後川辺來 學校ノ方針ニツキ協議 意見ノ一致ヲ見ル 夕食後帰ル 内燃機ヨリ電話アリ 三時後藤及藤田氏ト会见 小樽ノ方ヲ金テ受取ル様ニシテ全テ入レテ貰イタイトノコトデアッタ 四日決算ニツキ月半頃迄ニ最(ママ)非方付テホシイトノコトデアッタ

▲▼76ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月12日(土)

天気 晴

今日ハ終日少シノ羽布ノ金デ頭ヲナヤマシタ

兎ニ角田中ノ金ヲ融通ノ外今ノ頃通ナク夕方手明キノ節田中ニ自分ノ將來ノ包(ママ)負ヲ述ベテ彼レノ意見ヲ聞ク。彼レハ將來學校部ヲ自分ノ手ニ納メテ大ニヤリタイトノ希望ヲモラシテ居タ 差當リ彼レノ家ヲ低(ママ)當ニ二万円程融通シテ工場ノ融資ニ當テタイトノコトデアッタノデ、一寸其事ノ止ムナキコトヲ依頼シ会社整理ノ上金ハ自分で作り返済ノ方針ヲ述ベタガ彼レハ二十五年賦位デ勸業アタリカラ融通スルツモリダトノコトデアッタ 後チ融通ノ方法ニツキ一人デ考ヘル 即チ借金トスルカ出資トスルカノ問題デアッタガ借金トスル方両方共ヨイ事ト思ワレタ

夜信太郎ヲ連レテ稲垣氏來 夕食ヲ共ニス

吉田君ヨリ百五十円程申込ミアリ。止ムナク車輪ヲ融通スルコトトシ計算書ト領収書ヲ出ス

▲▼77ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月13日(日)

天気 雪

一昨日出シタト云フ稲垣ノ手紙今朝着 二枚張ツタ永イ手紙デアッタ。中ニハシヤクサワル事モ大分書イテアッタガ、コレダケノコトヲ書面デモ云ヒ得ルモノハヤハリ稲垣デアアル。中ニハ見當違イノコトモアッタガ兎ニ角注意ヲ呼び起ス上ニヨイモノデアアルカラ今後モ寛大ニ注意ヲ受入レテヤル方ガヨイト考ヘタ

▲▼78ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月14日(月)

天気 晴後曇リ

佐野出勤 熊倉來 内金七十五円受取ル。小樽ヨリ残金百〇六円入 之レデ麻羽布ヲ買フコトトシテ帝麻ヘ注文

本日雪ノ爲メ電話不通ニテ閉口 夕方直ル

夜田中ト十時半迄会談 給八十円ト定メル

▲▼79ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月15日(火)

天気 雨

局ヘ二回行ツタ

朝木下ヨリ電話カヽリ妻不氣(ママ)嫌ニテ閉口ス

麻布着 佐野持ツテ帰ル

吉田氏夜五十円届ケテ呉レル

▲▼80ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月16日(水)

天気 曇り

今日ハ終日洋服デクラシタ 何ンダ内ニジツトシテ居ラレナイ様ナ氣ガシテ局ト大川、
香川氏ト出テ歩イタ

今月支拂ノ予算ヲ作ルベク今日ハ出來ナカッタ

北海タイムスノ機体補助金ノ件學校三型同上早川氏ノ領(ママ)解ヲ得

▲▼81ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月17日(木)

天気 曇り

今日ハ局ヘ行ツタリ櫛部氏ニ會ツタリ協会ヘ行ツタリカナリイソガシカッタ

夕方四時頃津田沼ヨリ小火ヲ出シタノデ町ノ人ヲサワガセタカラ來テ呉レトノコトニ
上京シテ居タ大蔵、佐野、田中ヲ連レテ行ク。橋本ガ顔面ニケガシテスツカリホータイ
シテ居タノデ一寸驚イタ

今夜田中ハ東京ヘ帰シ自分ハ泊ル

▲▼82ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月18日(金)

天気 曇後晴

午前七時半稲垣君來タ 感心ニ早イ 食後十時頃追色々工場ニツキ希望ヤラ相談ヲ
ナシ、川辺君ニ會ヒ金ノ件ヲタノム。中村某來 少時川辺君等トオツキ合シテ帰京 木
ノ下ニ一寸立寄り、日本自動車ニ鳥飼氏ニ塗料 機ハ買上ニツキ懇談ス。來客ガアツタ
ノデ依頼シテ帰ル。永田ヘ手紙出ス

河原木ノ体格検査ノ件ニツキ 田中軍醫ガ丁度田中ノ近所ナノデ今夜懇談ニヤル
田中ニ収支予定表ヲ提示 借リテ行クトテ持ツテ帰ル

▲▼83ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月19日(土)

天気 曇夜雨

大友村山來 外廻ヲ終ル

局ニ行ク 午後電通上田氏ニ會フ 話シヨシ

田中ニ局ノ書類ヲ書カセタガ駄目デヤハリ外ニ出テ働ク男ニ出來テ居ル

鳥飼氏ニ行キ菱井氏ノ件ヲ聞キ學校ノ事ヲ話シ双方諒解ス 尚田中ノ件ニツキ一寸話
シテ居ク 夜稲垣來。

▲▼84ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月20日(日)

天気 雪

午前中ノ雨ガ午後吹雪トナル

二時半頃村山大友ノ作業終ル 牛肉ニテ食事ヲナシ五時頃帰ル。夜七時頃床ニツク

▲▼85ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月21日(月)

天気 晴

八時起床 朝食後香川氏ト明日ノ打合せヲナス

藤田四国ヨリ帰ル 金爲替ニシタノデ明日取ルトノコト 午前中ヲ約ス。電話ニテベニヤ板ヲ求メ十二時過ギヨリ鳥飼氏ヲ訪問。塗料サイド付ノ件ニツキ懇談 依頼シテ帰途木下ニヨリ六時頃帰宅 大蔵ト金太郎ガ待ツテ居タ 大蔵明日出発スルニツキ船橋カラ行クトノコトニ海濱學校ノ金ガ帰ツテ來タトノコトニ之レヲ聞ニ合セルコトニス 後チ今日買ツタベニヤヲ事ム所ト台所ノ間ニ取付ケ十時床ニツク 就床前香川氏川辺正ヨリ電話アリ 明日ノ所沢行打合せ

▲▼86ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月22日(火)

天気 晴

時事 村井銀行休業

朝局ニ行キ帰宅シテ見ルト村井銀行休業ノ爲メ拂下資本家伊藤氏ハ金ガナクナツテ行ケナイトノ事

晝頃香川氏來 特ニコトツテニ來ラレタ 大ニ弱ツタガスグ鳥飼ニ行キ話ス 丁度五百円ダケ銀行ガアブナイノデ引出シテ居ルノガアルトノコトデ廿五日晝迄ノ約束デ借リル事ニシテ一安心ス 川辺所沢ニテ待ツ 朝日ニ行キ今日ノ所沢行キヲ中止ス 藤田午前來 式百円受取ル。アンドリユースニ三十円受入ス

▲▼87ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月23日(水)

天気 晴

七時清平同道鳥飼ニヨリ五百円受取り所沢ニ出張

局員事ム所ニテ荒井氏等ヲ待ツ。相羽、福永、遠藤、川辺、朝日、御原、本所、商人トノ対策ヲ講シ四十台千七百三十四円五十錢ニ入札 旭氏名議(ママ)ニナス 落札商人ハ千四百五十円込入レテ居タ 予定價格ハ千六百円デ丁度ヨカッタ

晝食ハ旭、岡崎川辺君等ト共ニス。イスパノ三百取ルノニ大分骨ヲ折ツタ。橋本宅ニテ少

休後六時半ニテ帰途ニツク 車中川辺君ニ金二三百円廿五日晝迄ニ作ル様依頼シ、尚田中トノ問題ニツキ話シ中大塚ニツキ川辺下車。帰宅夕食後床ニツク 車輪ニ一通リ目ヲ通ス

▲▼88ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月24日(木)

天気 晴

早朝中村カラ御伺ヒスルカラト云フ電話ガアッタ 心待チニシタガ、ツヒニ來ナカッタ。宮本來テ呉レトノ手紙デアッタガ行ケズ 電話カケタガ会エナカッタ

鳥飼氏電話デ千四百円借リルニツキ手續キニ來ル。午後田中少シ貸ス。日本自動車鳥海ヘ夕方ヤル 午前中日本製麻へ行ク

朝日ト日日ニ行キ不在 協会ニテ模型ノ大□二十分ノ一デ五十円平均 十分ノ一デ百五十円平均ニ口頭ニテ予算ス。木曜会ニ一寸臨ミ三時頃帰リ一月分記帳ヲナス 信太郎、君子本日修業式ヲ終リ上京ス。食事ノ時ナド大サワギデアッタ 學校ノ試験明日ヨリ初マルニ受檢ノ自信アルモノニ名ヨリナシトノコト 大二奮(ママ)慨ス 鈴木其爲メ上京シナガラ電話一ツ懸ケテ來ズ川辺君ニ注意ス。且代百五十円持参ス

▲▼89ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月25日(金)

天気 晴

局出頭セシモ宗里甲一來月延シシロトノコトニガツカリス

午後田中知合ノ帝麻大橋氏照(ママ)介ノ岡田麻布店主來 顔ヲ見ルト見覺エガアルノデ変ダト思ツテ居タラ何シノコト島田武男君ノ叔父サンデアッタ

夜ラジオノ部品ヲ求メバリカンヲ買ツテ帰リ自分ノ散髪ヲナス

朝河原木來 五十円持参 合計川辺君ヨリ二百円入 宗里氏來 四十五円受取ル

▲▼90ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月26日(土)

天気 雨

局ニ行ク帰リニ電通ニヨリ櫛部上田氏ニ面会 見積書提出 鳥飼ニヨリ金残り式百五十円ノ事ハリヲナシ朝日ニ行キ日日ニヨツテ帰ル

▲▼91ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月27日(日)

天気 晴

井上其他金ノ請求ヲ出ス

晝前佐野、橋本、稲垣來 食後田中來 大蔵夕方帰ル 廿六日迄ノ約束ヲタテニ、ツヒニ飛バスニ帰ツテ來タトノコト キツイ奴ダ

馬詰ヨリ電話デ急ニ家内ヲ国ニ帰スノデニ三十円入ルノデ借りタイトノコト アイニク十五円シカナイノデ十円ダケ貸スコトニシタ 十時過ぎ取りニ來タ

▲▼92ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月28日(月)

天気 晴

分工場分横山補助金八百五十円下ル 之レガ使途ニツキ田中、橋本ト協議ノ上塗料ノ爲メニ日本自動車会社手形落スコトニ決定シ田中ヲヤル 橋本ノ方式百五十円ヨリ渡セズ 丸山入宮帰郷ノ爲メ百円渡ス

夕方馬詰來 例ニヨリ永イ事シヤベテ帰ル 其爲メ夕食オソクナル 橋本ツヒニ泊ル 川辺ニ機関學生ニツキ協議ス 皆ト相談ノ上返事スルトノ事 朝日ニテ芝口立替ノ保証金旭君ヨリ受取ル

▲▼93ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月29日(火)

天気 晴

電通上田氏ツヒニ面会出來ズ 今夜自宅訪問ヲナサンカト思ツタガ規率(ママ)ノ正シキ人ヲシイトノコトニ明朝出社時間ヲ計ニ行クコトニス

朝日へ小遣ヒ取りニ行ツタガ久松氏不在

▲▼94ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月30日(水)

天気 曇リ少雨

朝津田沼カラ電話ガ來タ 村山ノ父死亡シタトノコト 外ニ三打合せ。

馬詰來 十円貸シノ分受取ル 外ニ明日所沢出張分五円入

河村ノ母ト要チヤン來 久シ振りデアッタ 晝食後何ニカ、ヤラネバナラヌノデ朝日へ會テ貰ヒニ行ツテ居ル内ニ帰ツテシマッタ 佐野ニ五円事傳テヤル

夜所沢出張ノ爲メ大蔵ト機関士ノ件打合セノ爲メ稲垣來 工場ト學校アマリニ、ヘダタリ過ギル感アリ ドウモ川辺モ工場ノモノモ感情ニノミ走ツテ面白クナイ

▲▼95ページ▲▼ 昭和2(1927)年3月31日(木)

天気 晴

早朝起床 七時十分ニ上田氏宅ニツク マダ寢テ居ラレタ 二十分程マツ。種々懇談
二日カ四日ニ会議ガアルカラ其節決定スルトノコトニ依頼シテカヘル 八時半 丁度清
平ト君子ガ出ル處デアッタ。大蔵東京駅迄送ツテ呉レル
家内病氣 醫師ニ行キタイト云ツタガ金ナク終日ナヤム
鈴木馬詰アブロニテ來。松田同乗 今夜泊ル。川辺氏モ夕方來ル

▲▼96ページ▲▼ 4月

一 金融
ニ ライトプレーン

▲▼97ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月1日(金)

天気 晴
時事 川西ノ宮十年式ニテ金子同乗木津川ニテ墜落焼死

▲▼98ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月2日(土)

天気 晴
毎日金ノ事ノミ心配ニナル外何ニモノモナシ
高見氏本日出発ノ予定ナルモ出発ノ報ナシ
午後久シ振リニ木ノ下ニ行ク。ケサ子四日ニ結婚スルトノコトデアッタガ祝モ出來ナイ
始末ダ 夕食後帰ル

▲▼99ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月3日(日)

天気 晴
局会計員津田沼行
朝竹中ヲ訪問 計算書提出 父不在 五日頃帰ルトノコト ガツカリス。帰途田辺商店
ニヨリ原氏田辺氏ニ会フ
本日馬詰ノ甲三蔵飛行ノ予定ノ處ガソリシタシク漏リ船橋ヨリ引返ス。夜馬詰鈴木
來

▲▼100ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月4日(月)

天気 雨

眠レバ金ニセメラレル夢バカリ

朝湯ニ行キ帰ルト竹中カラ昨日父ガ帰ッタトノ知ラセアリヤ、元氣ツク之レデ明日ノ支拂ダケ出來ル 一通リ用事ヲス(ママ)セテ竹中ニ行ク 佐野先般行ツタ時ニ補助金ノ件ニツキ拙イ事ヲ云ツテ居タラシク、アキレテシマッタ。三百五十円小切手ニテ貰フ午後朝日ニテ現金ニ取替ヘル

局ヤ電通ニ行ク 上田氏ニ引ケ時ニ行ク 四五十分待ツテヤット之レカラ會議ダトノコトデアツタ

川辺君泊ル

十日競技会ニツキ打合セアリ 川辺稲垣出席

夜川辺、信太郎ト雨ノ銀坐ニ學校ノ用品ヲ買ヒニ出カケル。徳治ノ長靴トマントモ買フ十時過ぎ就床

▲▼101ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月5日(火)

天気 風雨

今日ハ初メテノ支拂日 幸ニ皆支拂シタガ、日本製麻ノ百円ヲ延バサネバナラナカッタ電通今日モ会エズ 明早朝自宅訪問トキメテ床ニツク

川辺晝頃帰津ス

佐野出勤 協会ノ模型見本製作ヲタノム 丁度ヨイ仕事ダ

▲▼102ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月6日(水)

天気 雨

八時出カケルノヲヤメテ上田氏ニ電話スル 整備ハスルガ目下何ニカ計畫中ノモノ決定 迄待ツテ呉レトノコトデ非(ママ)觀 工場ヘ何ントモ云ツテヤリヨウガナク閉口ス 午後手紙出ス。

三菱後藤氏ヨリ電話アリ 電通ノ件ニ引懸ケ一日返事ヲ延バス 明日田中出勤前ニヨルコトニス

橋本国雄、晝來。夜稲垣來 共ニ工場金件 一人ノ立場モカワイソウデアル。菊池ナドニ三日醬油ヲメシニカケテ喰ツテ居タトノコト。樋口初メ大分今日モ午後休ンダ由至急何ントカセズバナラナイ

▲▼103ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月7日(木)

天気 曇リ少雨

竹中機体検査未了ナルモ堪航証貰フ ヤット安心

這入ル金ト色々心配シテ見タガドウニモナラズ午後、早川氏ニ大連ノ機体デナントカシテ貰フコトヲ朝日ヘ行ツテ會ツテ頼ム 兎ニ角出シテ見テ呉レ 何ントカナルダロウトノ事デアツタ。ガ差當リ明日入用ノ利子ノ金橋本ノヲ一二日融通スルツモリノガ今日大蔵省トノ關係デア受取レナカッタ。

太田喜八郎來 金融業モヤツテ居ルトノコトデアツタガスグ話スニモ來客ガ多カッタノデ明日來テ呉レル事ニス

佐野出勤 大蔵所沢行

▲▼104ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月8日(金)

天気 晴

今日ハ実ニインガシカッタ 皆金件ノミ。朝局ヘ早川氏ニ昨日依頼ノ件ニツキ書類ヲ持参 課長ト相談スル由。

午後川辺來 丁度協会カラ松田ノ奨励金ガ出ルトノコトニ早速取りニ行ツテ貰フ 弐百五十円ト電通分受取ル。之レデ利息ノタシガ出來タ

四時太田來 金融ノ件相談ス 会社ニナツテ居ルノデ一應相談シテ來ルトノ事デアツタ 明朝九時迄ニ返事スル事

久シ振りデ知覽君來

菱伊氏モ來 円満ニ話シ進ム 佐野ニ引ツギ手續キヲ取ルコト

今日ハ終日金デ頭ナヤム 信太郎發熱三十七度八分 吉セナカ本日大學ニテ監定ノ結果、ウミヲ持ツテ居ルトノコト 明日ソレヲ取ルノデ行カネバナラヌ由

高見氏大坂ヨリハガキ來ル 今明日出發ノ由

▲▼105ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月9日(土)

天気 曇リ

明日手形ノ件ニテ午前十時田辺氏銀坐ノ店ニ訪問 原氏ト田辺氏ト相談アリテ結局ノ場合原氏ノ方デモ多少都合シテ呉レルコトノ話シテ自分モ運動ノ事ニ約シテ歸ル 太田ノ返事ヲ待ツタガツヒニ來ラズ 九時頃電話ニテ主人不在ニテ午後面會ノ上返スルトノコトナリシモツヒニ返ナシ

午後朝日新聞新築披露ニ出席 徳治同伴ス。太田ノ返事ヲ急グ爲メ早ク歸ル

▲▼106ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月10日(日)

天気 曇リ

朝十時頃神田ノ田辺ニ寄り原氏ノ方都合悪ク出来ダケ作ツテ呉レトノコトデアッタ
木ノ下ニ行ク 病氣デ寢テ居タ 一時間余リ居テ帰宅 橋本善ガ帰国ノ爲メ來テ居タ
明朝出發スルトノコトデアッタ

太田ニ数回電話シタリ築地ノ店ヲ見ニヤツタガ居ラズ返事ニアイマイノ點アリ。トテモ
ダメダトアキラメル

夜田辺氏ニ行ク決極(ママ)三千円田辺氏ノ手許デア出来テ居ルガアトノ五百円トノコト
デアツタガツヒニナントモ出来ナカッタ 万事依頼ス

▲▼107ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月11日(月)

天気 曇リ

八時伯爵ニヨリ田辺商店神田ニ行ク マダ寢テ居タノデシバラク散歩シテ九時半頃ヤツ
ト皆出テ來タ。田辺氏デツヒニ全額作ツテ呉レタガ式千五百円八十七日ニドウシテモ入
用ノ金デアルト云ノデ手形ヲ一枚ニシ一枚ヲ十七日式千五百円 残り千円ヲ五月二
日トシテ書ク 利子モ入レナカッタ。今百円アルガ今日塗料ヲ引取ラネバナラヌノデス
グ川崎銀行ニ行ツタガ式千四百円ガ小切手デアツタノデ、現金ニシテ來イトノコトニ日
本橋ノ近江銀行ニ行キ佐野商店ノ判デア取ル 之レハ今日ノ手形ニ対シ融通ヲ銀行ニ
知ラセナイ爲メ。スグ引返シテ川崎ニ入レ十二時半手形ヲ受取り田辺へ見セニ行キ帰
宅 ホットス。スグアトノ金策ノ爲メ桑原君ト川内君ニ電話シタガ居ナカッタ
大蔵來ル

▲▼108ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月12日(火)

天気 晴

朝局ニ行キ帰途對馬サンニ久シ振リデ面会 挨拶シテ桑原君ニ名刺ヲ預ケテ帰ル 菱
伊氏來 昨日ノ件不調 小口ヲ集メル事ニ方針ヲアヲタメル 知覽君ヲモ一ロタノム
金件相談 有力ナロガアル様ナノデ依頼ス

飛行協会ニ立寄り谷田閣下ニ会フ

吉田君ニ小口ノ金相談 明日社カラ中借リヲ百五十円シテ呉レルコトニナリ、明日高
見氏來京ニソナエル事トス

▲▼109ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月13日(水)

天気 晴

一時頃ヨリ眠レズ 五時皆起床 八時前大蔵モ來 東京駅ニ出迎エニ行ク。自動車ニテ
帰ル 晝前大蔵帰場

午後局二行ク。日日ニテ吉田君二百五十円借りル

菱伊氏來 昨日ノ話不調 此上六百円千円位ノヲ作ル事ト方針ヲ定メ依頼ス。知覽君ニモ依頼ス

局二行ク途中桑原君ニ會ツテ一寸話シ後程來ル様ニ約束シタガ來ナカッタ。高見氏日本電氣二行キ夕方帰り深川ノ親類二行キ今夜ハ深川泊リ。御馳走ガモチニナッタノデ鳥飼氏川辺君ト會食ス

▲▼110ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月14日(木)

天気 曇リ後雨

晝前菱伊氏來 昨日ノロモダメ 非(ママ)觀シタガ最後ノ義弟ニ話シテ見ルトノ事 電話デ話シテ午後四時ニ會フ約束ヲシテ居タ 知覽君モ來ズ 電話デ五反田ダメデ明日外ノ方ノ返事ガアルトノ事デアッタ

高見氏浅川(ママ)へ参拜ニ行キツヒニ帰ラナカッタ 又深川ニ泊ッタノデアロウ

佐野來 明日カスミケ浦行 模型イソガセル

香川氏ニ面會 伊藤氏ノ方ノ事ソレトナク聞ク。尚金ノ件話ソウト思ツタガ云ヒ出セナカッタ

▲▼111ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月15日(金)

天気 風雨

菱伊ト知覽ヲ待ツタガツヒニ電話モ來ナカッタノデ午後夕方田中ヲ田辺氏へヤル 千五百円ダケ最(ママ)非作ツテ呉レトノコトデアッタトノ電話アリ

高見氏ト午後飛行協會岸野氏訪問 三時間程居タ 夜高見氏同道東朝座ニ行ク 久シ振リデ落語ヲ聞ク 高見氏ニモ氣ニ入ッタ様子デアッタ

▲▼112ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月16日(土)

天気 晴

風強シ

昨日ツヒニ返事ナク五時半菱伊訪問 ヤハリ駄目デアッタ 尚五百円ダケハ最(ママ)非ニモ作ルツモリトノコトニ依頼シ今日返事シテ貰フ事ニシテ知覽君ニ廻ル 妻君床ニツイテ居タ 之レモダメ 明日五百円ダケ一軒聞イテ返事スルトノコトデアッタ

朝日ニニユポールヲ整備サセテ貰フ事ニスベク午後訪問シタガ會エズ早川氏ニ會フ。橋本ノ分六百八十八円下附式割ヲ貰フ事ニ決ス

夜橋本佐野、田中等ト協議。九時過ぎ稲垣君來 高見氏十一時帰ル

▲▼113ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月17日(日)

天気 晴

時事 台銀問題デ御前会議アリ政府側ノ負ケトナリ内閣総辭職ス

早川氏訪問 竹中機破損ニツキ協議 願書先キニ提出スルコトス。學校問題ニツキ改革ヲ要スル旨ヲ述ベル。其他話シス 沢山アツタガ出カケラレル處ダッタノデ中止シテ雨宮氏ヲ見舞ヒ帰ル

田中橋本稻垣待ツテ居タ 雑談中高橋來会合 工場ノ職工連ガ七名給料遅延問題ニツキ來ルトノ事デアッタ。田中、橋本交渉 最後自分ガ一場ノ挨拶シテ引取ラシム
金融問題ニツキ会社ヨリ引繼ギノ件大坂側ノ領解ヲ求メル件、學校問題社團法人組織ノ件、川辺氏手ヲ切ル件、金銭出納ニ関スル件、差當リ給料内拂ニ橋本ノ分融通シ北海道ニ出張サセルコトノ件ヲ決定ス

▲▼114ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月18日(月)

天気 晴

時事 台湾銀行休業ス

局ニ検査ノ件ニテ行ク 千田氏ト課長ト話シテ居ルト思タラ一寸來テ呉レトノ事デニ菱ノ件デアッタ ヨク事情ヲ話ス 課長ハヨク知ツテ居ルノデ千田氏ニ取ナシ方ヲ依頼サレタ。ツイデニ千田氏ニ補助金ノ件原氏へ支拂フ事ヲ話シテ居ク

▲▼115ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月19日(火)

天気 晴

記事ナシ

▲▼116ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月20日(水)

天気 晴

時事 十五銀行休業 政友会内閣成立 総理田中義一、大藏高橋是清

早朝菱伊氏訪問 今日鳥飼氏ト会见ヲ依頼シ三時ヲ約シテ木下ニ行ク 今日ハブラハ、起キテ見タトノコト ズツト寝テ居タラシカッタ。今度ノ改革ノ事ヲ話シテ居ク
晝帰店 大藏ガ待ツテ居タ。十年式堪航証ノ件ニツキ協議 ツヒハ電通機ニテ行ク事ト決ス 協会ヨリ百円借り大藏ニ渡ス

六時頃菱伊氏來 鳥飼氏ト三人会见 清算人変更通知未ダナキ件ニツキ交渉 右ハ

手續キ上監査役ノ行フベキ事ニツキ今決算後鳥飼氏ノ名ニヨツテ、ヤラネバナラヌモノデアルソウダ。次ギニ報酬問題ニテ永クカ、ツタガ要スルニ、イクラデモ先キノ百ヨリ今ノ五十ト云ツタ風デアッタノデ考慮スルコトニシタ

津田沼ヨリ菊池來 家賃ガ欲シトノコトデアッタガ先日ノ決議ニヨリ出來ナカッタカワイソウデアッタガ止ムヲ得ナイノデ今ノ電車賃トシテ一円ダケヤッタ

▲▼117ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月21日(木)

天気 風雨

時事 金沢市街大火

昨日來ノ風益々ハゲシ 午後少雨アリ 夕方風夙(ママ)ダ

今朝ヤ、ユックリ初メテ高見氏ト意見ノ交換ヲナス 筑紫中将ノ肝入ニテ川西ニヤラセル以上一文ニモナナイ事ヲ覺後(ママ)セネバナラヌ。目下十年式整備ニ三千五百円借金シテ苦シミツ、アル事ヲ話ス。

高見氏小遣ナクナツタトノコトニ式十円ダケ渡ス アト何ントカ都合セネバナラヌガ吉田君カラ通達來 百五十円ノ仕(ママ)末モセネバナラナイ

今村來 北海道行ノ打合せヲナス。所沢ヨリ橋本來 職工カク首ノ件、ロンゲロンノ件ニツキ打合せ

自分ハ今日二月分ノ記帳ヲ終ル

▲▼118ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月22日(金)

天気 曇リ後晴

時事 モラトリユーム二十日間ヲ実施セラル(全国ニ) 銀行ハ東京市内全部二日間休業

七時朝食前高見氏ト同道筑紫中将訪問 川西ト協同問題ニツキ高見氏ヨリ話シアリ。川西ノ意外ニ之レ等ノ人等ニ評判ノヨイノニ驚イタ。龍三氏ガ近々上京スルカラ高見氏ニ會見セヨトノ事デアッタ。ライトプレインクラブ趣意書一通提出 説明ニ入ル前來客アリ辭ス

午後局ニ出頭後吉田氏訪問 百五十円問題ト所沢ニテ佐藤君ノ作業問題ニツキ懇談三時帰宅 川辺君ガ待ツテ居タノデ浅野ノ練習費ノ件ト、所員練習ニツキ協議ス
今夜今村、樋口音更へ出發セシム

▲▼119ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月23日(土)

天気 晴

月末近ヅケドモ何等目アテツカズ心イラダツノミ
今日ハスカツリ支拂ツテ小遣モナクナツタ

午後袴田氏ヲ待ツタノミデアッタ。學校ノ手切レノ問題及ビ鈴木ノ件ニユポールノ件等
デアッタ

夜早く寝ル

高見氏十二時帰ル

▲▼120ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月24日(日)

天気晴

終日ナヤミツ、菱伊氏ヲ待ツタガ來ラズ 夕食後來 帳簿ノ引合セラナシ、過日話シノ
横浜ノ出資者ノ件ヲ聞キ合セテ依頼ス

夜鈴木旦代來店 川辺及學校問題ニツキニ三時間意見ヲ聞ク

▲▼121ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月25日(月)

天気晴

高見氏ト航空局ニ兒玉伊セ谷両課長ニ面会 願書提出検査ノ件打合セラナス
午後朝日ニ久松氏訪問 ネピアノ件、ニユポールノ件サルノ件話ス

夜大蔵所沢橋本同道シテ帰ル 長谷川サル無事通過 大蔵スグ帰津 後橋本ト所沢
会計獨立問題及対田中ニ対シテ注意ト意見ノ交換ヲナス

▲▼122ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月26日(火)

天気晴

午前局出頭 音更ノ件其他、課長ヨリ高見氏ニツキ満州ゴロトノ見解アル如ク注意セ
ヨトノコトデアッタ 高見氏ニハ氣ノ毒デアッタ

梅田氏北島氏同道ニテ來店 樺太飛行ノ件ニツキ

▲▼123ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月27日(水)

天気晴

二月分決算 貸借合ワズ閉口

朝日新聞ニ三式ノ件ニテ行ク マトマラズ依頼シテ帰ル

木下ヨリ電話カゝル 明後日行ク旨返

津田沼ヨリ十年式熊倉分検査合格

▲▼124ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月28日(木)

天気晴

局出頭 宗里甲一願書提出

川辺小樽ヨリ帰途立寄ル 大体諒解セシモノノ如ク鈴木ノ件カバ太ニ敵視スルコトナ
ルヲ憂エルノミトノ事デアッタ 決解ノ確定的ノ事ハマダ、ハッキリシナカッタ

飛行協会ペーシエント参加手當電通機ナルガ爲メ出セナイトノコト 福岡氏ニ交渉シタ
ガ駄目

夕方日野氏來 之レ又ヘリコプターノ話シデ模型ヲ飛バシテ気焰ヲ上げテ見タガ帰りニ
一日貸シテ呉レニハコタレタ

稲垣來 橋本來ラズ 工場報告ヲ聞キ終日協議 ライトプレーンクラブ進行ニツキ稲
垣ノ意見モアッタガ新機製作ノ立場カラ最(ママ)非進行セシムルコトニ決定 十一時半
終ル

▲▼125ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月29日(金)

天気晴

今朝鳥飼ニ相談 夕方辻数回交渉 骨折ツテ貰ッタガ明日午後ニナラナイト決定シナ
イトノコトデアッタ

夕方四時頃ヨリ会議 田中六時頃來

分工場本工場金銭勘定ハ混合セザル事

今月分ノ支拂予定ヲ十日辻延期ノ事

今日ハ朝メシ一杯ノドニ通ラナカッタ

▲▼126ページ▲▼ 昭和2(1927)年4月30日(土)

天気晴

鳥飼ノ方再三行ツテ見タガ今日ハツヒニキマラズ吉田君ニツヒニ氣ノ毒ヲシテシマッタ

二度行ツタガ会エズ 三度目ニ向カラ電話ガアッタガ鳥飼ノ返事ヲ待ツ内帰宅シテシマ
ッタラシク後チニ電話シタ時ニハ居ナカッタ。イヨ、コマッタノデ高見氏三三十円借リル
アンドリユース十円デスマス

二時半菱伊氏來 佐藤氏会議ヲ開キ調節ヲ終ル

鳥飼氏六時前漸ク來 大分酒ヲノンデ、菱伊氏ノ態度ニツキヒナンシ佐藤氏調定(ママ)
デハ時讚(ママ)会

佐野給料百円ニ低下ノ件話シ不足ハ自分デ負コトヲ約ス

佐藤氏ヨリ会社善後策ニツキ合資会社又ハ組合組織ニ変更ノ件申出アリ 過日來ノ経過ヨリヤ、進ンダ案ノ様ニ思ワレタ

▲▼128ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月1日(日)

天気 晴

朝慎君ト山田君來 珍ラシイ土産物ナド呉レタ アプロ破損ノ件ニツイテハ自分ニモ大ニ責任ガアルノデ學校トノ解決ヲ引受ケル 妻君ヲ同道シテ居タ
夕方鳥飼氏ニテ二十五円借りテ木ノ下へ廿三円ヤル 夜九時頃帰ル

▲▼129ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月2日(月)

天気 晴

今日モ事務ノインガシイ日デアッタ

▲▼130ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月3日(火)

天気 雨

時事 大蔵小供男児生ル 午後四時

ヒドイ降りデアッタ 朝航空局ニ行ク

早朝大場君帰ツテ來タガ金ヲ持ツテ來ナカッタ 終日電報爲替デ來ル筈ダトノ事デ待ツテ居タガ來ナカッタ 帰ツテカラ電報ガ來タ

今日ハ非常ニインガシイ日デアッタ。田中ノ出勤ガ遅イノデ今日ダケハ、ヨイ感じハシナカッタ 午後会社ノ件稲垣へ手紙持タセテヤッタノヲ田中ニモ讀マセル。何ントカ、グヅ、ニ云ヒ出シタガ、シヤクニサワテ居タノデ心ヨク話サナカッタ

日野氏夕方ライオンカラ呼ビニ來タノデ一寸行ツタガビール一杯デ兎ニ角宅へツレテ帰ッテ食事ヲ共ニス

旭氏ヨリ下志津ノ件デ電話アリ おキンヲ津田沼へツカヒニヤルヤラ所沢カラ電話ガカ、ルヤラ随分インガシカッタ

▲▼131ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月4日(水)

天気 晴

早朝佐藤氏訪問 会社ノ件ニツキ協議 來週金曜日佐藤氏大坂へ同道シテモヨイトノコトデアッタ 帰途鳥飼ニヨル 菱伊氏ノ件ニツキ尚鳥飼氏ヨリ佐藤氏ニ交渉シテ呉レル事ニス

本日田中ツヒニ出勤セズ 昨日ノ自分ノ体(ママ)度ヲ氣ニシテノ事ト思フ マダ、若イ處ガアル

正午過ぎ橋本來 会社問題ニツキ稲垣ト協議スル必要アリ 川辺ガ丁度自動車津田沼へ帰ルノデ事傳ケル 夜食事中來 協議十一時ニ及ビ橋本泊ル 明日ノ支拂ニツキ内ノ分ダケ鳥飼ニ借入 四十五円也

▲▼132ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月5日(木)

天気晴

今日ハ支拂日ダガ何等予定ナク止ムナク、ソレゾレ諒解ヲ求ム
橋本昨夜ヨリ泊ル 自分局ニ馬詰ノ願書提出

午後朝日へ行ツタガ長舉氏居テ金ノ事云ヒ出シ得ナカッタ 三時間バカリ居タガ其内大場氏ヨリ電話ガアッタノデ帰宅

學校甲三検査ノ件ニツキ津田沼學校カラ数回電話ガアッタ

▲▼133ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月6日(金)

天気晴

朝日へ晝前ニ行ク 久松氏出カケル處デアッタノデー寸四十七号ノ件話シテ後チ三時頃行キ五百円也金受取ル ホットシタ

松岡氏來店 待ツテ居ルトノコト 帰宅 千早商会辨ゴ土ガントシテ聞カナイトノコトイツレ差押ニ來ル事トノコトデアッタ 次回ハ廿八日。会社ノ件ニツキ意見ヲ聞キ書キ留メル

晝鳥飼氏ニテ少シ会社ニツキ相談 鳥飼氏ト佐藤氏ト会见シテ貰フコトニス

▲▼134ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月7日(土)

天気晴

吉田君二百五十円返金 之レデヤット、ムネノツカエガ取レタ感ガシタ アトハ梅本ノ分ダ。帰途局ニ立寄ル

田中午後津田沼ヨリ帰ル 稲垣同道

川辺稲垣協会ニ行ク

鳥飼、佐藤両氏稲垣ト夕方ヨリ会见 九時頃揃ツテ來店 佐藤案ニ対シ鳥飼氏ニ自分ノ方針ヲ第一トスルコト 稲垣君ハイツレトモ最善ノ方針ヲヨシトスルトノコト 自分ハ昨日ノ予定ヲ同極ニ話シタガ佐藤案トノ一致點迫行カズ、尚各自ニ考慮スルコトトシテ一時散会。菊池來 泊ル

▲▼135ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月8日(日)

天気 晴

時事 各等飛行競技会

高見氏同道競技会ヲ見ニ行ク。信太郎徳治ハ鈴木ノ自動車デ先発 終日最終迄見テ朝日ノ自動車ニテ帰ル 徳治四時頃ヨリ。ペソ、泣キ出シテ困ツタガ、帰ツテカラドコカ身体ガ悪イラシカッタ 少シ熱ガアル様ナノデ寝サセル
九時十五分ニテ高見氏出発ヲ見送ル
夕方稲垣、西田、大蔵、小西等十名來 牛肉デ食事ヲ共ニス
今日ノ成績ハ日本ト東亜ノ競争デアッタ

▲▼136ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月9日(月)

天気 晴

大場二度來タガ金ツイニ來ラズ 電報ナド打ツ
佐藤鳥飼会社件ニツキ津田沼ニ行ク

夕方稲垣來 晝頃橋本來 丁度四人ヨッタノデ其上ニ鳥飼佐藤氏來 佐藤案ニテ進ムコトニ一決 十一時散会 後田中ヨリ第二案支持説出デテ審議ノ決(ママ)果今日中坐シタ鳥飼氏ヲ通シテ第二案其他ノ方法ヲ取ルコトニ佐藤氏ヲ説クコトナル 時二三時田中、稲垣、橋本泊ル

且代君朝日カラ來 川辺氏ノ來ルノヲ待ツ 午後來

慎機今ヤリカケノモノ返スルコトニ決定。金ノ問題ガ少シ行違イアリ、調査スル事トス

▲▼137ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月10日(火)

天気 晴

朝日へ行ク 森サン死亡ノ爲メ誰レモ居ナカッタ

鳥飼氏ニヨリ第二案ニツキ賛成ヲ求ム 田中来 ヲツテ説明サセル 宅ヨリ電話アリ 徳治悪イトノコトニ鳥飼氏ノ照(ママ)介ニテ藤田醫師ヲ依頼ス

別ニドコモ悪イ處ハナカッタガ、少シ腹ガ張ツテ居ル様子ナノデ下済(ママ)ヲカケテ薬ヲ貰フ

橋本午後帰ル

▲▼138ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月11日(水)

天気 晴

早朝山形カラ歌丸氏大場ヲ尋ネテ來 金一文モ持ツテ來ズ夕方ニナツテ歸ル 旅費モナイトノ事デアッタ。アキレテ物ガ云エズ。所沢カラ電話ガアッタガ積込ミヲ一時延期サセル 契約書ヲ書カセテ九時半ニテ大場君ト共ニ立タス 旅費五円貸ス
朝日ヨリ八百五十円借リル 北海道へ百円送ル。計算書キト共ニ佐野ニ三百五十円津田沼へ事傳ル 分工場へ田中百五十円持タセテヤル
昨日木下カラ電話ガアツテ二三日中ニ行ク返ヲシタノデ家内ガオコリ出シ今夜夕食障(ママ)突シタ。津田沼へ行クト云ツテ出カケタガ、眠ツテ居ル間ニ帰ツテ居タ
今日ハ信太郎ガ熱ガ出タガ夕方ヨクナツタ 徳次モ大ニヨクナツタ 明カラ學校ニ行ケルダロウガ尚一日ヤスマセルコトニシタ

▲▼139ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月12日(木)

天気 晴

午後局へ検査ノ件ニテ出頭 願書ナド提出
三月分記帳

鳥飼氏昨日佐藤氏來 負債ノ多キニ驚イタトノ事デアッタガ差引ニナツテ居ラナイカラ多イ訳デ資産モ多少アル事ヲ話ス。今日鳥飼氏ヨリ佐藤氏ニ話ストノ事デアッタガ、カスミヶ浦ニ行ツテ會エナカッタトノ事デアッタ

夜稲垣君來 事ム所打合せト大坂行御免ヲ蒙リタイトノ意見ヲモラシテ居タガ尚考慮ヲ求メル

▲▼140ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月13日(金)

天気 晴

李君ノ奨励金協会へ貰ヒニヤル。ページメントノ時ノ五十円返サネバナラナイ事ニナツテ差引サル 領収書ヲ電通ノモノヲ出セトノコトデ電通へ取リニヤルト、大蔵ノ受取ヲ呉レトノコト 馬鹿ヲシクナツタ

午後川辺來 競技会ノ分百五十円受取ル

田中大蔵ト同道稲垣ニ會ヒニ行ク 大坂行ノ件ニツキ

▲▼141ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月14日(土)

天気 雨

大雨ノ中ヲ北島氏ニ照(ママ)介サレタ塩田醫師へ行ク 流感デ外ニ悪イトコロハナイトノ事デ、ヤ、安心シタ

梅本ノ金計算書ヲ入レテ送金ノアトエ電報デ請求シテ來タ 丁度ヨカッタ
菱伊氏來 秘露ヘ飛行機ノ問題ニツキ話シアリ 濱田氏ニ會ツテ呉レトノ事デ月曜日午
前ヲ約ス

稲垣、田中、橋本、鳥飼氏來 会社問題協議 佐藤ヘ鳥飼氏ヨリ話スコトニツキ皆ニ意
(ママ)議ナキヤ否ヤヲ鳥飼氏ガタシカメテ帰ル

熊倉末吉氏來 飛行機破損シタニツキ明日稲垣氏ト同道シタイトノコトニ泊メル
大場ヨリエンジニヤコンヤ立ツトノ入電アリシモ丸山來ラズ

▲▼142ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月15日(日)

天気 晴雷雨

午前中三分記帳ス

木ノ下ニ行ク予定ガ朝鳥飼氏ガ來テオジヤン 氣ニナルガ、少シ今デハ持テアマシモノダ
ガ何ントカシテヤリタイモノダ

田中橋本來 田中夕方津田沼ヘヤル 橋本家内來ル 夕食ヲ共ニシテ帰ル

▲▼143ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月16日(月)

天気 晴

朝木ノ下ヘ行クツモリノ處富田氏ノ來ル事ヲ思ヒ出シテ中止 菱伊氏ト富田氏來 秘
露行キニツキ話シアリ 費用ノ出ルコトナラヤルト考ヘル 出費ノ方法トシテ三菱案ヲ提
示ス

午後局ヘ行ク 森川氏北海道ヨリ悪イ報告ヲモタラシテ居タノデ課長ヨリ手紙ヲ見セ
テ聞カレル 一々説明シテ諒解ヲ得。他二三會談

大場機体大破セリトノ入電夜來ル

今村カラアスタツトノコト 金ヲ大毎デペラノヲ借リテ送金スルコトニシ田中ニ明早朝送
ル様渡ス

夕食時十年振りデ加藤木型屋ノ倅來 十時頃迄遊ンデ帰ル

▲▼144ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月17日(火)

天気 晴

昨夜オソクナツタノデ今朝ハ眠カッタ 六時起床 七時出カケル

余リヨイ品ガナカッタ 入札予算ニ達セズ結局二十円買上ゲヲ百六十五円ニテ関根ニ
落札。内アプロ機体十年式機体ヲ六十円ニテ購入。ツヒデノ時迄預ケテ居クコトニス

多田中佐ニ面會 水上班ヲ見学 丁度晝時デアッタノデ三木サンニ會エナカッタ

帰りニ荒川沖デ機体ヲ見ニ行ツタノデ一汽車遅レル 十時帰宅

▲▼145ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月18日(水)

天気 雨

午後津田沼ニ行キ帰りニ寄りツモリナリシモ雨ノ爲メト川辺君來ラズ且代君ガオソク
來タノデ中止

夜アンマヲ取ル 少シ身体ガ楽ニナル

菱伊氏ノ外一名金ノ件ニテ來 神トカ云フ人ガ出ヌ由 一度津田沼ニ同行シタシトノコ
ト

鳥飼氏ニ寄ル イヨ、機明渡シデマダ引越先キガ極ラズ困ツテ居ル由。大坂行ノ件打
合セ

▲▼146ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月19日(木)

天気 晴

稲垣出張ワイヤガッタノデ今日ハ自分一人デ先キニ行コウカト思ツタガタ方幸ヒ皆集
ツタノデ協議 明日、稲垣田中ト出發スル事ニ決ス

朝日ニテ百五十円借リル。アプロ、ニユポール整備依頼ヲ受ケル。大毎八号機破損シタ
由 アト十年式急グトノコト

▲▼147ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月20日(金)

天気 晴

朝木ノ下カラ電話ガ來タ 今日大坂ヘ行クカラ帰ツテカラノ事ニ話ス

森川氏局ヘ出勤シテ居ルトノコトニ朝樋口ガ行ツテ來テ大体北海道ノ状況ガワカツテ
居タノデ局ニ行ク。アプロダケシカ甲種出セヌトノ事デアツタガ尚課長ノ裁量モアル事
ト思ツテ早川氏ニ二寸挨拶シテ帰ル。襦袢不在中ノ用件ナド、ソレ、書キノコシテ九時
十五分ニテ出發ス

名古屋ノ安藤氏今夜帰ルトノ事デアツタ

▲▼148ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月21日(土)

五時頃目醒メト云テモ目ヲ開タダケ ホトンド眠ラナカッタ 名古屋デ洗面 九時半
大坂着 帰宅 丁度兄モ居タ 入浴後中山氏ニ電話スル 三時頃面会ニ定メテ三人デ
行ク

自分ヨリ大体來意ヲツゲ稲垣氏ニ現状ヲ田中ニ今後ノ處置ヲ説サセル。中山氏モ同感
デ先ヅ

伊藤個人ニ全部ヲ借り入レニスルコト アラタメテ合資会社ニスルコト 今夜ノ營業ハ合
議ニスル事等ノ條件ニテ九分迄成効(ママ)スルダロウトノコトデアッタ。アイニク西店ノ
二番目ノ嬢サンガ今危篤ニ落入ッテ居ルノデ明朝中山氏がガ会ッテ話シタ上、九時頃電
話ヲカケルカラソノ上デ來テ呉レトノコトニ打合セテ自分ハ一人西店へ取アエズ見舞ニ行
ク スグ帰宅 夕食後アンマヲ取ルベク裏ノ宅へ行ツタガ、アンマノ公休日デ其マ、眠ル

▲▼149ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月22日(日)

天気 晴

約束ノ時刻ヨリ少シ遅レ十時頃中山氏ヨリ電話アリ 佐渡島承諾シタカラ竹島へ行ク
カラ待ツテ居テ呉レトノコト 十一時來 自分ト二人デ竹島ニ行ク 異議ナク承認 帰
宅後今後ノ方針ニツキ稲垣、田中モ参加シテ相談。菱井、鳥飼宛手紙ヲ書イテ貰ッテ
晝食後分レル。スグ東京、津田沼、所沢へ打電 午後ハ各自自由行動トシ明日一日見
学日トシテ自分ハ宅ニ居ル 稲垣友人ニ行キ田中兄ノ宅ニ行ク
昨夜モ今夜モ二人ハダンスホールニ出懸ケテ一時過ギ帰ル

▲▼150ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月23日(月)

天気 晴

稲垣京都市 自分田中ヲ連レテ堺見学 井上ノ案内デ仁徳天皇御陵ニ参拝 晝食ニ
帰り一時ヨリ木津川ニ行キ、ドルニエーワールノ組立ヲ見テ平松君ト話シ西田ノ格納
庫ニヨリ帰途四時過ギ佐渡島ニ挨拶ニ寄り一時間程話シテ中山ハ一寸立寄り帰宅 稲
垣ノ帰りオンカッタガ鈴木ガ朝日ノ中島君ニ同乗シテ來タ。裏ノ内デ皆デ鯛トハモノ、
スキ焼キデ御馳走ニナリ十時十分發ニテ帰京ノ途ニツク 汽車ハカナリコンデ居タ

▲▼151ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月24日(火)

天気 雨

田中浜松下車 静岡辺ヨリ降雨 田中ニ関シ稲垣ヨリ話シアリ 自分ノ意見ヲ述ベ余
リ増長セシメヌ様頭ヲオサエル事ヲ打合セル。學校問題モ一寸話シニ出タガ決定ヲ見ナ
カッタ

十一時新橋下車 晝食後鳥飼ニ行キ報告後稲垣帰津

橋本國横須賀行帰途立寄ル 大坂ノ模様ヲ話ス 今朝行ガケニ、百円届イテ行ク。津
田沼ヨリ電話アリ 泉屋事ワレヌトノコトニ右ノ内八十円稲垣ニ持タセテヤル

▲▼152ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月25日(水)

天気晴

菱伊氏富田氏來場 日秘飛行ノ件計画書ト予算書ヲ作ル 五万円ヲ要スル事トナリ
一寸驚ク
夜稻垣大蔵、川辺君ノ件ニツキ來

▲▼153ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月26日(木)

天気晴

朝北島氏訪問 丁度出カケラレル處デアッタノデ玄関ト途中デ話シテ金件 千円程月
未依頼ス
小樽袴田氏來 野中同道甲三ノ件
川辺夕方來 學校問題協議 川辺トシテハ、シリゾク事ハ勿論異議ハナイガ準備ニ一ケ
年位ノ時機ヲ借リタイトノコトデアッタガ今後ノ方針ニツキ自分モ個人的ニ大ニ努力ス
ル事トヲ話シ尚明日相談スル事トス。
局ヘ行ツテ佐藤、秋田ニ立寄ッタガ不在 二三買物シテ田中ニ津田沼ヘ持タセテヤル

▲▼154ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月27日(金)

天気晴

朝局ニ行ク
太田廣雄君ニ久シ振リデ会フ イス。パノ三百バンクガイド修理ヲタノム
四時半ヨリ九段偕行社ニテ第一会(ママ)航空懇談会アリ 坂谷男、局長、船越氏、海
軍航空本部長、田中館、田丸博士其他約七十余名 盛会デアッタ。太平洋横断飛行
ガ大分話題ニノボル 帰途大雨ニ會フ 九時帰ル

▲▼155ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月28日(土)

天気晴

三月分決算終了
朝マダ起キナイ内ニ旭川ノ村上五平ノ弟來 金ノ請求アリ 來月五日頃帰ルトノ事ニ
其頃一度寄ツテ貰フコトニス
鈴木菊雄小樽ヘヤルコトニツキ袴田氏來 條件等取キメル 吉田君カラ落ツイテ話シタ
イ事ガアルトノ事 曙ニ行ク 氏ガ社ヲ止メタイトノ事デノ相談デアッタ。満州ノ事ト

社協会ノ事等ヲ話シタガ結局尚考慮スル様注意ラシテ居ク
丁度稲垣ガ來タノデ鈴木練習ノ事ニ関シ大蔵ガ何ントカ云フダロウト思ツタノデ稲垣
ヨリ、ヨク諒解サセルコトヲ話シタガ、稲垣ハ大蔵ノ反感ガ意外ニ大キク或ハコレガ爲メ、
大蔵ガ身ヲ引クト云フダロウト云ツテ居タ

▲▼156ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月29日(日)

天気 晴

立川ノ帰り稲垣ト大蔵寄ル 鈴木練習ノ件ニツキ大蔵ヨリ反対意見アリ。コトゴトク
小供ガダブコネル様ナ取ルニ足ラヌ感情問題ノミデアツタ。色々云ヒ聞カセテ考ルト
云ツテ帰ツタガ此際稲垣君ノ取ツタ、處置ハ大ニ自分ノ意ニ充タナカッタ。必境(ママ)稲
垣ガ中間ノ勞ヲ取ルベキニ、全然其事ナクムシロボウ觀ト云フヨリ昨日ノ口振りヨリス
レバムシロ稲垣ガ中傷シヤシナイカト、ウタガワレル點ガアツタ

▲▼157ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月30日(月)

天気 晴

橋本国ヨリ帰ル 三千五百円作ツテ來タ

明日期日ノモノガアルノデ早朝北島氏ヲ訪問シタガツヒニ出來ズ。予備策トシテ取ツテ
居イタ。朝日四十七号追加ヲ書キ出シテ三百八十円二十二銭受取ル 三百五十円ヲ
入帳 橋本ヨリ百七十円借り田中ニ津田沼へ入金ニヤル

鈴木ノ件ニツキ橋本、田中ノ意見ヲ聴収(ママ)ス

夜小西、竹中來 機体登録ノ件、見本ヲ渡シテ時間デアッタノデ九時十分ニテ出發
午前西店次女死亡ノ電報アリ 明日葬式ノ由

▲▼158ページ▲▼ 昭和2(1927)年5月31日(火)

九時四十分着 円タクニテ帰宅 晝迄眠ル

晝食後兄ト香奠ヲ取ラナイトノコトニ見舞品ヲ持ツテ行ク。予定通シ式ヲ終リ五時、
阿部(ママ)野ニ送り帰店シテ回(ママ)葬ノ礼状發送ヲ終リ夕食ノ馳走ヲ受ケ八時頃辭
シテ、兄ト心濟(ママ)橋通リヲ南海迄歩キ帰宅ス

▲▼160ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月1日(水)

天気 晴

兄ト温泉ニ行キ九時頃ヨリ堺ニ行ク 丁度井上居リ五十円受取ル 千田氏伊藤氏一

等試験ニ來テ居ラレタ 晝食ヲ共ニス
其足デ中山氏訪問 西店へ來テ呉レトノコトニ行ク 伊藤個人会社ヨリ譲リ受ケ、更ニ
佐渡島、竹島ニ譲リ後チ新会社ニ出資ノ事ニ決定 承認ヲ得
夜十時十分ニ乗ル

◆▼161ページ◆▼ 昭和2(1927)年6月2日(木)

天気 晴

十一時十三分丁度新橋下車 土産物ヲ分ケテ持タセテ帰ス。スグ帰宅。今村ガ丁度
北海道カラ帰ツタ處デアッタ 夜帰津ス
三十一日丁度金間ニ合ツタトノコトデアッタ
鈴木マダ練習セズ。結局破損シタ場合ニ小樽ニ負擔サセル事ニシテ呉レトノ要求アリ。
実ニヒネクレタ人間ニモ困ツタモノデアル。尚田中ニ機体ノ部分品デ大蔵ガカスミガ浦
デ貰ツテ來タモノヲ、ハズスナド取ツタトノ事デアルガ実ニ、アワレニモカワイソウナモノ
デアル。小供ニハ教育スベキモノダ

◆▼162ページ◆▼ 昭和2(1927)年6月3日(金)

天気 曇リ晴

午前鈴木來 試験ノ模様ト其後ノ状況ヲ聞ク。心ニ反感ハ持ツテ居ルダロウガ少シモ外
ニ、アラワサナイ處ハ大蔵ヨリタシカニ一枚上ダ
午後小樽ニ行キ甲式三型契約 同時ニ鈴木試験ニ関シ破損ノ場合ニ等分負擔ノ事 本
田氏責任ヲ持ツコト口約ス
日日ニ吉田君ヲ訪ヒ十年式補助金ノ件請求
今日ハ夕方自分ノミ三十七回タン生ヲ祝シテ小供等ト食事ニオゴル
アンマヲ取ツタラ十時半頃來テ十二時半ニ帰ル アト眠レズ
木下ヨリ熊谷ニ一泊ノ予定デア行クトノ電話アリ

◆▼163ページ◆▼ 昭和2(1927)年6月4日(土)

天気 晴

津田沼行 久シ振リデアッタノデ停留所附近ガ大分變ツテ居タ。昨日夕方大坂ノ春
海來 十年式ヲ買フカ協同デアリタイトノコト。協同ノ事ニ相談促シテ鈴木ノ練習事
ヲル事トナル

芋屋ノ内儀死去 丁度今ガ葬式ナノデ参列

川辺明日上京スルトノコトデアッタ

帰りニ木下ニヨッタガマダ帰ツテ居ナカッタ 九時帰宅

大蔵ニ此度ノ件ニツキ大蔵ノ主張ヲ通シテヤッタノデ其代リ春海ノ方ハ絶対的ニ早速取極メヲ要スル事、ソレハ所長ノ面目ヲ立ツル上ニ最(ママ)非決行スベク約ス

▲▼164ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月5日(日)

天気 大雨

午後二時頃菱伊氏來 会社清算ノ件。工場成立タセル爲メ最(ママ)非至急譲リ渡シヲ実行シテ貰フ事 清算ハ其後ノ問題トスルコトヲクレ、依頼シ一二日中ニ菱伊氏決定返事ノ事

後鈴木ト大森ノ袴田氏訪問 十年式ノ件ニツキ遺憾ノ意ヲ表シ、海軍ニテ練習ノコトニホシ事キメル

▲▼165ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月6日(月)

天気 晴

時事 米チエンバンレン氏ニユークヨリ大西洋横断 伯林近ク迄四千哩ヲ四十四時間半ニテ飛行 リンドバークノレコードヲ破ル

八時起床 鈴木菊來 十時過ぎ局ニ行ク 森川氏不在 馬詰機ノ堪航証ヲ写シ、鈴木十年式練習ノ件ニツキ別府少佐ニ依頼 一等試験ハ三型ニテ九日決行ノコト

早川氏ヨリ鈴木給料ノ件話シアリ 課長ニモ事ワリヲ云フ 尚鈴木小樽行キニツキ挨拶ス

諸拂ヒヲナス。田中午後二時過ぎ出勤 夜早出ヲ進ム。

夜菊池、橋本來 練習ノ件 工場組織変更後ヤラセル事。十二時眠ル 午後伊藤完成 本州一週(ママ)飛行計畫書ヲ作ツテヤル 夕方迄カ、ル

▲▼166ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月7日(火)

天気 晴

局、朝日鳥飼行 横浜行 夜九時帰宅

▲▼167ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月8日(水)

天気 晴

早朝横浜行 徳永氏ニ工場改革ノ件ヲ話シ百円内入レテアト注文ス

上倉ト橋本來。四百円現金渡ス アト明日所沢ニテ渡シ長谷川ノ委任状返シテ貰フコ

トニス

菱伊氏來 清算引繼ギノ打合せ。兎ニ角シヤニムニ引繼ギ急イデ貰フ事ヲ強要ス

▲▼1688ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月9日(木)

天気晴

今朝柳氏ニ行ク予定ノ處昨日所沢へ芝入氏検査ニ行ツテ呉レナカッタトノ事デ局トノ打合せノ爲メ柳氏ハ明朝ニ延バス

稲垣君來 事ム打合せ。橋本ト菊地ノ問題、金太郎計算ノ問題ニツキ橋本女ノ件ハ敵ニイマシムルコト 尚止マザレバ自分ヨリ説クコト 金太郎会社ヲ事ム所ニテ一二ヶ月ヤツテ見ルコト

川辺來 學校問題川辺時日問題ヲ固ク主張シ尚直接デハ話シニシクイカラ人ヲ入レテ呉レトノコトデアッタガ、自分ハホッシナイノデ尚交渉ノ余地ヲノコシテ、菱伊氏ガ來タノデ中止ス。菱伊氏ニ堪航証書下書キヲ作製。右ニツキ佐渡島竹島、中山、秋田、
■藤、■ダケ手形ニテ渡シト殘金免助(ママ)ノ契約書ヲ作ル事ノ要求アリ。次ギニ菱伊ノ手當問題ニツキ、最後ノ方法トシテ長屋ヲ譲リ受ケタイトノ希望ヲ出シテ居タノト、給料ハ何物ヲ居イテモ請求權ノアルコトヲ主張シテ居タノデヤ、免(ママ)倒ト思タ

稲垣大倉春海ニ行ク 今日取引スルトノコトデアッタガ月末ニシテ呉レトノコトデアッタ由。先ヅンシナモノダ

▲▼1699ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月10日(金)

天気晴

久シク心ニ掛ケテ居タ柳氏ヲ訪問 高度計ノ禮ヲ述べ会談 一時間程デ帰ル
午後竹中ノ葬儀ニ行ク プロペラ應用ノ花環ハ一寸ヨカッタ 別府氏ヨリ鈴木ガ來タラヨツテ呉レトノコトデアッタガ來ナカッタノデ三時出カケル處へ菱伊氏來 三時半局ニ行ク。モウ別府氏居ラナカッタ

今夜大坂行キノバシ明朝ノ汽車ニス

阿部氏ヨリ大蔵ヲツキト所沢ノ仕事ノ出來バエニツキ掛塚ト、比較シテノ話アリ。

大蔵ノ處置ニツキ菊池ノ病氣ヲナオシ、課長ニタノンデ航空会社ガ出來タラ入レテヤル事ニシヤウト決心ス

▲▼1700ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月11日(土)

天気晴

津田沼其他ノ用件ヲ手紙ニ書キ八時半宅ヲ出テ鳥飼ニ立寄り九時四十五分發三等
特急ニ乗ル 車中講談クラブヲ讀ミ四時過ぎ晝タヲ兼ネテ食堂ニ入り九時五十分大
坂着 円タクニテ帰宅 伊勢ヨリ一郎ガ來テ居タ
アンマヲ取り床ニツク

▲▼171ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月12日(日)

天気晴

八時頃中山氏訪問 同道シテ佐渡島ニ行キ協議ノ決(ママ)果査提(ママ)金額デ買ツテ
ヤロウトノ事ニナリ一度中山氏へ引上げ、合資会社ノ定款ヲ作ル。考フルニ菱伊氏ヲ招
イテ一氣ニ決定 報酬問題モ方付ケルニ大坂へ呼ブニカギルト思ツタノデ打電シテタ
方六時前東京ノ宅へ電話カケル。日曜デ如何カト思ツタガ、田中ガ來テ居タノデス
菱伊ニ大坂へ來ル様ニ傳ヘサセル

▲▼172ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月13日(月)

天気晴

十一時半菱伊氏ヲ向エ帰宅 井沢氏ノ葬儀デ四時頃迄宅ニ居リ中山氏ニ行ク 五時
半頃帰ル。菊水ト云フノエ行キ打合せ契約書ヲ作ル事トナル 夕食ヲ共ニシ十時頃帰
宅

▲▼173ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月14日(火)

天気晴

八時菊水ニ行ク 菱伊氏マダ床ノ中。中山ヨリ店員ヲ借り契約書ヲ作製 二時頃迄
カゝル

佐渡島不在 夕方帰ルトノ事ニ六時迄菊水ニテ待ツ 帰ラズ 戎橋ノかき春ニ行キタ
食 中山氏モ呼ブ コヽニテ菱伊氏ノ報酬問題ニツキ、今日計算ノ中デ差引スベキ本
分家賃七百五十円ヲ三倉其他及ビ菱伊氏報酬ニ充當スルコト アトノ事ハ二千円ノ予
算ガ残シテアルノデ機体其他ニテ整理ツキ次第計算スル事トシ諒解ナル 九時佐渡島
ニ行キ会见 ヨカロウトノコトデ先ヅ菱伊氏ノ判ヲ取り中山氏自分ト押シ佐渡島竹島
ハ明日貰ツテ自分ガ持ツテ帰ル事トス
十時十分ニテ菱伊氏立ツ

▲▼174ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月15日(水)

天気 曇り雨

八時半中山氏同道佐渡島行き 賣買契約書ニ判ヲ貫ヒ竹島ニ行き同ジク判ヲ貫ヒ一端中山氏宅ニ帰り新会社定款ヲ作製 再度西店ニ同道 之レハ少シ考ヘテ居タガ、別ニ異論ナク押シテ呉レタ アト又妹娘ノ病氣ニツキ話シガアッタ。コンドハ自分一人デ竹島へ行き新会社ノ判ヲ貫ヒ手形ノ書替ヲナシ古イ分ヲ受取ル。大毎福知氏ニ電話ニテ話シス。判ノヌケタ處ガアッタノデ二度中山氏、佐渡島ニ行き判ヲ貫フ 尚会社へ資産ノ引ツギニツキ中山氏ニ相談ノ結果登記後再ビ今度ノ買受人カラ会社へ賣渡シニスルコトニ決定ス

夜九時十分ニ才出奔

今日ハ大ニツカレタ

▲▼175ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月16日(木)

天気 雨

十七 不在中ノ整理

十八 協議会及判取り

十九 会社設立手續キ

廿日 々

廿一 大坂行

廿二 賣渡シ判取り

廿三 帰京

廿四 借入交渉

廿五 々

廿六 々 終り

五時半 記帳

々 々

々 々

々 々

々 々

々 々

々 々

々 々

々 々

▲▼176ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月17日(金)

天気 曇り少晴

十二時帰宅 馬詰吉田、梅田諸氏來

手紙数通アリ 高見氏ノ分 荒木ノモノモアリタリ

夕食吉田氏ト共ニス

食後信太郎徳治ヲ連レテ銀ブラヲ行フ

午後鳥飼ニ行き経過報告

▲▼177ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月18日(土)

天気 曇り

馬詰來 又協会ニ対スル気焰ヲ上ゲテ居タ ドウモ近來課長ニ接近シテ協会ニ對抗スル
氣勢ノアル事ハ面白クナイ

稲垣午後來 夕方橋本國來 大坂ノ経過報告ヲ行フ 後チ食事ヲ共ニス 会計ニツキ
稲垣、橋本ヨリ意見アリ 何ニカ自分ガ公私混同ニ居ルヤノ言分ニ聞エ頗ル不快デアッ
タ 今日ハタゞ意見ヲ聞クノミニ止ム

大藏大坂ヨリ春海〇スنداتノ入電アリ皆嬉(ママ)ブ 自分ガ之レニ対シ當然ノ事デア
ルト云ツタニ対シ多少阿(ママ)然トシタ様デアツタガアノ行懸リ上大藏トシテ飛行後デア
ナケレバ金ガ取レヌトハ、大藏ノ広言ニ対シ、シノベナイ事デアツタニ、チガイナイノデア
ルカラ當然ノ帰結デアレデ大藏ノ面目モ立チ自分ノ面目モ立ツタ訳デアル

▲▼178ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月19日(日)

天気 晴曇

終日記帳 四月分ホトンド終ル

菱伊氏來 佐渡島竹島ノ手形中山自分ノ領収書ヲ渡ス 秋田ノ手形及領収書ヲ事ツ
ケル

▲▼179ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月20日(月)

天気 晴

局ニ行ク 検査ノ件 早川氏ヨリシヨネ練習ノ件ニツキ話シアリタリ 尚会社組織ノ件
ニツキ懇談シタク明日夕方行クコトヲ約ス

且代來 川辺ノ事ヲヨク聞ク 一同ガ生死ヲ共ニスルナドハ、ウソ 山田ハ止メタク且代
モ仕方ナシ。秋田、米山ハ外ニ道ガナイ爲メノ止ムヲ得ズラシ。且代トシテハ川辺君ノ飛
行界隱退ヲ希望ノ由

三田君ヨリ七号機ノ分三百〇四円請求 貳百円受取ル 鳥飼三十三円返シ内へ二十
円ヤル。高見氏自動車分鈴木へ五十円渡ス

▲▼180ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月21日(火)

天気 晴

早朝立川行き 飯島君ヨリ慎クレルジ―部品購入

東西定期ニヨリ木下氏ニ會フ

石川島ノ飛行機ヲ見タカッタガ時間ガナカッタ

酒井君ト同道ニテ帰京 千早商会ノ件ニツキ三十日出頭ノ事ヲ謝ス

佐野ニ会社書類判ヲ押サセ全部終了
中山氏來京 夜スグ帰ラル。ツヒデニ中山氏ヲ總代トシテ合資会社資産ノ賣渡書ヲ作
リ判ヲ貰フ 十時半駅迄送ル

▲▼181ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月22日(水)

天気晴

本年ハツヒニ空梅雨ラシク盛夏ハ猛烈ナ熱サニモナル事ダロウトノ事
夕方早川氏訪問 会社組織変更ノ件ヲ話シ學校問題ニツキ学校ヲ廃止 希望者ニハ教
ヘル位ノ程度ニスル事トスル旨諒解ヲ得。朝日ノ状況、金州飛行場、東京国際飛行場等
ニツキ氏ヨリ話シアリ 共ニ將來有利ニ進ミツ、アル事ヲ自覚ス。氏ハ自分ガ話シガアル
ト云ツタ時全然止メルノカト思ツタ。モシソレナラモ少シヤル辛棒(ママ)スル様ニ注(ママ)
告仕様ト思タトノ事デアッタ 一時間半ホドデ帰ル
大蔵來 泊ル

▲▼182ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月23日(木)

天気晴

橋本国雄來 大勢居ル時木下ヨリ電話アリ
合資会社登記手續キニ田中ヲヤル 明日出來ル筈
午後二時ヨリ航空懇談会アリ 半蔵門前デ朝日ノ自動車ニ會ヒ同乗シテ行ク。大(ママ)
平洋問題デ大分賑ヤカデアッタ 相羽馬詰ノ急進派ト、官憲ノ自重派ト大体ニ様ニ
見ラレタ。後チ新旧航空局長ノ送迎宴ニウツリ六時頃散会。立花良介君來会 相羽
其他旧友相会シ会談仕様トノ事ニナリ、一度帝国ホテルニ引上ゲ立花君ノ用件終ルヲ
待ツテ先ヅ東京唯一ノダンスホールヲ立花君ガ見セロトテ日米ビルニ行キ少時ノ後チ
京橋都スシノ立喰カラ、タイガー、千疋屋ライオント馬詰、相羽宗里、自分 ライオン
デハ、坂東、道永外協会ノ二人モ加ワリ又大(ママ)平洋問題ニ花ガサキ相羽ト坂東ノ
議論アリ 最後ニ自分ノ意見ヲ發表シテ散会 十二時帰宅
宗里君ヨリ學校ノ生徒問題ニツキ話シアリ。今後ノ方針ヲ打明ケ諒解ヲ得

▲▼183ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月24日(金)

天気晴

終日記帳 五月分

清水來 家屋届工場分持タセテヤル

夕方加藤靈動術ノ先生ヲ連レテ來ル 小供皆ヤル

夕食ヲシテ帰ル

▲▼184ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月25日(土)

天気 雨後曇リ

鳥飼ヨリ學校問題ト金融問題ニツキ協議 津田沼ニ行ク 工場ニテ打合せ 學校廃止
ライトプレーンクラブ速(ママ)進ノ件 稲垣モ散(ママ)成。川辺へ行ツタガ來客アリ 共
ニドコカエ出タトノコトデ明日上京ノ節寄ツテ貰フコトトシテ辭ス
大蔵ニテ稲垣ト夕食ヲ共ニス。今日ハJ O A K初メテノ舞台放送ヲ聞イタガ駄目デアッ
タ

▲▼185ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月26日(日)

天気 曇リ

午前中五月分記帳

午後森川氏新築ヲ祝スル爲メニ訪問 自分等ノヤ、理想ニ近い建築デアッタガ、マ
ダ、完成ニハ致(ママ)ラナカッタ

小樽タイムスノ件、懸賞設計ノ件、製作補助ノ件ニツキ意見ヲ聞ク 又意見ヲ述ベル
四時帰宅 川辺來テ居タガ來客ヤゴタ、デ夕食ヲ共ニシ、話シヲ仕様ト思フ内川辺
君ノ處ノ件デ水口へ行カネバナラストノコトデ明日ニス

▲▼186ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月27日(月)

終日五月分ノ決算ヲナス

▲▼187ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月28日(火)

天気 晴

橋本善同道霞ヶ浦行 車中井上下會フ 九時半着 多田サンニ會ヒ高木商会ニ行キダ
イヤーヲ聞イタガナカッタノデ色々話シノ末土地ノ事ヲクワシク聞ク。世話ヲシテ呉レ
ルトノ事デアッタ

拂下手續キヲ終リ三時ニテ帰ル 金町下車。コケヲ取りニ廻リ八時半帰宅

▲▼188ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月29日(水)

天気 晴

朝稲垣ノ父ヨリ電話アリ 一昨日船橋ヨリ帰り後チ発熱 入院ヲ要ストノコト。取アエズ田中ヲヤル 稲垣ヨリ速達ニテ船橋ニテ格(ママ)血シタノデ帰宅 又一回格(ママ)血非常ニ残念ダガ永クナル様ナラ辭職スルナドト悲觀的ナ事ガ書イテアッタ。
午前決算書ヲ作製 十一時前鳥飼ニ行ク 今後ノ事ドモニツキ協議
川辺氏昨夜オソク泊リ今朝書類デ川辺氏ニ學校解散案ヲ出ス 考慮ト相談ノ爲メ今日ハ何等意見ヲ聞カズ
午後橋本來 學校廃止ライトプレインクラブニ進行ノ事ヲ話ス
夜大蔵ト菊池來ル

▲▼189ページ▲▼ 昭和2(1927)年6月30日(木)

天気晴

朝局ニ行ツタガ会議デ誰レモ居ラズ一度帰宅 一寸箱庭ニ木ヲ植エテ仕舞フ
大蔵、橋本、菊池、佐野四名デ稲垣見舞ニ行ツタ
後正午局ニ行キ検査ノ件ヲ打合セ協会ニ行キ模型ノ金三百円受取り木曜会ニ初メテ出席シテ終ヒ退居タ 後朝日ニ顔ヲ出シテ帰宅
田中今夜大坂へ定款書キ直シノ判ヲ貰ヒニヤル

▲▼190ページ▲▼ 7月

一 合資会社登記

一 金融

一 軽飛行機クラブ速(ママ)進

▲▼191ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月1日(金)

天気晴

四時半起床 六時十五分津田沼着 皆ノ出勤振リヲ見ル
非常ニ成績ガヨカッタ。サスガ稲垣デアル
橋本正午帰ル 馬車六台到着 運賃即支拂
菊池弟辭職申出アリ 止メサセル
夕方大蔵、西田、今村、菊池ヲ集メ四名ノ合議制度トシテ代表者ヲ大蔵、大蔵事故アル時ハ菊池ト定メ稲垣君直ル迄時々日時ヲ定メ自分ガ見ニ行クコトニス
八時帰宅 加藤ガ來テ居タ。吉田君カラ例ノ伊藤ノサル見積リ明朝迄ニ社へ届ケテ呉レトノコトニスグ見積リヲ作ル。クタブレタ

▲▼1926ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月2日(土)

天気 晴

大場甲三試飛行ノ爲メ大蔵所沢出張

机ノ整理 一三手紙ノ返事ヲ書ク

近來家内又ヒステリー初マリ面白カラズ

稲垣夕方九段坂病院ニ入院

大蔵所沢ヨリ帰途立寄り夕食後帰ル

夕方高田治作來 川辺君ニ頼マレタラシク自分ノ意向ヲ聞キニ來ル 大分コウフンシテ

居ルトノ事デアッタ 何シノ爲メニ治作如キヲ間ニ入レルカ誠ニ困ツタ人ダ

▲▼1936ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月3日(日)

天気 晴

夕方一寸出テ居ル間ニ川辺カラ電話ガアリ高田ヲ立合(ママ)人トスルカラ僕ニモ誰レカ

一人頼ンデ時ト場所ヲ極メ会ヒタイトノ事デアッタ。イヨ、ノ事ヲ大キクスル様ナモノ

ダ。他人ヲ頼メバ自分自身ニ益々不利益デアル事ヲ知ラナイラシイ

終日五分記帳

田中ヨリ何等通知ナク遅延ヲ恐ル

▲▼1946ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月4日(月)

天気 曇リ雨

田中ヨリ書類來ル

大場山形ニ出發ス 夕食ヲ共ニス

學校問題ノ経過鳥飼ニ一應電話ニテ話シ居ク

今日八家内ノ低気圧ヤ、カンワサル

▲▼1956ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月5日(火)

天気 雨

六時頃佐藤ニ行キ定款ニ判ヲモライ、カスミヶ浦學校問題ニツキ相談シ秋田ニテ同ジク

判ヲ貰ヒ諸拂ヒヲナシ午後津田沼ニ行ク

恵美子同伴 夕方泣キ出シテ止マラズ困ツタ

◆▼196ページ◆▲ 昭和2(1927)年7月6日(水)

天気 曇雨

大蔵大坂飛行ヲ明日午後出發立川泊リ 八日大坂行ノ予定決定
九時半ノ休ミニ工場全員ヲ集メ稲垣休場中ノ件ニツキ注意ヲ與フ

正午恵美子ヲ起シ川辺ニ立寄り停留所ニテエミ子ヲ待チ午後一時帰店 朝日ノ二式見
積書ヲ作り三百五十円借リル

局ニ電話ニテ明日大場ノマグネット打合セラナス

勝津田沼へ呼び手紙渡ス

浅野夕方來 百三十円渡ス 明日帰ル由

◆▼197ページ◆▲ 昭和2(1927)年7月7日(木)

天気 雨

朝局ニ行キ天気ニ成リ次第検査ノ事ヲクレ、依頼シ其他打合セ事項 帰宅後鳥飼ニ
行キ、登記後スグ金融速(ママ)進ノコトヲ依頼ス。(三十円)電話ノ價ガ下ガッタノデ鳥
飼氏ノ融通金千四百円ノ内二百円ニテ入レナケレバナライノデ、イクラデモ有レバト
ノ事三十円ダケ渡ス。吉田君ニ電話カケタガマダ出社セズ 一時頃ヨリ工場へ行ク
丁度海軍ノ依託生ガ見学ニ來テ居ル處デアッタ

◆▼198ページ◆▲ 昭和2(1927)年7月8日(金)

天気 雨

六時半起床 今日モ雨 九時頃大シテ降ライノデ局へ電話シ午後坂本氏ニ來テ貰フ
竹中、慎、藤田、アブロ皆済ム。帰り六時半過ギル 夕食ヲ共ニシ、車中打解ケタ話シ
シテ帰ル

昨日川辺君ニ今日会ヒタイ旨申込デ居イタガ今朝五時頃上京シタトノ事。ウソラシ
カツタガ手紙ヲ書イテ帰リニ松田ニ渡シテ居ク

◆▼199ページ◆▲ 昭和2(1927)年7月9日(土)

天気 晴

思ヒ懸ケナイ好晴 八時半新宿發ニ乗ル 朝日社員外ニ大分エライ人が多カッタ 谷田
閣下ハ甲府迄行カレルソウダ

ドルニエー十回バカリ御客ヲ乗セテ飛ブソウダ 上空デハ楽ソウダガ離陸ガ中々骨ガ折
レソウダッタ

本田氏ニ会フ 通信省員ガ一番ニ來タノデ局長モイヤ、來タソウダ
二時新宿着 浜名氏ト同道御宅ニ行ク 夕方帰宅

▲▼200ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月10日(日)

天気晴

今日ハ手紙ヤ明日ノ予定ナド雑用ノ外小供ノ教育用具ヤ信太郎ノ模型ナド作ルノニ
終日終ル

昨日ノビールガタツテ今日ハ一日腹工合ガ悪ルカッタガ夕方ナオッタ
家内モ昨日カラ醫者ニ行ツテ居ルソウダガ今日ハ少シ元気ラシカッタガ例ノヤキモチデ
ヨワラセラレル

▲▼201ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月11日(月)

天気晴

今日ハ終日雑用デ急(ママ)ガシイ思ヒラシタ
局申請書ヤ奨励金ノ実費書ヲ作ツタリ局ヤ朝日、日日、鳥飼ニ行クナドデツヒニ三時
頃ニナリ工場行キヲ明朝ニシタ

所沢カラ三度電話ガカ、ッタ

夕食時鈴木菊雄來 明日福井へ立ツ由

就床後家内ノヒスニナヤマサレ一時半二時頃迄ツヒニ眠レナカッタ

背中ノハレモノヲ手術シナケバナナイトノ事デアッタ 尚六〇六号ノ注謝(ママ)ヲス
ルトノ事デ、ソレガ自分ノ女道楽ノ爲メトシテウルサク云ヒツノツテ困ツタ

洋傘ノ話シモ出タ 洋傘ダケハ最(ママ)非早ク買ツテヤリタイト思ツタ

田中晝、出勤オンクジリ、シタ

▲▼202ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月12日(火)

天気晴

四時半起床 不在中ノ用件デ書キ残シタ事ヲ書キ五時十分出ル 市電ノ間ガ悪ク押
上迄五十分カ、ル 京成ハスグ出テ三十五分デ津田沼着 丁度時間前ニ着ク 事ム所ニ
ハ今村ガ、チャントシテ居タ 仕事モヨク進ンデ居タ

昨日熊久君ガ來テ今日最(ママ)非來ルトノコトデ見積ヤ計算ヲシテ待ツタガツヒニ來ナ
カッタ 九時頃久穴浜ノ主催者ガ來タガ、ツヒニ夕方宿ニツクトテ帰ツタ 佐渡屋ヲ教
エル

▲▼203ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月13日(水)

天気 晴

今日ハ仕事ガナク、タイクツデアッタ

熊倉ヲ尋ネテ來タ人等又來タガ熊倉ヨリ手紙アリ 四五日來ラレヌトノコトニ歸ツタ
川辺へ十時頃行キ川辺ノ意見ヲ聞ク 結局一年待ツテ呉レト云フコトニナツタ 期間問
題ニツキ自分モ尚考慮スルコトトシテ歸所 夕方川辺ト食事ヲ共ニス
山本練習生ヨリアブロー一台買ツテ呉レトノ事デアッタ

▲▼204ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月14日(木)

天気 晴

皆ノ出勤後朝食 八時出ル スグ帰宅 局提出書類ヲ作製 竹中電話ニテアブロノ借
リ(ママ)コト及賣ルコトノ相談ヲナス 朝日ニ中元持参

夕方鳥飼氏ニ電話 平本ノ方不調ニナツタトノコトアリ 聞ケバ初メカラ大學卒業生ヲ
入レル事ノ條件付キニアツタトノ事 何ソノ事カ
然シ之レガ対策ガ大変ダ モウアト半月シカナイノダカラ。今日ノ處明日岡崎へ交渉
ノ事ノ打合セラナス 橋本国、田中会合 學校ヲ最(ママ)非ヤリタイ田中ノ意見デ自
分ハライトプレーン 両者ユズラズ、モノ分レニナル

▲▼205ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月15日(金)

天気 晴

鳥飼ニ行キ平本ノ手紙ヲ見ル 結局第二段ノ方策ニ氏自身ニモ速急取カ、ルトノ事デ
アッタ

銀行ニヨリ家内ニ五十円渡ス 成程カナリヒドイ洋傘デアッタ 十一時工場着 辻本
氏スデニ來場。野田町飛行モ無事終了シテ居タガ鈴木ガ野田行ヲシヤベタノデ諒解ヲ
求メテ居ク 三時検査ヲ終ツタノデ共ニ初メ稲毛へ連レテ行ク予定デアッタガ、市川ニ
ナリ東京ニナリツヒデニ上野ノ丸万ニ行ク

▲▼206ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月16日(土)

天気 曇 頗晴

降ルカト思ツタガ晴レタ 二時半大蔵西田帰ル

夕方菊池今村ナドト夕食ヲ共ニス

今日ハ六月分ノ記帳大ニカドル

▲▼207ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月17日(日)

天気晴

六時起床 食事ヲセズ橋本ニ荷物ヲ駅迄ハコバセ途中ニ一所ニ行ク。ソレ迄橋本ニ種々注意ヲ與ヘル 川辺ニヨリ寢テ居タノヲ起シ學校問題ニツキ協同事業ハ先月切リトシ今月ヨリ川辺個人経営トスルコト 差シ當リアブロー機工場デ引キ取ル事 期間問題ハナルベク縮小スルコトトシアトハ旦代君帰ッテカラ清算ヲ行ヒ協議ヲナス事トス
九時帰宅 アトヨリ大蔵來 晝頃今村菊池モ來ル
午後二時頃ヨリ四時頃迄大蔵ト二人デ稻垣見舞。上平閣下ノ令嬢モ御見舞ス

本年最初ノ暑サ九十二度

▲▼208ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月18日(月)

天気晴

炎熱ハゲシ 朝大蔵ト局行キ
正午香川日野両氏ト会フ 後日日、飛行協会鳥飼ニヨリ帰宅
帳簿記入ヤ願書ヲ書ク
家内ノ氣(ママ)嫌ヤ、ヨシ

▲▼209ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月19日(火)

天気晴

熱サニ負ケテ出ラレナカッタ 終日記帳 六月分ヲ終ル
三時頃田中出。三菱後藤氏ニ會ヒ九日頃ニ整理ノ事ヲ事ワッタトノコト 岡崎ハ工場圖面ヲ出シテ呉レトノ事デ金融ヤ、見込ミアルラシカッタ 尚丁度対馬氏ニ面会 想(ママ)談スル事ト外ニ三打合セ夕食後工場行キ
今日ハドウシタカ入浴後白粉ヲ付ケテ居タ イツモヨリイクラカキレイニ見エタ、ガタ方カラ出カケタノデ、変ニ氣ヲ廻シテ居ルラシク、ロヲ聞カナカッタ

▲▼210ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月20日(水)

天気晴

六時四十分工場ニ出ル。検査ヲ明日ヤツテ貰フベク電話ヲカケサセタガ、懸ラナカッタサル組立プレシ乗ル。慎発動機運轉大体ヨシ 全速ニテ少シ震動アリ

昨日川辺ト大蔵又ヤッタトノコト 昨日ノ事八川辺ガ米山カタレカノ告口ヲ聞イテ飛
ビ出シテ來タラシカッタ。今日會フツモリデ見ニヤッタラ上京スルトノコトデアッタ

▲▼211ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月21日(木)

天気晴

十時前帰宅 手紙其他ノ用ヲスマセ

一時半ヨリ懇談会ニ出席 安達堅造氏ノ欧州航空路ノ話シアリ。其他今日ハナニモナ
ク太平洋ノタノ字モ出ズモノタリナカッタ

日日ニ吉田羽太氏ト会ヒ五時東京會館ニ出席。大蔵モ來 廿四日。パラシユート夜間降
下飛行ニ関スル新聞記者招待会 九時頃帰宅

家内日記帳ヲ見テ又文句アリ ツヒニ二時過ギニ及ビ眠レズ閉口ス

▲▼212ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月22日(金)

天気晴

六時五十分新宿發ニテ立川行 木下氏訪問 丁度隊ノ格納庫へ行ツテ居ラレタノデ電
話デ帰ツテ貰ヒ、廿四日飛行ノ件 サル發動機トアトノ分 翼其他送ツテ貰フコト等ノ
諒解ヲ得テ九時九分ニ所沢へ廻リ十年式整備其他ニ打合せテ近藤、木下氏等ニ会ヒ
帰宅 三時半 片岡ガ來テ居テ、アプロ其他十台程千五百円位ヅ、デホシイトノ事デ
アツタ

電通櫛部氏來 其他用件田中ニ命ジ早ク床ニツイタガ熱イノデ、ツヒ二十時半迄眠レ
ズ氷マクラヲヤッタリイロ、シタ

▲▼213ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月23日(土)

天気晴

今日モ暑イ暑イ日デアツタ

四時起床 暑イ爲メカ早朝デモカナリ乗り手ガアツテ七時五分津田沼着 少シオクレ
タ

明日ノ飛行準備ノ爲メ七時五分ヨリ、竹中アプロニテ飛行 七時半終ル イルミネーシ
ヨンハキレイデアツタ 橋本善ヨリカスミヶ浦ノ件ニツキ六百円位ナラ叔父カラ借りテ來
ルカラ早く約束シテ自分上野ヲヤツテ呉レトノ話シアリ 佐野ヲ頭ニスル事モ嬉(ママン
デ居ルシ其爲メニ六練習ナド一年ヤ延ビテモ差支ナク上野ナド練習シナクテモヨイ程ニ
熱心ノ由

▲▼214ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月24日(日)

天気 雨

朝食後川辺ニ立寄り帰宅。決算ノ予定ナリシモ頭マトマラズ終日遊ブ

▲▼215ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月25日(月)

天気 雨

決算ヲ行フ 所沢ヨリ決算表來ル

田中ニテ鳥飼氏ノ問題ニツキノレガ出來ナケレバ金策ガ出來ナイトカ、ヤレナイト云ヒ出シタノデ大きニ、シヤクニサワツタ。絶対ニ、ノゾク事ハ出來ナイトキツパリ謝絶ス

▲▼216ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月26日(火)

天気 曇リ晴

早朝出發 工場行き 女工ノ手不足ニ閉口

山本ヨリ竹中アブロ千式百円ニテ買度シトノ申出デアリ。竹中ニ話ソウト思ツタガステニ帰京後デアツタ

夕食後、佐野ニ行キ十時過ぎ迄グチヲ聞ク 結局霞ヶ浦デモヤル外道ノナイコト 金六今月モ苦心慘憺ダカラ出來タモノハ適當ニ分ケルコト等ヲ話シテ帰ル

▲▼217ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月27日(水)

天気 晴

全部ノ出荷ヲ見テ帰ル 橋本善昨夜行ツタトノコト ウマク行ケバヨイガ少シ氣ニナル 帰店後六月分決算ヲ行フ

橋本国上京 稲垣見舞ノ由電話アリ 夕方ヨリ田中モ行ツタラシク明日ノ会議ヲ控エテノ打合せト見エル

アンドリュース長谷川氏來

▲▼218ページ▲▼ 昭和2(1927)年7月28日(木)

天気 晴

月末ニセマツテ氣ガ氣デナカッタガ

夕方大蔵付添ヒ河村ト神田ノ母來 佐野ノ件ニツキ 結局何ニカ仕事ヲ與エテ呉レトノコトデ大蔵モシキリニ進メテ居タガ、兎ニ角明日工場ニ出ルコト 自分ガ行ツテキメル

コトトシテ分レル
工場ノ仕事ヲサセルヤ否ヤハ大ニ考慮ノ必要アリ 八時頃ニナツタノデ今日ノ会議ハ中止ス

◆▼219ページ◆▼ 昭和2(1927)年7月29日(金)

天気晴

昨日ノ会議今日ニ及ブ 早朝吉田氏訪問 金件依頼。十時帰ル 橋本、田中來
稲垣ノ手紙見ル 川辺件ニツキ悪罵ヲキワメタル手紙デアッタ 実ニ不謹慎極マル無礼
ナモノデアッタガ病氣ノ精モアルダロウ。イツレヨク手紙ニ書イテヤロウ
今日ノ会議ノ目的ハ佐野ノ件、學校ノ件等スベテ自分ノヤリ方ヲ非難スル事ノミデアッ
タガ自分ノ決定シタコトハ根本ニ於テ会議ニヨツテ決定シタル通りニテ枝葉ノ問題ニツキ
單獨ニハカラッタニスギナカッタノデソレニツキ彼レコレ部下ノ非難ヲ受ケル必要ナキモノ
ト思フ 鳥飼問題ノ如キ次ノ外ニツキ彼レ等ニ再考ヲウナガス

◆▼220ページ◆▼ 昭和2(1927)年7月30日(土)

天気晴

四時半起床 六時半工場着 金支拂延期ノ事ヲ一同ニハカリ小西ニ金策交渉ノ上三
時工場ヲ出川辺ニ立寄り五時帰宅
佐野ニ霞ケ浦行不服ナレバ進退ヲ決スル様話ス 尚當分模型製作ニ努力スル事
大蔵多摩川夜間飛行 九時決行無事終了

◆▼221ページ◆▼ 昭和2(1927)年7月31日(日)

天気晴

六時半自宅ヲ出テ児玉課長訪問 何ニカ特別ノ用事ナラ會フガサモナケレバ今日ハ会
ヒニクイトノコトニ、シイテト云ワズ、スグ谷田閣下訪問 ライトプレーンクラブノ件及
太平洋問題ニツキ談話約一時 明後日來ラレルトノコトニツキ時刻等打合せテ辭ス
「金件ニツキ吉田氏訪問 丁度遊ヒニ出懸ケル處デアッタノデ同道 夕方迄多摩川行」
帰途アイスクリームヲノンデ九時帰宅 家内ノ氣(ママ)嫌頗ル悪化 十二時頃襪今カ
ラ出カケルトノ事 ヤット寝サセタ

◆▼222ページ◆▼ 8月

- 一 ライトプレインクラブ
- 一 金融
- 一 分工場作業ノ方針確立

▲▼223ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月1日(月)

天気 晴雷雨アリ

竹中ヨリ五百円借入 金庫ヨリ百円 橋本ノ分ヨリ三百円ヲ出シ九百円ヲ以テ十時ヨリ津田沼行キ
 家内ノ事モ氣ニナツタガお金ニヨク云ヒフクメテ出ル 大抵大丈夫
 十二時津田沼着 自動車ナク、テープロサゲテ歩イタノデビツシヨリヌレタ
 小西三日頃必ず出來ルトノ事デアッタ
 夕方勝扇風器ヲ持参 十円支拂フ 手紙ヲツケテ來タノデ返 コレデ万事終リ

▲▼224ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月2日(火)

天気 晴

谷田閣下八時來場 工場見学後太平洋飛行問題 模型ノコト、金州飛行場ノ事等話シ、帰ル頃川辺君來 十一時頃千葉へ帰ラル
 大蔵同道帰京 松竹へ出張サセル 自分帰宅 松竹千五百円遣見込ミアリトノ事
 佐野來 昨日局児玉早川、鳥飼等ニ行ツタトノコト 結局家内ニ小商ヲサセ自分ハ模型ヲヤツテ自立シタイトノコト 差當リ三■百円アレバヨイトノコトニ承認ヲ與ヘル。ドウシテモ霞ヶ浦へ行クノガイヤラシイノデアッタ

▲▼225ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月3日(水)

天気 曇リ雨

高見其他数通手紙出ス
 午後朝日ニ行ク 不在 鳥飼ニヨリホールスカット金件及ビ佐野ノ件ヲ聞ク
 夕方橋本國來 百二十円渡シ、佐野ノ件手當ニツキ協議 鳥飼ノ振當デ出資ノ分ヲ佐野手當ニ振替エルコトヲ、シキリニトナエ鳥飼ハイセキ議論アリシモ決セズ 自分一人反対ス

▲▼226ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月4日(木)

天気 曇リ後晴

四時半起床 七時工場着 今日ハ終日眠カッタ

夜ハ七時半ニスデニ眠リニツク

久シ振リデ海ニ這入ッテアサリヲ取ツタ

徳治ハ今日稲毛ノ母ガ來テ幕張リニ、マツサージガアッテ一週間スレバ手ガ動ク様ニナルカ、ドウカ分ルカラトノコトデ連レテ帰ツタ

海ニ出テ居ル内ニ藤田ノ練習カラ思ヒツイテ飛行場規定ノ作製ヲ菊池ニ命ジル

午後熊倉氏來 九日ニ完成引渡シ検査ヲ受ケルコトニ打合せナリ尅時金ヲ呉レルトノコトデアッタ

▲▼227ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月5日(金)

天気 晴曇夜雨

橋本へ五百円ノ借用証ヲ渡ス 期日十一月三十日 利子日歩二錢五厘

信太郎ヲ連レテ川辺ニヨリ帰宅

局ニ行ク 課長ヨリ佐野ノ云フコトヲ取上ゲル訳デハナイガモ少シ何ントカシテヤツタラドウカトノ話アリタレドモ、シイテ辨解セズ

朝日ニ行キ四十六、四十七、二式ノ残金八十余円受取ル 鳥飼ニ立寄り帰宅

夜鳥飼ヨリ式百円ホールスコットノ金受取ル

▲▼228ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月6日(土)

天気 晴後雨

藤田氏朝來 共局ニ行キ訂証(ママ)判ヲ押ス 金百十円工場へ事傳ル 帰途鳥飼ニヨリ、ホールスコットノギヤークース付替作業ヲナス 三時過ぎ迄カゝル 久シ振リデ仕事ヲシタ。ヤレバヤハリ出來ル自信ガ得ラレタ 熊倉君待ッテ居ルトノコトニ帰ル 熊倉氏検査 九日出來ズ延期 十日発動機機体ノ方不明ニツキ其旨答エル 根岸君來 昨日霞ヶ浦ニテローン拂下ヲ受ケタ時一台クジデ當ツタカラ引取ッテ呉レトノコト二十八円トノコト 三十一円デ買ッテヤル

橋本国妹同伴來 スグ帰ル

▲▼229ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月7日(日)

天気 晴

今日ハ新会社へ引繼ギ予備計算ヲナス トウシデテモ一万円程繰越預金ノ始末ツカズ 考慮スルコトトシテ中止

夜家内ト小供ヲ連レテ日比谷公園ニ行ク 公園ニ這入ルト仁三郎ト満ハ眠ルシ少シスル

ト恵美子ガ歩キナガラ居眠リヲ初メテモノニナラズ苦ンデ帰ル

◆▼230ページ◆ 昭和2(1927)年8月8日(月)

天気 晴

午前十時局ニ行キ竹中ニ立寄り千式百円アブロ代支拂ヒラナシ津田沼行 夕方竹中海ヨリ上リ大蔵ヨリ話シサセル 帰途押上迄同行 ニュポール賣込ミ交渉明日返事ノ事

夕方川辺君ニ山本練習ニ関スル件交渉 例ニヨツテ僕ノ前ダカラ遠慮ハシテ居ル様デアッタガ面目ガドウノコウノト昂奮シテ居タガ結局一晚冷静ニ考ヘサセテ、呉レトノコトデアッタ。尚過日ノ大蔵ノ問題ニツキ余リ自分ノ兇分ノ事ハカワイカラトカ何ントカ云フノデ、自分ガ決シテ下ノモノノ云フコトヲ取上ゲナイコト川辺君一々取アゲルカラ此間ノ様ナコトニナル事ヲ話シタ。之レニハ一言モナカッタ
帰途且代山本ニ会フ 川辺君へ挨拶ニ行クコト 且代君ニ仲ニ立ツテ貰フコトヲヨク注意シテ帰ル

◆▼231ページ◆ 昭和2(1927)年8月9日(火)

天気 晴

八時局ニ出頭 藤田ノ申請書訂正登録書ヲ受取り鈴木ニ津田沼迄持参セシム
十時ヨリ立会川中島格納庫ニ行ク。スデニ第三回目ノ飛行中デアッタ 望月通相井上航空本部長等ノ飛行中 二時頃迄遊ブ。井上、周ノ三木、荒井、浜名、久松諸氏ト會談。谷田閣下トモ會談 帰ル時吉田君ニ會フ 発動機ノ代金ノ件交渉 一時立替テ居イテ呉レトノコトデアッタ 一寸閉口
三時帰宅。橋本国明日呼ビヨセル 會議ノ爲メ
田中ヨリ又々鳥飼問題ニツキ申出アリ。三名ノ決議ニヨツテ所長ノ決心ヲウナガストノコトデアッタガ実ニ潜(ママ)越至極デアル 又橋本稻垣ノ発意デナイコトハ明ラカデアアルノデ明日其點ヲタシカメテ決スルコトトス。鳥飼氏佐藤氏ハ話シサエスレバ返リ書ニ不服ヲ云フベキ人デナイコトハ明ラカナノデ兎ニ角取ツテ居イテ話シヲ進メルコトトス

◆▼232ページ◆ 昭和2(1927)年8月10日(水)

天気 晴

早朝佐藤行キ 想(ママ)談ノ上返書ヲ貰フコトニス 書類提出 六月末勘定ヲ拂込ミニ振り替エルカ返リ書ヲ書クカ帳簿ヲ調査ノ上決定シタシトノ事デアッタ。電話アリ 井出氏來テ居ルトノコトニ帰宅 船用発動機ノ件 ダイムラーノ話カラ鳥飼へ連レテ行ク

五百円ト四百五十円ト決定セヌ内ニ鳥飼ノ返リ書ヲ貰テ帰ル 大蔵ヨリ電話 竹中
千円貰ツタトノコトニ吾妻橋迫行 工場支拂ヒ割當ヲ定メ七百五十円渡シ外二百円
明日ノカスミヶ浦行キ分トシテ百五十円ヲ事務所へ持帰ル 田中來ラズ。岡田、英、上
野等來 自分應接

夕方橋本來 引續キ田中來 一所カト思ツタラ、田中ハ、稲垣へ終日行ツテ居タトノコ
ト 會議四件中カスミヶ浦問題ニツキ橋本善關係ヨリ稲垣ヨリ返(ママ)対意見ノ、手紙
ガアツタ

鳥飼問題返リ書ヲ出シタトキハ、サスガニ驚イタ様デアッタ。ソレニツキ之レハ所長ノ意
見ニアラザルコト 若問題ニナル様ナトキハ三名ノ責任タルコトヲ念ヲ押シテ居ク

◆◆◆233ページ◆◆◆ 昭和2(1927)年8月11日(木)

天気晴

早朝橋本來 昨夜泊ツタトノコトデアッタ 田中ノ金融問題アテナラナイコト。ナルベ
ク田中ノ金使ヒタクナイコトナド話ス 尚稲垣ノ病氣ニ対シ橋本ニ代ツテ設計スルヤ否
ヤヲ聞ク 最(ママ)非ヤルガ初メ一度ハ稲垣君ニ指導シテホシイトノコト 之レハ最モノコ
トデアル 稲垣ノ健康ノユルス程度ニ於テ差支アルマイ

局ニ立寄り九時三十五分ニテ上野發 橋本、清平トカスミヶ浦行。家ヲ見土地ノ交渉
ヲナシ、全部デ式百五十円。地代年二十錢デ決定 返事ハ來月十日迄ニスルコトトシテ
引上ゲル。今日ノ手金ハ所沢ヘヤル金ガ入ルノデ中止ス

◆◆◆234ページ◆◆◆ 西曆1027(1027)年8月12日(日)

天気晴

午前局行キ午後津田沼行。佐野退職ノ件一同ニ話シ手當ニツキ内容ヲ示ス。ツイデニ
橋本ノ話出デ大蔵ヨリ金融問題ニツキ橋本ニ話ス前ニ外ニ相談サレル處ガ、アル筈トテ
大分奮(ママ)ガイノ模様デアッタガ彼レノ立場トシテ、ソシナ風ニ取レルノモ最モデア
ルガ當時ノ成行キト上野ノ考ヘナド話シラス

此間ヤハリ菊池ハ云フベキ事ヲ云フガ一本調子デナク実ニ四名中スグレタ頭ヲ持ツテ居
ル事ヲ認メラレタ。川辺ニヨリ決算ノ打合セヲナシ佐野ニ立寄り手當千五百円内五百
円現金千円出資 出資ハ現金ニカエル事ヲ得 預リ七百五十余円外ニ自分ヨリ三百円
ノスベテ証書ヲ渡ス。差シ當リ本人ノ希望ニヨリ二百円現金出來次第渡スコトニ対シ五
百円程ホシイトノ希望アリタリ

◆◆◆235ページ◆◆◆ 昭和2(1927)年8月13日(土)

天気 晴

四時半起床 所沢行き 七時十分工場着。検査ノ打合セヲナシ、大毎佐藤氏二九五
五円也渡ス 五円事ム所小遣ヒトシテ高橋渡シ十時十五分ニテ帰店
大口來。ペラノ代五本分五十円 プラッグノ代十円受取ル 加藤ノペラ一本買ワセル
梅田氏來 曙ニ行キ夕食ヲ共ニス 樺太飛行ノ件今月末アタリ樺太ニ出張シタイ希望
トノコトデコチラノ準備ハ飛行機ト操縦士ヲ引受ケテ呉レルカトノコトデアッタノデ金
サエ出來レバ、イツデモヨイ旨答エル。ソレカラ方々歩イデ大分ノンダ
田中ノ健(ママ)白書ノ如キモノヲ讀ム 書ク處堂々タル意見デ稲垣ノ如ク禮ヲ失セズ、
先ヅ上出來デアッタ。之レニ対シ自分ノ意見ヲ二三頁書イテ渡シ

▲▼236ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月14日(日)

天気 晴

昨夜ノ吞過ギデ終日何ニモスル氣ニナレナカッタ
夜アンマヲ取ル

▲▼237ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月15日(月)

天気 晴

朝局行き
新会社帳簿整理

大口ハ伊東佐内來 禿氏氏千葉ニ居ル由
佐野來 鳥飼二十五円借リテ渡ス

▲▼238ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月16日(火)

天気 晴

終日帳簿記入ヲナス

▲▼239ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月17日(水)

天気 晴

検査ノ爲メ所沢出張 辻本濱名氏來
三上綱吉へ手紙ニ贈物ヲソナエ、持参セシム 夕方帰ル 大口ノプラグ買ツテ、大口ニ
渡ス

▲▼240ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月18日(木)

天気晴

四時半起床津田沼行 機体検査アリ

川辺君ヨリ清水ノ機体ノ件急グトニツキ話シアリタリ。尚明後日上京トノコトニ立寄ツテ貰フコトヲ約束ス。泊ル

大口來 今夜十時ニテ出發スル由

▲▼241ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月19日(金)

天気晴

十時頃津田沼ヨリ帰ル 局ニ行ク

午後清平ヲ朝日見学ニ連レテ行ク。アビエーションガアッタノデ見ル。ライトプレーンニ関スルモノヲ書キ抜ク 夕方帰ル時ニ松本飛行ノ話シアリ 大蔵ニヤラセル事ヲ引受ケル

大口へマグネト發送ノ件所沢へ電話シテ命令ス

▲▼242ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月20日(土)

天気晴

五時清平ヲ連レテ津田沼行 松本飛行ヲ命ズ スデニ準備中デアッタ 昨夜鳥飼カラ融通シタ四十円ノ内三十円ヲ渡ス 清平同乗シテ立川迄行 西田同行 十時半頃出テ帰店 藤原、信田、片岡ガ來テ居タ ソコ熊倉モ來ル 皆ニ照(ママ)介ス。後チ馬詰來

大蔵へ上着送ル爲メ家内持参 五円小遣ヲ渡ス

夕方梅田氏來 樺太ノ予算書ヲ渡ス

加藤來 貸シタ写真帳持参ス

川辺來ラズ 米山ヨリ電話ニテコトワリアリ

▲▼243ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月21日(日)

天気晴

午前中竹中、熊倉、慎ノ補助金申請書ヲ作製 十一時半迄カゝル 少シ頭ガ重クナツタノデ午後清平ノラジオ作りヲ手傳ツタリ讀書シタリ

夜夕食後早く眠ル

ソロ、月末ガ氣ニナリ出ス

▲▼244ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月22日(月)

伊東光成ヨリ十年式購入ニ関シ手紙來 早速国ノ後援会へ手紙出ス 賣レレバ上等
十時ヨリ不在中ノ事ヲ田中ニ書キ残シ津田沼ニ行ク 大坂ニ日帰ルトノ電アリ 廿二
日ノコトカ來月二日ノ事カ分ラナカッタガツヒニ今日ハ帰ラズ
熊倉氏來 夕方帰ル 明日飛行ノ筈
明終計算ヲ済マセル事ヲ川辺君ニ約束
且代近ク北海道ニ行ク由
菊池ノ病氣見舞ニ行ツテヤル

▲▼245ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月23日(火)

天気晴

午前中來ラズ 午後川辺且代ト會フ 期間問題ドウシテモコチラニ無理ガアルノデ、ウ
ヤムヤ。格納庫料ヲ前通り五十円トシテアブロ彼二機ト三型一機ダケ 長屋ハ二棟分
財産分配甲二分解分ト甲三博覽會分 部品二機分ヲ工場へ決定 イス。ハノ三百、甲
三、甲ニ、アブロ乙程度 外ニアブロ甲程度一台作ル分ノ分配ハ未決定 學校負責(ママ)
ハ合計七百五十余円アリ 之レハ等分ニ負擔スル筈ナルモ財産處分ト共ニ決定スルコトト
シテ本日ハ未定ノマ、北海道權太ノ宿屋ノ支拂残り大分アツタガ之レハ川辺君負擔ノコ
トニ決ス 若シ之レヲ等分ニト云ツタラス。パットノ破損々害、十年式修理費等ヲコチラデ
提出スルツモリナリシモ之レノ用ハナカッタ
信太郎徳治ヲ連レテ帰宅 八時。ラジオノ函出來ル

▲▼246ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月24日(水)

天気晴

ラジオヤ、完成 大分声モ大キクナリ之レナラ、高声器ヲ使用出來ル處迄行ク
朝局行 甲三大場分ノ請求書提出 外ノモノ白紙ヲ荻野氏ニ預ケル。課長ヨリ藤森ガ
所沢へ女ヲ連レテ來タコトニツキ話シアリタリ
帰宅後頭ガ重カッタノデアンマヲ取ル。ヨクナル
午後朝日ニ行ク 木下氏モ來 サル二機、カミミケ原カラ送ルトノコト 夕方菱伊氏夜
遠藤氏來

▲▼247ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月25日(木)

天気 晴

新帳記入ヲ初メル

清平、信太郎午前中小石川植物園カラ大學前上野動物園ニ行ツテ帰ル
田中津田沼行

▲▼248ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月26日(金)

天気 雨後晴

新帳仕入帳記入後局行 課長居ラズ

正午西田大蔵來 西田點呼ニ帰ル

大蔵夕方帰津

▲▼249ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月27日(土)

天気 晴

今日ハ終日オチツカナカッタガドコニモ出ズ

稲垣へ昨日給料ノ請求ガッタノデ月曜日局カラ下ツタラスグ持タセテヤルト云ツテヤツ
タノニ対シ、給料ヲ別ニ取ツテナカッタノハ残念ダガドト云ツテ來タ 病氣ノ爲メニ少シ
ドウカシテ居ルラシイ アレガ本心トスレバ稲垣モアキラメナケレバナルマイ

夕方吉田氏ト会见 夕食ヲ共ニス 松本飛行ニツキ諒解ヲ得

終日金融問題ニツキ考慮シタガヨイ考ヘモ出ナイ ドコカ静カナ處へ一日行キタイモノ
ダ

▲▼250ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月28日(日)

天気 晴

朝信太郎ヲ連レテ河内氏見舞 午後四時頃田中來 所沢ノ報告ヲ聞キ朝日ニ行ク
ダレモ居ラズ鳥飼ニ行ク ビールヲ一杯馳走ニナツテ帰ル

清平津田沼ヨリ帰ル

今日河内氏見舞ニ行ク 築地デカナリヤヲ見七円デ番ヲ買ツタ 永イ間ノ欲シイと思
ツタモノデアッタ 雄ノ方ガスコシ品ガ悪ルカッタ

▲▼251ページ▲▼ 昭和2(1927)年8月29日(月)

天気 晴

田中オソク晝前局ニ行ク

將來ノ方針ニツキ予定ヲ案ズル
夕方川辺、荒井、遠藤諸氏來
鳥飼ヨリ山縣ノ命日ニ付夕食ヲ共ニタイトノコトニ比谷ノ松本デ馳走ニナル

◆▼252ページ◆昭和2(1927)年8月30日(火)

天気 雨

風雨強シ 後晴レ

北島氏來 発動機ノ事ヨリヒントヲ得 小型モーター製作所ヲ作り資金ノ募集スル事
ノ案ヲ健(ママ)テ調査事項ヲ手帳ニ記入 尚ライトプレーンノ件ニツキ安達堅造氏ニ会
フベク手紙出ス

今日モ局金ニナラズ

加地氏來 氣ノ毒デアッタガ實際ニコチラニモ一文モナイノデヨク御コトワリシタ 來月
二十日頃迄ニイクラカデモト云フコトデアッタ

朝日ニ行ツタガ久松氏帰ル迄

頭ガイタムシ右ノワキ下左腕ノタブラ等ガキキート痛ンダ 神経痛ラシイ。社デ航空
路ノ予定線ヲ写シテ居ル内ニ眼ガチク、シテ涙ガ出テキタ ドウモ、ヨワツタ事ダ

◆▼253ページ◆昭和2(1927)年8月31日(水)

天気 晴

田中局行キ晝帰り 今日モ間ニ合ワズ止ムナク所沢津田沼ニ打電 九八一ハ電話シテ
事ハル

終日仕事手ニツカズ 昨日今日左右両腕ノタブラ痛ム

七時荒木着ヲ家内ヤ小供ニ迎ヘニヤリツヒデニ清平七時半ニテ出發サセル。入浴後朝食
ヲ共ニシ状況ヲ聞ク 一月以來二十余円高見氏カラ貰ツタダケトノ事デアッタ 學校
経営モ余リ見込ミナシトノ事才意見デアッタ。トスレバ自然ホウキノ外ナカラン。タゞ
唯一ノ希ミハ滿蒙政策ニトモナウ空中写真部ノ件ダケデアアル。

◆▼254ページ◆9月

一 金融資金ノ確立

◆▼255ページ◆昭和2(1927)年9月1日(木)

天気晴

局ヨリ金貳千貳百円下ル スグ分配 所沢六百円。竹中五百円 手形二枚四百五十
六円五十三銭 一枚ハ延期 六十円稲垣 百円事ム所 四百九十円津田沼持参 大
蔵へ渡ス七月分ト女工八月分若干渡シ米屋其他モ七月分ノミ支拂ヒ佐野へ出來ルダケ
多ク渡ス様ニシタガ六十円ヨリヤレズ 佐野來テ居タガ妻君ト代ツタノデ又泣カレテヨ
ワツタ 結局スシヤノ百五十円ノ事ワリヲ頼マレ夜髪結サンニヨク頼ム
橋本国際線東京へ立寄ル 金事傳テル 真黒ニナツテ居タ
川辺ト金ノ貸借ノ決済ヲナシ財産分配ニツキアトアブトイスパノ三百トノ交渉ダケ
ヲ残シテ決定

◆▼256ページ◆▼ 昭和2(1927)年9月2日(金)

天気晴

大蔵ト慎ト何ニカ又アツタトノコト 清水ノ塗料問題ノ如キモ今村ノ態度宜シカラズ。
格納庫ヲ借リテ居ルモノノ心持チガ工場ニ対シ次第第二ハナレ行ク感ジアルハ誠ニ意感(マ
マ)ニ堪エズ種々考慮ス
飛行場規定ヲ作製發表スルコトトシ菊池ト相談
午後大蔵同道上京 車中新台製作ニツキ春海氏二十分見込ミアレドモ工場ノ現状トシ
テ金ヲツカイ込ミ機体ガ出來ナイト困ルトノ稲垣大蔵ノ意見デアツタガ之レモ、余リニ
ウガチ過ギタ、キューデ人ヲ馬鹿ニシタ話シデアツタガ其儘ニス
朝日ニ落成歓迎宴ニ行ク 十時頃帰ル

◆▼257ページ◆▼ 昭和2(1927)年9月3日(土)

天気晴

ドウモ頭ノ工合ガ悪シ 僅カニ朝起キタシバラクガヨクテ、アトハドウモイケナイ
午後信太郎ノ模型ガ三越ニ出テ居ルトノコトデ徳治ト二人連レテ見ニ行ク。コンナモノ
モドウモ長ク見テ居レズ、スグアキガ來ル 帰宅後高木サンガ今來タトノコトデ呼ビニヤ
リ二時間程話シタガ其内ニモ益々気分悪シク反ツテ失禮ヲシテシマツタ
夕方社へ行ツタガ皆不在 電話デ話シタ時請求書ヲ出シテ呉レトノ事デアツタ

◆▼258ページ◆▼ 昭和2(1927)年9月4日(日)

天気晴

加藤來 終日遊ブ

午後川辺君來 田中ト会見ノ爲メ田中來迪自分ト意見ノ交換ヲナス 自分ノ方針ハス

デニ知ツテ居ルノデ期間問題ニツキ会社社員ノ意向ヲ田中カラ非公式ニ話シタ迪デア
ルノデソレニツイテハヨク川辺氏ノ意ノアル處ヲ話サレル事ヲ述ベテ居ク 田中來。川辺
ヨリ、ヒタスラ懇願的ニ一ケ年ヲ主張。田中返セズ 返ツテ会見ノ上下ナル 自分ハ一言
モロヲ出サズ

田中自分ノ書イタ田中ヲ悪意ニ見タル感ジヲ讀ミ其爲川辺トノ交渉ニモ一言モナカッ
タトノコト 夕食ヲ共ニ諒解合ツテ帰ル

◆◆259ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月5日(月)

天気 晴

大毎ノガソリン問題デ閉口ス ヤット夕方問ニ合フ

本日ノ支拂小口ダケ出シアト皆延期 大蔵朝日ヘヤッタガ結局明日ノ事ニナル

◆◆260ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月6日(火)

天気 雨

今日ハゴタ、ヤ、コシイ日デアッタ

午後朝日ヘ行き松本分三百円内金受取ル

支拂モ部分拂トス

今日局ノ請求書熊倉分出ソウト思ツタガ判ヲ大蔵ガ持ツテ帰ツテシマッタノデ、田中
イボノ

持ツテ行ツタノヲ聞クト無クシタトノコトデ津田沼ヘ取りニヤルコトニシタ

橋本昨夜帰り今朝八時津田沼ニ行ク

皆ノ意向ヲ話シ大ニ親和ニツトムルコトヲ聞カス

◆◆261ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月7日(水)

天気 雨

安達氏訪問ノ爲メ八時出カケル 風降雨サカン 田町駅ニテ電車脱線 中央線廻リニ
テ目白行き三十分遅レル 安達氏待チ受ケテ居ラレタラシク模型ノ圖ダノ説明ヤグラ
イダーノ圖ナド貸與サレル 少シ、甘ク見ラレタ形デアッタガ今日工場トシテハ適當ナ
仕事トシテ進メラレタノハ悪クバカリハ取レナイ

欧州ノライトプレーハ英国ダケデ現在デハ政府ノ補助モナイソウダ。英国ニ於ケル發
達ノ圖ハイタル處ニ飛行ニ適スル牧場ノ多イコト、富ノ程度ガ高イコト、航空取締ガ適
當ナコト等デアッタ。大(ママ)平洋飛行、写真地圖等ニツキ聞キ三時間半程居タ 過般
ノ欧州出張ハ自費デ一万式千円ばかり使ツタソウダ

安達氏ハ僕等ニ利用出來ル人デハナイガ多少日野式ノ處ガアルノデハナカロウカ
午後チエッコノ飛行士歡迎会ニ朝日ニ行ク 終ッテサルノ見積書提出 六百円ヲ久松ニ
領収書書イテ渡シテ居ク。アプロ整備早川氏ヨリ頼マレル

▲▼262ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月8日(木)

天気 雨

今日モ又雨 朝日へ行ク 九百円ノ予定ノ處久松氏ガ二度ニシテ呉レトノコトニ五百円
ダケ受取 空中写真展ノ件ニツキ講演ヲ依頼シ諒解ヲ得
電通ノガソリン代受取り計算ノ結果節部氏ニ四錢支拂僅ニ五分余リ四錢ニヨリナラズ
初メノ話ト大變リニテダメ

▲▼263ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月9日(金)

天気 曇少雨

田中オソク十時電話ヲカケテ呼ブ 局ニヤル 熊倉分三百四十円下ル 銀行昨日電通
ノ分間ニ合ワズ佐野百円ト外ニ工場へ弍百九十円持ッテ津田沼ニ行ク
夕方着 佐野ニ立寄り渡シテ工場ニ行 五時十分

発動機ハホトンド全滅ニ近ク病氣 菊池又休ミ

本日田中ヨリ給料ノ支拂ヲ皆ト同ジ様ニ受ケタキコト 二月中バヨリノ入所ヲ一月カ
ラ支給ニサレタキコトノ申出デアリ 彼自身稲垣、橋本、ノ諒解ヲ得ルカラ所長ノ意ヲ
聞キタイトノコトデ承認ヲ與ヘル 過日自分ノ手帳ヲ見テカラ大分様子ガ變ッテ來タ。
自分ガ非常ニヤリヨクナッテ來タ

スベテ下級ノモノニ余リ権限ヲ與ヘスギルコトハ内部ヲ混乱セシムル、オソレアリ

▲▼264ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月10日(土)

天気 晴

荒木ヲ東京へ金取りニヤル 二時頃帰ル 工場ノ支拂ヒ内拂ヒヲナシ所員ノ方ハ四五六
月分ヲ支拂 七八月分ダケ渡ス方針ヲ取りシモ支拂キレズ丁度ノ金額トシテ幾分ツ、
残ル

発動機部ハ西田佐藤ノ外皆病氣休 寺沢同ジ 今村菊池同ジク。今村出勤スレドモ大
義(ママ)ソウナリ

川辺ヨリ學校問題ニツキ不案(ママ)ヲ感ズル爲メイヅレトモ決定ヲウナガス意味ノ話シ
アリ。自分モ昨日來考慮シテ來ル十四日ニハ、スベテヲ決定センコトヲ考ヘテ居タノデ、
何ナレドモ自分ノ考ヘダケヲ話シテ居ク

四十円余分ニ事ム所カラ取ツタノデ高塚(三十円)ト五円車馬賃ヲ持タセ自分(五円)預ル 終業後今村同道上京 昨日(迄)ノ雨ナゴリナク晴レテヨイ月見(デ)アル 今春以來(ア)マリ三人ニ、アツクサレテ居タコトヲハツキリ感ジタ。田中ガ自分ノ手帳ヲ見テカラノ態度ガ変タノデ自分ノ道ガヒラケタ様ナ感ガスル

◆◆265ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月11日(日)

天気 晴

昨日カラ又暑クナッタ 今村今日ハヒザノ上迄ホータイ(デ)歩キニクソウ(デ)アッタ

朝局ニ行キ検査ノ打合せ 後チ警視廳ニ行キ糸川ノビラ撒布ニツキ操縦士ガタレガ飛ンダカ答合セアリ 藤田八月廿七日ニ慎九月一日ノ返答ヲシテ居ク 後チ宗里氏來飛行士ニ航空法侵犯ヲ輕カラシムル様懇願シテ居ク要アリトノコト(デ)アッタ 自分ハ全然ソレニ氣ツカナカッタコトハ何ント頭ノ悪クナッタ事(デ)アロウ

朝日ニテ四十八号分四百三十円受取り四百円入金 松本飛行分計算 五百円(デ)ガソリン航空部(デ)出シテ貰フコトシ残り六十円内受取り内ヨリ長谷川君(デ)借リタガソリン代ヲ當方ヨリ支拂フコトナル ガソリン納入ノ件想(マ)談 日石ノ方今止メルツモリダトノコト 丁度ヨイ處(デ)アッタガ赤貝ハ河内君ガドコカト交渉中ノ由。最(マ)非ヤラセテ貰イタイコトヲ懇願シテ居ク

◆◆266ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月12日(月)

天気 雨

航空局行キ 帰リ糸川飛行ノ件ヲ警視廳航空部ニ出頭 本日ノ記事昨日ノ處ニアリ

◆◆267ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月13日(火)

天気 雨

局ニ行ク 早川氏ニ會フ 用件ハヨットノ事(デ)アッタガ今ハナイノ(デ)事ハル。クック整備ノ件ニツキ諒解ヲ求ム

吉田君ガ會ヒタイトノコトニ日日ニ寄ツタリ電話ヲカケタガツヒニ會エズ 時間ガ遅レルノ(デ)ニ時糸川ガ來タノ(デ)打合せ(デ)ケシテ工場ニ行ク。藤田、慎、小西ニ糸川ノ話ヲシテ諒解ヲ得 泊ル

◆◆268ページ◆◆ 昭和2(1927)年9月14日(水)

天気 風雨

時事 米機大村ヨリ霞ヶ浦着

昨日熊本縣下大海嘯ヲ起タ颱風ガ來タガカナリ雨ガハゲシカッタ。作業ノ順序ヲ立テ
帰店

昨日ヨリ大蔵、田中ノ行動変ダト思タラ稲垣ニテ会合 本日橋本善喜ニ退場ヲ命ジ
タル由 橋本夜來 會議 橋本 田中ト學校問題協議中 遅ク稲垣來 橋本ノ件報
告アリ 學校問題ツヒニ田中案ニ決定 タゞ混雜ヲ來サザラン事ヲ祈ル

橋本ノ件ニツキ稲垣ヨリ報告アリシモ声ツヒエテコウ粉(ママ)ノ色アリ タゞ聞クノミニ止
メル

▲▼269ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月15日(木)

天気 晴

早朝知覽君ニ行ク 久シ振リデナツカシイ氣ガシタ

マグネト一ヲ受取り帰ル 後鳥飼カラカップリングガ來テ居タノデ太田へ注文 自分デ
行ク

午後川辺君來 夕方田中ト一所ニ來テ居タ 十二時頃今迄話シテ居タト電話ガカ、ッ
タ。分工場へ金持ツタ行カナカッタノデ明早朝行クコト

今日ハ終日氣分スグレズイヤナ日デアッタ ドウモ近來頭腦ガ益々悪クナル様ナ氣ガシ
タ。今日モ太田工場ニ居テ色々話シヲシヨウト思ツテモ、オックウニナツテ云エナカッタ
(之レハ十六日ノ記事)

▲▼270ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月16日(金)

天気 晴

朝局ニ行ク 午後半日朝日デ遊ブ 四時半ヨリ懇談会ニ行ク 川辺ガ來テ居タノデ昨
日ノ経過ヲ話シテ居ク

大原博士ノ講演ヲ聞ク

▲▼271ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月17日(土)

天気 曇リ

朝局行キ 検査ノ打合セヲナス 山田輪盛館ニテコンパウンドヲ買ヒ、太田ニ行
キ昨日注文ノモノヲ待ツテ出來上ルノデ貰ツテ帰ル。スグ橋本ニ鳥飼デ借リタマグネト
ト津田沼へ持參セシム

田中夕方帰ル 川辺君來 昨日ノ交渉ノ結果川辺君ヨリ稲垣、橋本、各個人ノ意志

ヲ聞キタイトノコトデアッタ由。後チ鳥飼氏ニ話シテ貰ッタラト云フ様ナ事ヲ云ヒ出シ
タガ此男モヨク氣ノ変ル男ダ。夕方今日夕將來ノ方針ニツイテ話シタイトノ事デアッ
タガコトワル
午後ハドウモ頭ガイケナイ 四時頃風呂ニ行テ少シヨイ様ニ思ツタガ、湯ガアツクテ這
入レナイノニ六閉口
高見氏ヨリ協会カラ援助ヲ迎(ママ)グ事ノ手紙來

▲▼272ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月18日(日)

天気 雨

ドシヤ降りデ谷田氏行き中止 午前中七分分記帳
今日ハ終日頭ノ工合ガヨカッタ 寒カッタセイカモ知レナイ
大蔵來 蒲田ニ行ク
午後朝日へ行ク ダレモ來ラズ 鳥飼ニヨリ工場ノ現況ヲ話ス 後チ同道シテ丸万ニテ
夕食ヲ共ニシ例ノ営業部問題出デ最後ノドウスルト云フコトヲドウシテモ云ワナイデ
今日モ又其中ニト云フコトデ分レタ 多分営業部ヲ引受タイトカ何ントカ云フ意見ダ
ロウト思ワレル

▲▼273ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月19日(月)

天気 晴

局、協会、朝日、ニ行ツテ歸ル
工場ハ中島ノマグネット大急ギデ持参サセル
明日ノ手形等ニツキ朝日デ三百五十円借リル
田中ヨリ工場方針ノ提案アリ 一通リイヅレモ自分ノ考ヘト會フガ、会社出資者ノ変
更ハチト考ヘモノ

▲▼274ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月20日(火)

天気 雨

五時起床津田沼行 降タリ止ンダリ。検査官氣ニシタカ式八共來 水上ダケ終ル 中
島ハマグネットノ取付オクレ間ニ合ワズ、サルノ翼終ル
夕方稲垣來
朝日サル下志津拂下分來
往キノ電車中今回ノ橋本事件ニツキ當分タレニモ此件ニツキ一言モ云ワナイ事ニス 尚
社員ノ任免ニツキ規定ヲ作ルコトノ腹案ヲ立テル

稲垣大蔵モ何ントナク気マツイ感ジガシテ居ルラシク、多少気ニナツテ居ルデアロウ

▲▼275ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月21日(水)

天気 晴

日記ヲ記入 所沢行き 橋本ト丁度行違ヒニナツタ 三時頃出テ、帰途谷田氏訪問
マダ帰ツテ居ラレナカッタ 明朝ヲ約シテ帰ル

所沢デ學校長ヲ訪問シタガ不在デアッタ 今日ハドウモ皆不在バカリ
橋本善喜夜帰ル

▲▼276ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月21日(水)

天気 曇リ後雨

朝七時半谷田氏訪問 今日ハ四時頃カラ演習見学ニ行カレタトノコトデ、ムナシク帰ル
午後局ト朝日行き

明夜大坂へ立ツ旨兄へ打電ス

局ニテ安藤ニ會フ 一ヶ月待ツテ貰(マ)レトノコト ドウモイ、カゲンノ事ダガ仕様ノナ
イモノダ

▲▼277ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月22日(木)

天気 晴

夜來ノ剛雨キレイニ晴レタ 今夜立ツベク準備ニイソガシ

田中ヲ局ヘヤル ヤハリ小樽ノ願書ナク委任状ダケアルトノコト 小樽デ又判ヲ貰フコト
トスタ方丁度本田氏カラ電話ガアッタノデツヒデニ話ス。正午飛行協会ニテ谷田氏ト
会見 金州飛行場問題ニツキ自分ト高見氏トノ意見ノ差違(マ)及自分ノ最初ノ予
定學校ト賣込ミニ關スル事及昨年末松井閣下ト古屋閣下ノ間ニ有ツタ話シナド谷田
氏ヨリ古屋氏ニ聞イテ貰フコト、ソレニハ丁度廿八日所沢ノ卒業式ニ参列仕様カト思ッ
テ居タ處ダカラ丁度ヨイカラ其時間イテ見様トノ事デアッタ トノ事 吉田君ト電通
機体ノ事ヲ話シ田中ニ命ズ
夕方川辺君來 學校問題ニツキ早川氏ト話シタコトヲ聞ク 尚佐藤氏ニ會ッテ相談スル
様ニ話ス

野口來 千七百円現金大蔵拡張ニ機体使用ノ件ヲ條件トシテ決定 廿六日午前中ニ
引取ノ事。

協会ニテ航空会館ニ出ス發動機計器類ノ保管ヲ頼マレル。小栗君來 航空会社ニ賣(マ)
マ収サレル爲メノ三十万円位ノ会社ヲ作ルノデ予算書ヲ作ッテ呉レトノコトデアッタ

大坂へ來ルトノコトデ大坂デ渡ス約束ヲナス

▲▼278ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月24日(土)

天気 晴

六時四十分名古屋着 駅前丸八ニテ入浴 ヌルクテ丁度ヨカッタ 久シブリデヨイ氣持チニナッタ。寢不足ノ頭モヨクナッタ 朝食後八時ヨリ御原氏訪問 昨日フト思ヒツイテ學校合同論ヲ御原氏ニ持チ出ス 船岡氏モソレニ近イ意見ガアッタトテ大ニ協讚(ママ)サレタ様子デアッタ ソレデ上京ノ節又ユックリ会ッテ話ス事トシテ考慮シテ貰フコトトス。飛行場ヲ見学シ晝食ヲ馳走ニナリ安藤君處へ行コウト思ツタガ三時十一分ニ乗ルニ六時間ガナイノデ中止シ鈴木ノ件ダケ六十円ト仕度料着手ト云フコトヲ話シテ一應本人ニ話スコトトシ分レテ帰宿 一時半 一寸一眠リシテ支拂ヲスマシ三時十一分ニテ発 七時十分帰宅 兄ガ丁度食事中デアッタ
夜中ニ田中ヨリ電報アリ アスヒル電話スルトノ事デアッタ。多分水上前題ヲ大蔵ガゴテ、シテ居ルモノト想像サレタ

▲▼279ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月25日(日)

天気 曇リ

朝食後堺ニ行ク 井上外出 帰リヲ待ツテ九時半頃会フ 橋本預クル事心ヨク承認シテ呉レタノデ非常ニ氣持チガヨカッタ。クックノ事金ノ件ヲ話シテ十一時半墓參シテ帰ル 一時頃田中ヨリ電話カゝル 大蔵ノ意ニヨツテ稲垣ガ同意シタトノコトデアアルガカマワズ賣レト云ツテ居ク。ヤハリ予想通りデアッタ
午後大毎ニ福知氏ヲ訪問 一時間程会见 金ノ件ナド依頼シテ帰宅 夕食後清平、先生ト三人敷島へ活動ヲ見ニ行ク 余リヨクナカッタ
今日夕方東京へ電話ヲシテ橋本ニ大坂へ來ル事ト今村ヲ呼ンデ大蔵ニ水上ノ件反対無用ノ事傳ヲサセル

▲▼280ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月26日(月)

天気 晴

午前中小栗依頼ノ会社予算書デツヒヤス 定期飛行予算ニツイテ大きニ得ル處アリ 時々コンナ事モヤツテ見ル必要ハアル
午後ハノンキニ一日クラシテシマウ 今日ハ終日裏ノ二階デ居タ 夕方田中ヨリ電話カ、リ今日野口コナカッタトノコト 大蔵ト局デアッタ由 少シアヤシク思ツタノデ明日來ルトノコトダガ万一コナカッタラ西田ノ處ニ居ル筈ダカラ会ッテ聞イテ見ル様ニ命ス。今日

大蔵稲垣来店 水上賣ルコトニ同意シタガ橋本善ノ事ニツキ所長カラ一度話(ママ)解
ヲサセタ方ガヨイトノ田中ノ意見デアッタガ其必要ヲ認メズトスガ下坂サセル様ニ命ズ
昨日來ノ考慮ノ決(ママ)果成行キニヨツテハ斷然東京事ム所ヲ廢シ自分ノ住居ヲ東京ニ
居キ稲垣モ大蔵モ止メルナラ止メサセテ最小限ノ縮小ヲ行フ事ヲ決心ス。之レニツキア
ラカジメ大坂側ノ諒解ヲ得テ居クコト

◆▼281ページ◆▼ 昭和2(1927)年9月27日(火)

天気 曇雨

今日中山氏ト会フベク朝電話スル 奈良へ家ヲ持ツタノデ十時頃來ルトノ事 其頃再度
電話シタラ西店主人ノ弟慮州氏死亡 本日午後三時葬儀トノ事ニ行ク 二時頃ヨリ
行ク 四時ノ終ル迄手傳ツテ明日会フ約束ヲシテ帰ル

午前中入浴ニ行キ帰宅後小栗ノ計算書ヲ清書ス 多少ノ違算アリ 計算直シナドス
工場ノ件ニツキ二案ヲ作ル 現状維持ト事ム所及ビ高級社員廢止ニツキ研究 ドウモ
後者ノ方が早く樂ガ出來ソウダ 最モ自分ノ身体ニ非常ニイソガシクナルガタゞ方法ト
時機ニツキ良案ヲ要ス

橋本善喜自分が葬儀カラ帰ルト丁度來タ處デアッタ 今夜止メル
夜裏ノ家デ兄ノ家ノ事ニツキ想(ママ)談アリ 十一時迄 結局難波ニ引ウツル事ニ決ス
田中ヨリ電來ラズ 取引出來ナイモノト思ワル 明晩立ツ旨打電ス

◆▼282ページ◆▼ 昭和2(1927)年9月28日(水)

天気 雨

終日ドシヤ降り 九時半宅ヲ出テ中山氏ニ行ク 不在ダノデ朝日ニ電話スル 野田
氏今日ハ出勤ガ遅イトノ事デ行ク氣ニナリ先ヅ中ノ島ノ三十四銀行出張所デ井上ノ
小切手ヲ現金ニ変エ梅田デブドウ酒ヲ求メ、宅迄聞キナガラ行ツタガカナリ遠イノデ
ビシヨヌレニナッタ 丁度今出勤シタ處トノ事デアッタノデスダ社ニ行ク 広瀬君ト一時
間以上話シテヤット野田氏会議ガスダノデ面会 工場専属ノ件ニツキタノミ、明日ニ
モ長舉氏ニ話シテヤルトノコトデアッタ 中山氏ニ行キ西店ニテ会見。工場積極政策ヲ
止メ消極政策ヲ取ルコトニツキ目下ノイハユル幹部ナルモノノ處置ニツキ諒解ヲ求メ自
分ニ一任サル 尚必要ニヨツテハ中山氏ノ上京ヲ乞フコト 又ハ手紙三人ノ決議書ヲ送ッ
テ貰フコトトス 帰宅 橋本ヨリ工場ノ模様ヲヤクワシク聞キ七時半出発ノ予定ナリ
シモ兄ノ家ノコトデ遅レ九時十二分 橋本清平ノ見送りニテ出発

◆▼283ページ◆▼ 昭和2(1927)年9月29日(木)

天気 雨

十時新橋下車 車ニテ帰宅 終日ドシヤ降りデアッタ
午後大蔵來 田中出 水上ノ件大蔵ノ云フ事ダケ聞イテ居レバ何ンデモナイ様デアリ
田中ニ大分キツカッタラシイ アトデ田中ヨリ聞ケバ廿七日ハ随分ヒドカッタトノコト
要スルニ内部ノ事ヲ外部ニワザ、サラケ出スコトハヨクナイ事デアル

▲▼284ページ▲▼ 昭和2(1927)年9月30日(金)

天気 晴

局へ電話デ津田沼へ検査ニ行ツタカ問合セル

金銭出納記帳 十円程多カッタ

猿田へ水上ノ金請求電報ヲ発ス

橋本国雄來 共二日日へ金受取りニ付(ママ)ク 発動機トガソリンノ金受取ル ガソリン
ノ内ヨリ百円融通タノマレヤルコトニシタガ今日小切手デヤッタノデ明日ノコト 尚分
工場ノ分少シ融通ノ必要アリ 十年式金十五日頃デナケネバ取レヌノデ注文書ヲ書
カセ竹中デ借ルベク田中ヲ明日ヤルコトニ
夕方ヨリ田中、橋本ニ自分ノ方針ヲ話ス 非常ニ賛成デアッタノデ自分モ氣持チヨカッ
タ

▲▼285ページ▲▼ 10月

工場改革
能率増進

▲▼286ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月1日(土)

天気 晴

朝局へ検査ノ結果ヲ聞キ大場甲三ノ登録証紛失届及十年式定期検査願提出。小樽
新聞願書アツタカラ登録書写シ出シテ呉レトノコトデ帰店後提出郵送
加藤ニテ。ペラ板十一枚買入 廿七円五十銭支拂 十円貸金ノ内ニ受取ル
小栗帰京 モーツ訂正シテ作ツテ呉レトノ事
夜今村ト東朝坐ニ行ク
事ム所ト住宅ニツキ考慮 新聞広告ヲ見ル

▲▼287ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月2日(日)

天気 曇少雨

十時頃鳥飼へ行き大坂デキメタ事ニツキ報告 讚(ママ)成ヲ得ル カスミケ浦ニツキ之レ又賛成デ金ヲ出ソウト云フ處迄行ツタ
橋本国十時四十分ニテ各務ヶ原へ立ツ

▲▼288ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月3日(月)

天気 晴

七月分決算ヲ終ル 分工場分ヲ引クト二三円ノ利益ニナツテ居タノモオカシカッタ
兎ニ角格納庫料ノ月収ノ増シタ事ハ嬉(ママ)バシイ事デアル
田中今日モ津田沼へヤッタガ稲垣ニ会エズニカヘッタ
鳥飼氏ニカスミケ浦ノ件電話デ聞ク 今夜金ノ方ヲ調ベテ明日返事ノ事
局へ行ク 工合ガ悪カッタガ金州長春飛行延期ノコトヲ管理課長ニ諒解ヲ求メタ

▲▼289ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月4日(火)

天気 晴

今日ハ九月分ノ家計簿ノ精算ヲ行ツタ
午後稲垣君ノ父君來 小供ノ身ヲ安(ママ)ジテ会社ノ方針等ヲ聞キニ來ラレタノデアリ
航空会社対陸軍、事ム所工場ノ経費節減、ライトプレーンノコト稲垣君ノ技量ヲ埋メ
テ居クコトノ氣ノ毒ナ點等ニツキニ時頃(ママ)程話シタ
佐野カラタノシダ片山哲ニ田中行ク 自分ノ三百円ニ対スル請求デアッタトノ事デアル
田中工場ニ関シ稲垣ノ諒解ノ爲メ船橋ニ出張 夜十時頃帰ル 明日頃來ルトノコト
田中明日大坂行キニツキ定期ニ同乗券買ツテヤル
梅田氏夕食中ニ來 一時間余リモ話サレテ困ツタ

▲▼290ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月5日(水)

天気 曇リ

田中大坂行
支拂ニ苦心ス
大藏來ル 免状、水上加エル爲メ
加地氏來 手形書イテ呉レトノ事デアッタガ

▲▼291ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月6日(木)

天気晴

局行キ

鈴木克衛來

写真機手ツグデー寸氣二入ッタノデ引取ツタ

▲▼292ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月7日(金)

天気晴

航空局行キ 八月分記帳

▲▼293ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月8日(土)

天気 曇リ雨

津田沼行 一円タクニ乗ツタツモリノ處押上デ降リルト一円五十錢呉レト云フノデ聞
イテ見ルト三哩一円 今日朝カラ馬鹿ヲ見タ 晝迄待ツタガ昨日電話デ約束シタ益
田來ラズ。降リソウニナツテ來タノデ川辺君ニヨリ同道シテ上京 車中カラ大降リニナ
ツテ、ヌレテ帰ツタ 田中帰ツテ居タ

夕方徳永氏來 夕食ヲ共ニス 鎌倉河岸ノ浅野デ飛行機用ヲ整理スルノデ千円バカリ
ノ品モノガアルトノコト 一平方十錢カラ十五錢ノ由 □ヲ借リテ居ク
徳治學校ノ遠足モ三日目ノ今日行ツテ雨ニ會ツテ帰ツテ來タ

▲▼294ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月9日(日)

天気晴

スツカリ晴レタガ午後風ガ強クナル

朝中島式ノ奨励金願書ヲ作ル

浅野來 一円ダケ渡ス 片岡伊香保飛行ノ件ニテ來 五十錢貸ス。馬詰來 二百円程
トノ事 飛ンデモナイ事デアツタ

昨日兄ヨリ手紙及田中ヨリ話アリ 金ト父病氣今度ハヨホドケイカイヲ要ストノ事

▲▼295ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月10日(月)

天気晴

津田沼行 晝前ニツク

慎野外飛行ヲ終ル

鳥飼氏ニ芋ヲタノマレテ送ル

今村夜帰国ニツキ鳥飼氏ヨリ三十円借りル 十時ニテ出發ス
風ヲ引イタカセキガ出テ困ル
中川氏來ラズ 機体検査スマズ閉口

▲▼296ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月11日(火)

天気 曇晴少雨

朝諸書類ヲ作ル 午後局行き 佐野ガ早川氏ニ會ヒニ來テ居タ。旭君ニ會フ 甲三運
賃ノコトヲ話ス 各務ヶ原ニテ支拂フコトニナツテ居ルカラトノコトデアッタ
今日ハセキガコトニハゲシクテ苦シカッタ 夜ノ酒モ止メル シップシテウガヒヲナシ、夜龍
角散ヲ買ワセル

東京自動車ノ金ヲ受取り明日ノ拂下ノ間ニ合ワス

▲▼297ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月12日(水)

天気 晴

今日カラ工場ニ行ク 朝久松氏ノ見舞ニ行ツタ サンザン、サガシタ四ツ谷ヲ青山へ引越
サレタトノ事デア又青山北町ニノ六十八ヲ尋ネ出シ見舞ヲナス 起キ來ラレテ今日風呂
ニ這入ツテ見様ト思フトノ事デアッタ。局ニ立寄り中川氏津田沼ニ出張ヲタシカメ中島
奨励金願書ヲ提出シテ工場ニ行ク 中川氏検査ノ終ツタアトデアッタ、ガ學校ノダケ
シカ見ズソレモアトデ見ルトス。パーヲ切ツテアッタ 今日ハヨホド気分ガ悪カッタニ相違ナ
イ

夜樋口ヲ呼び今回ノ方針ヲ話シ職ト事ム所ノ連絡ニツキ打合セヲナシ、今村ニ対スル気
分ナド聞ク

▲▼298ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月13日(木)

天気 曇り雨

今日ハ荒木、伊東ヲ補助トシテ第三第四工場ノ整理ヲ行ヒ工場内ノカントク場ヲ作ル
今日ヨリ明日ヨリ材料ノ出シ入ヲ職工ニサセナイ事揭示ヲナス

▲▼299ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月14日(金)

天気 晴

今日ハ第一工場ノ方付モノヲナス 終ツテ三時頃ヨリ帰宅 川辺ニ立寄り
橋本ガ待ツテ居タ 稲垣不参 田中遅参

今日ハ重要ナルコトハナク移轉ノ事 事ム所費ノ限度 特別積立金ノ事ヲ決定 十時過
散会

久シ振リノ仕事デ今日ハ歩ケナイ程内股ガ痛ンダガ氣持ハヨカッタ
今日菊池ト少シ落ツイテ話シヨシタ。大蔵ニ返(ママ)対氣分ヲ持ツテ居ルコトハ少シ意
外ニ思ツタガ菊池ガコノ様ナ考ヘデハ恐ラク何人モ好意ヲ持ツモノハ居ルマイ

▲▼300ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月15日(土)

天気 晴

田中出勤オソク九時過ギ來 今日ノ用件ヲ書キ残シ津田沼行 今日ハ午後後翼立テヲ
作り初メル

夕方早川、旭両氏來場 預品調査ヲ行ヒ清書シテ提出 同道シテ駅迄行キ駆着ノ甲
三朝日分三台ト馬詰分ヲ立川送りニ手續キヲナス

五時十五分デ帰ラル 一度工場ニ帰り月曜日ノ仕事ニツキ帰途樋口ト西田ニ打合せヲ
ナス

七時半帰宅 腹ガハッテ、ペコ、ニナッタ。カナリクタブレタ 十一時頃田中、宗里來 甲
一定期検査ノ件 外ニ昔シノコトヤ局ノ事デ話シガアッタガ二人共ヨッパラツテ居タ居
タ

▲▼301ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月16日(日)

天気 曇リ少雨

片岡ガ來ルト云フノデ午前中待ツ ツヒニ來ラズ 晝ヨリ信太郎ヲ連レ早川氏訪問 引
越シノ祝ヒ延引ナガラ入口ニ丁度天王寺谷ガ居テ昨夜川辺君來 今日今佐野ノ妻君
ト御母ガ來テ居ルトノコトデアッタ。丁度阿部サンノ親戚ノ方トカガ來テ居ラレテ三四
十分雜談後帰ラレテカラ佐藤就職ロヲ依頼シテ帰ル 森川氏へ立寄ツタガ不在 洗足
池ヲ見物シテ帰宅スルト、天王寺ガ來テ居タ 佐野ノ妻君來テ居タコトハ内所ダカラ
僕ガ話シタコトヲ云ワナイデ呉レトノコトデアッタ。ソレハ百モ承知

片岡待ツテ居タガ二百円デ伊香保飛行ハトテモ出來ナイノデ事ワル
夜田中來

▲▼302ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月17日(月)

天気 少雨曇リ

六時十五分起床 スグ仕度シテ森川氏訪問 検査ノ件ヲ御願ヒシテ九時帰宅 不在
中ノ事記シテ津田沼行キ

大蔵午後勝浦ヨリ帰ル 作業方針ヲ立テ、翼立テヲ作ル
夕食後六時半床ニツク

▲▼303ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月18日(火)

天気 晴

秋晴レノ上天気 今日モ検査官來ラズ

今日ハ翼立テ仕上ル アト棚ノ材料ヲ購入サセル

朝日四十七号組立ルヤ否ヤ電話デ聞カセル 組立テ居イテ呉レトノ事デアッタ
大友作業遅シ 明日ヨリ上野ニハイ属セシムル事トス

▲▼304ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月19日(水)

天気 晴曇リ

夕方帰宅

片岡來 伊香保飛行二百円入りアト三百円ハ廿五日朝受取ルコト 片岡ノ報酬百五十円書

▲▼305ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月20日(木)

天気 晴

局行キ 猿田ノ水上名儀(ママ)変更届、山本ノ登録申請書提出。課長ニ呼バレ佐野ノ件ニツキ課長調定(ママ)スルカラ土曜日午前中ニ佐野ヲ呼ビヨセテ居クトノ事デアッタ
午後田中ト打合せオソクナリ明朝行クコトニス 片岡契約書ヲ持ッテ來ル
宗里アブロ布張り差支ナシ

航空懇談会田中ヤル 朝日ニユポールヲ送り帰シタコトニツキ馬詰ガ意味アリゲナコト
ヲ云ツタトカデ気ニシテ又寄ツタガ注意ガケコトハスルコトニシタ
夜今村帰ル 遅カッタノデ話シヲ聞カズ

▲▼306ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月21日(金)

天気 晴

時事 下志津機三六〇号芝公園ニ低空飛行シテ小學生三名ヲ傷ツケル 一名ハ後チ死ス

五時十分宅ヲ出ル 七時五分前工場着 片岡ノ準備ニ中島式ヲ出サセテ居ク マグネ
トノ取付ケ悪シク十一時五十三分ヤット出発シタガ大宮ヨリ先キ雲多ク中止シテ帰ル

晝頃今村來 午後ノ休ミニ工場分擔人員ノ割當ヲナス。丁度稲垣來 同人ニモ見セテ決定

宗里アプロニ全員着手

朝日四十七号用發動機到着 工場藤氏來

夕食後片岡ト共ニ歸ル

昨夜二時頃(ママ)程ニカ眠レス非常ニツカレタ

▲▼307ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月22日(土)

天気晴

朝帳簿ナド整理 十時局ニ行ク 佐野來テ居タ スグ課ト三人會議室ニ入ル 課長ヨリ經過ヲ聞キタイトノコトニ佐野ヨリ話シ次ギニ自分話ス 佐野ノ話シンドロモドロニテ自分ハ先日來心ニ思ツテ居タ事ノ大部分ヲ完全ニ話シタノデ氣持チガヨカッタ

課長ハ第一佐野ハ今一度工場ニ復歸シテカスミヶ浦ニ行ク事 第二、仕事ノ見込ミツク追安クトモ伊藤ノ月給ヲ貰ツテ然ル上諒解ノ上暇ヲ取ルコト 第三今月五十円來月七百七十余円(クツクノ補助金)ヲ以テ支拂フコト 其余ノ金ハ、當分貰ワヌコトデ暇ヲ取ル。但シ之レハ佐野ニ取ツテ最モ掘(ママ)劣ナ策デ今早川ガ奔走中ノ仕事ナルモノモ先ヅ出來ナイモノト思ワネバナラヌト、止メヲサレテ居タ。兎ニ角今後円満ニセヨトノ事デ分レル

午後所沢へ行ク予定ノ處加地氏來 發動機ヲ直シテ呉レタラ殘金支拂フコトノ交渉ヲナス。田中ト會議。馬詰來ルトノコトデアッタガ來ラズ夜ニ入ル。夕方福知氏來 二時間程遊ンデ歸ル

▲▼308ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月23日(日)

天気晴

六時起床 所沢行き 九時着 橋本マダ寢テ居タラシカッタ 大毎ノ件朝日ノ事カラヨク話シテ注意ス

佐藤君ニ會フ ヨクコトワツテ居ク

十二時押上ヨリ宅へ電話シテ津田沼行き 田浦ノ處デ大藏ニ會フ 今日休ンデ居ルトノコトニ大藏ノ宅ニ立寄り後チ工場ニ行き河村ノ母サンヲ呼ビニヤル スグ行クトノコトデアッタガ夜ニナツテモツヒニ、コナカッタ

▲▼309ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月24日(月)

天気晴

朝自分デ馬詰機ノ洗滌ヲナス

右ノ手が痛クナッタ

午後金内ノ件東京へ電話スル 丁度田中ガ居タ

其マ、市川へ家ヲサガシニ行ク 帰途佐野ニ立寄ル 佐野又寝テ居タ 二人共ツシ、スルト云フ程デモナイガ速変テコナ気持チデアッタ 昨夜ハ出カケタ處へ松村サンガ來テ泊ッタノデ行ケナクナッタナド云ツテ居タ

関東飛行士クラブヨリ手紙來 協会ノ件及ビ競技会ノ件

▲▼310ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月25日(火)

天気 晴

朝馬詰甲一塗料中川辺來 関東飛行士クラブノ件ニツキ協議 千葉県組トモ稱スベキ津田沼船橋組ニテ馬詰ノ反省ヲウナガス事 午後野口外十数名ノ飛行士ヲ集メ協議ノ上覚書ヲ作製

一 帝國飛行協会対関東飛行士クラブノ協調ヲ希望ス

右解決スル迄吾レハ其イツレノ主催スル競技会及会合ニモ参加セザル事

二 関東飛行士クラブノ改善ヲ希望ス

夜稲垣ト宗里ニ行ク 黒米君ニテ朝話シアッタガ明朝來テ貰フ事ニ頼ム

十時帰宅

昨日大毎機ノ件ニツキ吉田ヨリ又小言アリ 今日西田ヲ飛行機デヤロウトシタガ、ガソリン欠ボ一ニテ中止 橋本ニ電ス

▲▼311ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月26日(水)

天気 晴

用件ヲ書キノコシ佐藤へ電話デペラツイタ事ヲ聞キ合セテ円タクデ押上行キ 局ニ電話シテ森川氏ト小林氏ガ津田沼へ行ッタコトヲタシカメテ工場行き 晝頃検査官來 サル見テ貰ッタガ検査シタ人(前回)中川氏出勤ナキ爲メ不明ニテ飛行中止 馬詰甲一T OGD定期終了 學校甲三内部検査終ル アト卅一日検査ヲ依頼ス

午後一同ニ昨日ノ経過ヲ報告ス 夕方事ム所へ電話スル 馬詰川辺丁度居テ馬詰相羽ニ今日諒解ヲ求メル爲メ昨夜泊ッタトノコト 何ソノ諒解力馬鹿シイ 川辺モ近頃馬鹿ニイクジナクナッタ

廿七日ノ記事

◆▼312ページ◆▼ 昭和2(1927)年10月27日(木)

天気 晴

九時過ギ川辺、野口君來 十一時頃協会三行ク 山田氏ト児玉氏ト会談終ルヲ待ツテ山田氏ト会见。遠藤、黒米君モ來 山田氏ト児玉氏ト目下協調ニツキ交渉進行中トノコトニ大キニ安心 尚之レ迄ノ馬詰対谷田 相羽対谷田氏関係ヲヨク説明サレ諒解ガ行ツタ 要スルニ今回ノ問題ハ相羽君ノ私喧ヲ関東飛行クラブデ利用シテナシタ公開状問題ニ端ヲ発シ、馬詰モ引コマレタ形ニナツタノデアアルカラドウシテモ関東飛行クラブガ一コノモノノ意見ニヨツテ左右セラレナイ様ニシナケレバナラナイ

右ノ状況デ局ニ行ク必要ガナクナツタノデ帰宅 御原氏ガ來居ラレタノデ會フ 二時過ギ馬詰君來 初メハ大分我レ等ガ反ギヤクデモ起タ様ニ憤ガイシテ居タガダン、ハ分リ五時相前後シテ松本ニ行ク 六時過ギヨリ初マリ馬詰ヨリ今日迄ノ経過クワシク話シアリ讚(ママ)成ヲ求メラレタ。要ハ和解成リ関東飛行クラブ主催協会後援デ競技会ヲ開催スル事 其間馬詰ノ努力ハ多トスルニ足ルモノアリ 一同ヲ代表シテ自分ヨリ謝辭ト讚(ママ)意ヲ表ス 尚クラブ改善ニツイテハ競技会后ニユヅルコトトス

廿六日ノ記事

◆▼313ページ◆▼ 昭和2(1927)年10月28日(金)

天気 曇リ

卅一日検査ニ台受ケルニツキ大多忙 然シ發動機ノ方ガフン發シテ呉レタノデ間ニ合ヒソウ 組立ノ方ハ今日ハ非常ナ成績デ宗里アブロ金具付ケカラ組立迄終ル

自分ハ午後鈴木同道市川ニ家ヲ見ニ行ク 一寸セマイガ安イノト新ラシイノデ十円手金ヲ渡シテキメル 小林トカ云フ大工ニ聞クト七十五円デ建ツタト云フ家ヲ見タガ中々立派ナモノデアッタ。今ノ家ガ八十五円ダトノコト 健(ママ)タ方ガマシカモ知レナイ

歸リテ川辺君ヨリ話シヲ聞ク 馬詰ガ非常ニ僕ノ事ヲ恐テ居テ局へ行ツテ話シヲスルトノコトデ川辺君ガ馬詰ニ会ツタリ相羽ニ会ツテ諒解ヲ求メニ行ツタリトノコト 志シハヨイガ、ソナ必要ハナカッタ

◆▼314ページ◆▼ 昭和2(1927)年10月29日(土)

天気 晴

松竹キネマノ活動ヲ中島式デ取りニ行ク

片岡又來タガタレモ機体貸スモノナク氣ノ毒デアッタガ止ムヲ得ナカッタ

菊池出タガ午後又休ム ドウモ困ツタ身体ダ
今日松竹ノ特等招待デ大蔵家内ト吉ト行ツタ筈ダガサテ面喰ツテマゴ、シテ居ル事
ダロウ

局へ電話シテ明後日検査ノ事ヲ聞ク 芝入辻本氏來場ノ予定 學校甲三宗里アブロン
標式ヲ聞キ朝日サルノ堪航証出タコトヲ聞ク

夜鈴木菊雄ニ行キ少シ吞ミ過ギテヨツパッタ處へ橋本ト田中ト來タトノコトデ帰宅 十
時半田中帰ル 來ル時稲垣へ寄ツテ來タトノコト 今日晝稲垣來 三十円渡ス

▲▼315ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月30日(日)

天気晴

明日ノ検査ニ間ニ合セベク大努力

▲▼316ページ▲▼ 昭和2(1927)年10月31日(月)

天気晴

芝入、辻本、駒林氏來 馬詰甲一DJ、學校甲三、宗里アブロイツレモ大蔵試乗 スベ
テパス

アブロハガソリンノ漏リヲ直スコト 學校甲三六レバーノ加減ヲ行フ

先日森川氏ニ検査方針ニツキ中川氏ト辻本氏ト多少差ノアルコトヲ統一セラレタキ旨
ヲ話シタガ問題トナリ特ニ検査ニ、カン敵アル如ク云ツタ様ニ辻本氏ガ取ツタラシク明
日森川氏ニ話スコトニス 辻本氏ニハヨク話シテ諒解ヲ得

五時ヨリ帰宅 七時前

▲▼317ページ▲▼ 11月

十月ハヤ、能率上リシモ金ニナルモノ少ナク十一月ハ特ニ金ノ收入多キモノニ努力スル事
ニ決定 方針ヲ與ヘル
能率増

分工場改革

経費節減

今迄ノガ押シ迫ッテ今月ハ支拂頗ル困難

▲▼318ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月1日(火)

天気 晴

雑用ニテ遅ク十一時局行き 佐野ニ会フ 課長カラ先日ノコトヲ返ツテ禮ヲ云ワレテ恐縮ス 早川氏ニモ一應挨拶ヲシテ居ク 川辺、馬詰、黒米君ニ会フ 帰ルト竹中カラ使ガ來テ待ツテ居タ 橋本モ來 スグ日日ニ吉田氏訪問 茶ヲノミ福知氏ノ帰リヲ待ツ

余リオソイノデ一度帰ル 時二六時頃 竹中ノ使ヲ電話デ話シテヤツト帰ヘス 福地氏帰ツタトノ電話デ又行ツテ兎ニ角傳票ダケ受取り金ハ明日ノ事 機体不備ノ點ニツキ場合ニヨツテハ津田沼へ送ルコトニ話シテ打合せス

▲▼319ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月2日(水)

天気 晴

ピストンヲ持ツテ七時ヨリ工場行き 大蔵松竹へ上京 慎帰ラズ 三時漸ク來ル 警視廳ノ方ハ慎個人非公式ノ話シデ、国民新聞デ責任ヲ持ツカラ飛ンデ來イトノコトニ飛バセルコトニス 汐干カズ海岸ヨリ出ル。スデニ四時ニナツタノデ一番先キニ旦代ヲ兎ニ角出ス

二十分遅レテ菊池、慎機 鈴木菊機。鈴木機發動機ストップデ再着陸 鈴木甲一機 出發 引カケラレテ海水ニ逆立ち 黒米機ツヰイテ出發。アト中止シテ明朝出發ノコトトシテ帰途ニツク頃片岡甲一機マグネット取付終リタリトテ、テストヲナスヤ其マ、飛行時スデニクラシ。七時半帰宅 黒米機新子安海岸ニ不時着小破ノ由

大蔵帰途ヨル 九時頃デアッタ 松竹百円デアト五十円貰ツテ來タトノコト 先キニ四十円ダカラ十円先生取ツテ居タラシイ 今日ノ内十円受取ル 帰途車中佐野ト宮下迺一所ニナル 船橋ヨリ稲垣ト同乗ス

▲▼320ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月3日(木)

天気 晴

時事 航空ページメント初メテノ明治節 神宮ノ人出七十万ヲ越ス 今日ハページメントニ田中ヲ代理トシ自分ハ約束ニヨリ坂地氏ヲ待ツ 九時來店 甲四 用雪橇四十三台分ノ金具ダケ見積リ依頼ヲ受ケル 日本楽器引受ケノ由 五日夕方 迺トス

維持奨励金申請書ノ下書キヲ作ル

午後大蔵來 吉田氏訪問 十年式九号機試験ノ件引受ケル

竹中低空ニテトシノヲナシ海中ニ墜落ストノコトニ今帰ツタ大蔵ニ電話シテ千葉大學へ見舞ニ行ク様命ジ丁度菊池ガ立川ノ帰リニヨッタノデ夕食後ヤル 靴ガナイトノ事デアッタノデ昨年満州デ買ツタ防寒靴ハ大キイノデ丁度菊池ニ這入ルノデ與ヘル。スグハイ

テ帰ル

▲▼321ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月4日(金)

天気 雨

野口ニ水上ノ補助金一時融通ヲ相談スベク五時半起床 工場行き 未ダ帰ラズ大蔵ニ
依頼シ野口ヘハイッ帰ルカラ打電シ千葉病院へ見舞ニ行ク 飛行機ハメチャ、、ダガ身
体ハ大シタコトナカッタ 僅カニ顔面ニ少シ傷アリ 頭ニ内出血サエナケレバズグ退院出来
ル由

帰りニアマリ、ハラガヘッタノデ千葉ノ停留所デアンパン五個ヲ買ヒニツヲ鈴木菊三三
ヲ自分タベテ朝晝兼食 一時半帰京 協会ニ行キ慎ノ金月曜日ニ出シテ貫フコトニ依頼
シ帰ル

馬詰来 五十円。ページメントノ金受取ル 片岡ヨリ慎ノ貸シタ機体料受取ル

田中カスミケ浦ノ帰りニ立寄り明日ノ打合せヲナス。橋本国七時頃来 佐藤主人帰ラ
ズ見積リ明日ノコトニス 局願書ニテ十一時半迄カ、ル

▲▼322ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月5日(土)

天気 雨

局行き 奨励金願書、請求書検査願等ヲ出スノデオソクナル

▲▼323ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月6日(日)

天気 晴

ヨイ日曜ニナツタ 朝ハ自分記帳 ドウモ気分ガ悪クテ仕方ガナカッタ 午後講談クラ
ブヲ買ツテ讀ム

草野氏来 例ノ漢口飛行用ノ飛行機ノ件ニツイテデアッタ。ライアン機ヲ進メテ居ク
野口君来 水上ノ金融通ノ件諒解ヲ得 今夜カスミケ浦へ飛行機ヲ取りニ行ク由
信太郎ヲ宗里君處へ奨励金願書ノ判ヲ取りニヤル 九時ニ出テ十二時半ニ帰ツテ來タ
大分役立ツ様ニナツテ來タ

▲▼324ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月7日(月)

天気 晴

局ヲ明日ノ検査打合せヲ工場行き

ドウモ一生命ダカ足ラナイモノヤ何ニカ、多クテ間ニ合ヒソウニモナイノデタ方カラ

菊池ヲ上京セシム

夜田中局ノ金受取ツテ來場 ヤット安心シタ

▲▼325ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月8日(火)

天気 雨

内部検査ニ駒林坂本氏來一マダネットノ運轉検査ヲスマセテ貰フ一工場甲ニ工場オドロ
用

駒林坂本氏馬詰ノDJ発内部見テ貰フ ベヤリング全部ピストンピン全部交換ノコト
内ノ部品ヲ見テ貰ツテパス 明日降ラレテハ實ニ困ルガ

材料購入ニ夕方ヨリ菊池上京セシムヨリ所沢廻リ 夕帰ル

銀行 アンドリュース外手形受取ル

▲▼326ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月9日(水)

天気 晴

予期シナイ好晴デヨカッタ 今村大ニ奮励シテ十一時迄女工モ全部 外ハ一時迄ヤツテ
目鼻ツク

自分ハ二時半迄発動機ノ方ヲ見テ居タ 西田鈴木二人残ル

川辺博覧会飛行ノ件ニテ出張 夜帰ル 七十円ニテ十回 実費差引アト半々 少々割

ガ悪イハ川辺モ苦シイ時ダカラ先ヅヨカロウ

夜丸山ローンオイルポンプト外一點持参

キン買物ノ残り持参 十時半二人一所ニ事ム所へ帰ス

▲▼327ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月10日(木)

天気 晴

昨夜ハ西田鈴木今朝四時半迄ヤツタ由

自分ハ今日ハ少シモ眠クナカッタ

検査官ツヒニ來ラズ 二時頃電話カケニ行ツタラ丁度向カラ電話スル様通知ガ來タ

三時半漸ク通ジ森川氏ニ話ス 局デハドウモ出來ナイト思ツテコチラカラノ通知ヲ待ツ

テイタトノコト

明朝兎ニ角來テ貰フ事ニス

夕方組立ノ方ハ夜業ヲ止メ発動機ダケヤル 十一時アブロト甲ニ終ル ソレヨリ先キ荒

木ニ馬詰ノヲヤラセル 自分菊池モ手傳フ 西田十一時後又ヤツタノデ荒木西田自分

トデ午前三時半迄カヽリ80ノ組立ダケ終ル 荒木中島ノ拡張船橋ニテ行フ 荒井少

佐
野口君三十円渡ス必要アリ 廃品賣立テヲナシ六十七円程入金アリ。自動車屋モ
支拂

◆▼328ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月11日(金)

天気晴

今日ハサスガニ朝起キニクカッタガ八時起床 大奮励 夕方クラクナツテ馬詰機ヲ最後
ニ検査終了 アブロダケペラ悪シク之レハアキラメル。西田、今村、菊池ト夕食ヲ共ニシ
テ帰京 大蔵帰場

◆▼329ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月12日(土)

天気晴

九時局ニ出頭 ツヒニ一時頃迄二甲三ト馬詰甲一ノ堪航証登録証ヲ交付セラル
馬詰ニモ会フ 明日ノ参加ノ諒解ヲ得 馬詰警視廳ニ行キ後チ手續キ終了ノ旨返來ル
竹中ニテ五百円借入ノ件ニツキ田中ヲ行カソウトシタガ不安ナリトテ行カズ 自分ノ
津田沼行キ急ガレ兎ニ角行ク様命ジテ行ク 丁度一同引上ゲル處ヲ途中ニテ会フ 出
ラレスコトト非難シテ居タラシカッタガ大嬉(ママ)ビデアッタ
大蔵ニテ夕食 稲垣モ來 後チ菊池ニ立寄ル 川辺君モ丁度居ル 中島脚破損ニツキ善
後策ヲ協議シテ十時工場着

◆▼330ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月13日(日)

天気晴

出発準備ニ忘(ママ)殺サレツヒニ夕方迄カハル 晝前ヨリ風強クツヒニ汐干カズ明早朝出
発スル事ニシテ本日ハ飛行中止 東京デ泊ル者ヲ同行シテ帰京 大蔵、西田、荒木、小
西モ。今村ハ先着

◆▼331ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月14日(月)

天気晴

四時半家内ヲ起シ五時半皆ヲ皆(ママ)シ六時代々木ヘヤル
自分ハウツ、シテ居タ ドウモ気分ノ悪イ日デアッタ
九時前且代君ヨリ電話アリ 風強ク出ラレヌトノコト 田中ヨリ電話ガアッタノデ其旨
ツタエル。風益々強イラシク出場不可能ヲ思ワシク其場合ニ取ルベキ方法 延期セシムル

ニツイテノ口実及ビニ者カラ見タ立場カラノ非難等ニツキ考ヘル 十一時半前田君ガ
オートバイデ迎ヘニ來テ呉レタノデ行ク 二時ノ最干汐待ツテ出ラレナイ時ハ誇張ト
スルコトニホゞ決定 ソレニシテモ一言不可抗力ノ不参加デ約半数ノ飛行機ト飛行士ノ
努力ニツイテ話シテ今後ノ場合ノ爲メニ云ツテ居ク必要ヲ感ジニ時イヨ、審査員会
議ヲ開キ自分ガ話シ半バニ旦代機飛來 少シオクレテ菊池 ヤ、オクレテ、アプロ機四機
相ツイテ來リ無事問題ヲ解決。自分ハ日日ノ自動車デ歸ル。七時頃皆歸リ鈴木一等
菊池四等 山本二等 荒木三等ニ入賞 大二嬉(ママ)ブ
大蔵夜所沢行 大毎機ニ搭乗ノ爲メ

▲▼332ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月15日(火)

天気 曇リ雨

朝九時局ヘ礼ニ行ク 課長ニハ関東クラブ対協会ノ件ノ礼モ述ベル
歸ツテ手紙ヲ整理シ奨励金ノ願書ヲ書ク 夕方迄カ、ル
田中家サガシニ行ク

三時頃皆千葉ヘ飛歸。西田、旦代、米山及助手來 松屋ノ太平洋飛行展覽会ヲ見テ
夕方歸ル大川佐野來 鳥飼ニテ借入二十円渡ス

▲▼333ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月16日(水)

天気 雨

今月ノ収支調べヲナス 相カワラズ収支ハ支出ノ半バニ違ヒナイ 最モアンドリユース佐
野ガナケレバ樂ガ出來タ訳デアルガイツ迄モ苦シミノ堪エナイモノダ
甲三ト小西ノ分願書ヲ田中ニ持参セシム。課長ニ目的辨明ヲシタソウダガ明ラカニ失
敗シタル様

夜歸ツテノ話シ 今夜ハ田中ノ政治家向キナルコト課長ニ話スス 自己ヲ低ク見ナカッタ
事ヲ指適(ママ)シ尚アセルコトノ不可ヲ説ク

午後賞金受領 工場ヘハ結局百六七十円這入ルコトニナツタガ、ガソリン其他ヲ引ケバ
ノコラナイ

慎ノ参加手當本人ニ渡ス

朝日ニ顔出シヲナス 慎友人式名ト來 帰郷ノ打合せ

遠藤氏來 一昨日ノ不平ヲナラベテ居タ。夕食ヲ共ニシテ歸ヘス

▲▼334ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月17日(木)

天気 晴シユウ雨

賞金ノ割當デ日本自動車へ立ヨリケーブル注文其他雑用ニ追ワレ晝迄カ、ル
川辺、鈴木旦代來 協会へ金受取りニ行ク
自分局行キ 甲三登録証写シト馬詰DJ願書荻野氏へ提出。慎曲技ヲヤツタ件ニツキ
川北氏ニ会见。荒井氏帰局ヲ待ツ事トス
スグ帰宅 大蔵荒木來 大蔵大毎行キ金受取ツタラシ 竹中へ金借りニヤツタガ不調
ソレニ一日カッテ夕方漸ク帰ル
大蔵、田中懇談会行

▲▼335ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月18日(金)

天気 晴

朝局へ電話シタガ森川氏不在 田中ニ晝頃聞カセルコトニシテ津田沼行 途中銅釘ト柱
樹ノ買物ヲシテ行ク 川辺ニヨッタラ前ノサンパツヤニ居タ 帰リニヨル約束ヲシテ工場ニ
行ク。ペラ材引取ラセル事ニシタガ夕方迄來ラズ 五十円ノ金デ運賃ト広瀬 余リノ
二十円ヲ樋口外三名ニ分ケテヤル。帰リニ川辺ニヨッタガタレモ居ラズ皆デドコエ行ッ
タラシイ。大蔵ニ立寄り山本ノ分ニテ泉屋支拂フ様ニ云ヒツケル 今日午後船橋へ行ッ
タトノ事デアッタ。成ベク工場ニ居ラナイ方ガ円満デヨカロウ 七時帰宅

▲▼336ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月19日(土)

天気 曇リ

朝局へ行ツタガ荒井氏未ダ帰ラズ慎ノ件話シ出來ズ 別府氏ニ航空法聴講ノ件ヲ聞イ
テ見タガ、今度ノ(太平洋横断ノ人々)トハ一所ニ出來ナイガ來春一定人員ヲ講習スル
コトニナッテ居ルトノ事デアッタ。パ راشニーターモ養生スルトノ事 橋本ヲヤツテヤロー
トヒソカニ思ツタ

午後田中ト家ヲ見ニ行ク 敷金貳百五十円ニ六閉口。押上ゲへ見ニヤル。

吉田君ニ会ッテ帰ル

大口北海道ヨリ帰ル 船ノ方ダメニナツタノデ無限軌道車ノ模型ヲ作ルノダトノコトデ
アツタ

夕方梅田氏來

慎君來 夕食ヲ共ニス

伊藤朝日アプロ試飛行終リテ帰ル

▲▼337ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月20日(日)

天気 晴

好晴 田中オソク十時ヨリ津田沼行キ 今村上京、大蔵、会エズ 川辺ニテ三十円受取
リ鈴木ノ百円ノ件話ス 支拂フトノコト 工場ニ行キ西田ト打合セシテ明日以後ノ仕
事ノ順序ヲ手紙ニ書キ上野ニ預ケル。帰途中山、菅野、眞間、鴻臺ヲ貸家サガシテ
五時帰宅 田中待ツテ居タ 夕食後スグ床ニツク 今夜ハナントナク腹立タシイ日デア
ッタ

◆▼338ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月21日(月)

天気晴

朝局行キ慎ノ報告書ニツキ別府、課長、川北三氏ノ諒解ヲ得テ提出 課長ニ佐野へ今
月三百五十円ヤルコトノ諒解ヲ求メル。氏カラ又佐野ガ來テ永々ト何ニカ話シテ居タ
ガ居眠リナガラ聞イテ居タガ、お前ガ注意シテ金モスグ固定サセナイ様ニカントクシテ
ヤレトノ事デアッタ。同時ニ早川氏ニ呼ンデ今月出ルモノ及ビ出スモノニツキ調査ヲ命ジ
ラレタ

佐藤へ事ム所ノ件デ行ツタガ不在 朝日ニヨリ帰宅 三時頃再ビ朝日行キアプロノ金
融通ノ件話ス 考へ様トノコトデ駄目

近來余リニ金ニ苦シムノデ数日來何ニカシラ腹立タシイ氣ガシテ仕方ガナカッタ 頭モハ
ツキリシナイシ活動力ガナク、イヤニナッタ

◆▼339ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月22日(火)

天気晴

局行キ 帰リニ朝日ニヨリアプロノ金ノ相談ス 考へサシテ呉レトノ事デ不可能カト思ッ
タ

◆▼340ページ◆▼ 昭和2(1927)年11月23日(水)

天気晴

丸時迄寝ル ノーシンヲ買ヒニヤリヤ、氣持チヨクナル

正午朝日ニ行ク 酒井中島君ニ会フ 久松氏ヲ待チアプロノ金ノ件相談 明後日自身
ノ配當ヲ貰フカラソレデ融通仕様トノ事デアッタ ヨツテ依頼シテ局ニ行ク。荒木二等
願書、鈴木 麟書免状及体格検査表提出。課長ニ話シ慎ノ爲メニフィルムヲ借用ス 三
卷

帰途日日ニ吉田君ヲ訪ヒシモ不在 福知氏ト外出シタトノコト

夕方田中ト会谈。イツカ又例ノ調子デヘン油ガ■デシヤベリダシタノデツヒニ、ロヲト
ジタ。結局ライトプレーン、學校問題ハ考慮スル事、金融問題田中進行責務関係ト工

場及練習ノ事、ヲ決シ出資者関係ハ時機ヲ見テ佐渡島ニ代表シテ貰フコト 以上

本日ノ記事ハ廿四日分

▲▼341ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月24日(木)

天気 晴

朝工場行き 晝頃ツク 少シモ仕事進捗シ居ラズ今村、西田ノ間モ面白クナイ様子デアッタ

慎ニ佐藤ヲ連レテ行ツテモ帰ヘス事ヲヨク話ス 西田ヨリモ希望アリ 佐藤へ西田カラ話サス

佐藤祖父病氣ノ爲メ帰ルトノコトニ旅費東京デ渡ス事トシテ帰途鈴木ニ借リル

川辺ト同道帰京 スグ朝日ニ行ク予定ナリシモ押上着ヨリ頭・気分悪シクスグ帰宅 アシマヲ取り床ニ入ル

夕方佐藤來 三十円渡ス 田中來 會議ノヲ初メタガ佐藤ト出テ行ツタノデ中止アトカラ來タガ寢テ居タノデ明日ノコトニス

右ノ記事ハ廿三日ノ分

▲▼342ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月25日(金)

天気 晴

今日モ朝日ニ行ツタ 今日ハタゞ顔ヲ出シタダケ

朝吉田君ヲ訪問 午後ガソリンノ金受取ル予定ノ處所沢へ行ツタノデツヒニ受取レズ

▲▼343ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月26日(土)

天気 晴

所沢ヨリ橋本來。午後稲垣大藏來ル 又今村ト昨日ゴタゞシタ由 今村ガ大藏ノ命ニシタガワヌトカ 徒ツタニ云フ様ナ事デアッタ 引ツゞキ右ノ問題カラ今後ノ問題ニウツリ又過故(ママ)ニサカノボツテ自分ノ攻撃ニナツタノデー言ヲモ答エズ今後ノ方針トシテ唯消極的内容充実ニアルノミトコトワル。ソレハ稲垣ニ設計ノ意思ナキ爲メ彼レ自身ニ何等期待スル事ガ出來ナイカラデアアル

朝吉田ニ行キ正午ガソリン代受取ル局ニ立寄ル

朝日ニテ久松氏ヨリ、アブリ補助金ガ出ナイノデ全部タゞデヤツテ貰フ様早川氏ヨリ

話シタ筈デアッタトノコト 其入レ合セヲサルノ方デシテ呉レトノ事。アマリノ事ニ開イ
タロガフサガラナカッタ 早川氏モソバニ居タガ、ドウモ早川氏ノ智エラシイノデ何ニモ
云ワズ何ニカ他ノモノデト思ツテ帰ル
四十七号胴体ネジレテ居ルトノ事デアッタ

▲▼344ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月27日(日)

天気晴

鈴木來 清水ノ話シス 半々位ダロウトノ事 コイツ清水ニ自分デ云ツタ事ガアルモノ
ダカラ

午後慎來 明日ニ延期シタトノコト ソレハ早速敷金デ間ニ合ワセテヤルベク三時頃ヨ
リ菅野へ行ク 先キニ見タ家ハマダ其マ、デアッタノデ、明日借リル事ヲ話シテ帰ル
慎君二百四十五円渡ス

国技館ビラ八十円増田ヨリ受取ル

▲▼345ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月28日(月)

天気晴

田中ヲ呼び打合セテ家主ノ敷金取レルコトニシテ局ニ行き、サル分工場ノ願書提出 事
ム所移轉届ケ提出。津田沼行キ

十二時着 今村樋口ヨリノ給料九十分ヲ最(ママ)非ホシイトノ要求アリ承諾ス。村山
プロヘラ削リナサシムベク交渉 金四十円最(ママ)非ナイト、兄ノ方ノ仕事ニ行カネバナ
ラストノコトニ明日都合スルコト 但シ他ニ六内々ノ事

十二時半自分分工場ニツイタガマダ裏デ皆ヤスンデ居タ

高野ヨリ御産ノ時ノ借金ガアルノデ百円都合シテホシイトノコトデアッタ

今村、大蔵ノ件今村ヨリ事情ヲ聞ク 今村自分ニモ、悪イ點ヲ最(ママ)認シテ居タ

荒木ヲ連レ帰宅 五時半 車中工場ノ状況ヲ聞ク

田中帰り敷金ノ受取六十円受取ル。慎來 九時ニテ出発 甲三整備ノ金七日迄ニ絶
對的ニ送ルトノコト

尚今五百円別ニ借リテカスミヶ浦問題ヲ解決セント考ヘテ居タガ田中ガ居タノデツヒニ
話セナカッタ

尚今日大蔵飛行部問題ト時々ニ稲垣ヲモ田中モ其方ニ廻シタイ考ヲ起シ一端ヲ田中
ニモラス

▲▼346ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月29日(火)

天気 雨

小降りデアツタガツヒニ自動車來ラズ

十時頃ヨリ局行キ 移轉届ケ出シ馬詰甲一補助金願書提出。後チ協会三行キ競技会
ノ金受取ツタノヲ見テ、御原ト茶ヲノミニ行ク 同氏今日谷田氏ニ太平洋問題ニツキ
心付キヲ話スツモリデアラタガ閣下不在ノ爲メ來月四五日頃來ルカラ同行シテホシイ
トノ事デアツタ。承認ス

夜小供上ノ方ヲ二人ツレテ津田沼行キ 自動車明日行ク事ヲ頼ム

▲▼347ページ▲▼ 昭和2(1927)年11月30日(水)

天気 晴

曇リ後晴

十時頃迄工場二居テ菅原ヲ連レテ菅野ニ行ク 自動車ヲ待ツ間役場へ寄留ノ手續キニ
行ク 晝帰ツタラ丁度自動車來テ居タ

夕方暗クナツテモ次ギノ自動車來ラズ 鳥飼へ電話シタラアトハヤツテ來タ。兎ニ角降シ
テ津田沼行ノ荷ヲ残シ夕食後荒木菅原同乗シテ帰ル

▲▼348ページ▲▼ 12月

根本的財政ノ安定ヲ健(ママル)事

▲▼349ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月1日(木)

天気 晴

朝役場へ寄留届ケト小供ノ入學 届手續ヲナシ八幡ヨリ東京工場ニ行ク

今日ハ事ム所ノ机ノ置キ替ヲナシ後鈴木、今村樋口ヨリ工場内ノ事ニツキ意見ヲ聞ク
アプロ削リ直シテペラ廻シテ見タガマダ少シイケナカッタノデ両方、同ジ厚サ迄落スコト
ニス

夕方帰宅夕方所沢橋本塗料取りニ寄ル 帰宅スルト田中ガ來テ居タ 會計問題ニツキ
二月迄見習ヒトシテヤリタイ 其上デ自信ヲ得且ツ所長ニモ信賴サレタラヤラセテ貰
ヒタイトノコトデアツタ。ソレモヨカロウ

岡崎ノ方辨ゴ士ニ依頼シタガラ會ツテ呉レトノ事デアツタ由 明後日會フトノコト 明
日夜荻野氏訪問ノコト

▲▼350ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月2日(金)

天気 晴

朝小供ヲ學校ニ連レテ入学サセ帰宅 朝食後工場行き 鈴木善助ヨリ西田ノ下ニ働キ
難キ旨申出アリ 保留ス
八月份決算ヲ行フ 表ダケ作ル
本日ヨリ晩シヤクヲ停止ス

十一時頃田中來 報知新聞ニテ伊藤飛行所長訴ヘラルノ見出シテ岡崎ヨリ一万三千
余円ノ請求訴訟ノ記事アリ 右ニツキ朝日ヨリ預リアル品全部引取り方申出アリタリ
トノ事

岡崎ノ方ハ驚カナイガ朝日ノ方ガ工場ニ対スル影響ガ多イノデ明朝上京スルコトニス

▲▼351ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月3日(土)

天気 晴

七時宅ヲ出テ眞直グニ久松氏ヲ訪問 昨夜帰宅セズ 代々木ダロウトノコトニ練兵場
ニ行ク 居ラズ 一度航空局ニ行 課長ニ声ヲカケラレ一通リ岡崎ノ模様ヲ話シ決シテ
心配ナキ旨諒解ヲ得 尚早川氏ニモ其旨述ベテ朝日ノ品引取方中止ヲ懇請ス 丁度
久松氏來 ヨク話シ取アエズ津田沼へ出張ノ旭氏ヲ止メル電話ヲカケラレ後子社へ行ク
其レ迄ニ早川久松帰社 自分ガ行ツタラ丁度旭氏ガ出懸タ處デアッタ 種々懇願シタ
ガツヒニ聞入レズ 目下作業中ノ四十八号モ引取ルトノコト 職工ノ迷惑モアリ色々頼
ンダガ聞カレズ 岡崎ノ事ハ心配ガナクナッタノデ今度ハ四十七号ノ整備ガ悪イト難ヲ
付ケツヒニ引取りヲ主張セラレタ

要スルニ返本主義デ此機会ニ於テ早川ノ朝日修理工場ガ実現スルモノト見ナサレル。
佐藤ニ帰り大坂へ尚小西村山、野田氏ニ今朝書イタ手紙ヲ出ス。橋本国、田中ト会见
田中ニ北河岡田ノ件命ジテ帰ル
夜八時頃帰宅 大蔵西田今村待ツテ居タ 今日ノ経過ヲアラマシ話シテ十時頃帰ル

▲▼352ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月4日(日)

天気 晴後曇リ

起床後今日ノ仕事ニツキ予定ヲナス 今後ノ方針大蔵ノ處置(飛行部ノ獨立、東京事
ム所行き等)樋口高野ニ諒解セシムルコト等、田中北河出張ノ事
工場行き 十時馬車十台位デ積込ンデ居タ 大蔵、今村、西田出勤 晝食ニ大蔵ニ
佐々木ヲ連レテランチヲ喰ヒニヤリ四十七号ノ事ヲ聞カセル 悪イ處カ好スギテ乗り手
ガ引張り凧ダトノ事デアッタ

田中來ナイノデ一時頃ニ帰りカケ途中デ会ヒ道々話シテ裁判所ノ通知書ヲ渡ス。北
河手形ニツキ判ト机ノ鍵ヲ渡ス

歸ッテ額ナドカケル

◆▼353ページ◆▲▼ 昭和2(1927)年12月5日(月)

天気晴

七時半村山自宅へ來 伴付ナド直サス
十時工場出 大蔵ヲ協会ヤル アトへ玉井君來 スグ帰ス 三十円手取ニシテ呉レトノ
コト ソレナラ昨夜ソウ云エバヨイモノ 困ツタ人ダ
八月決算終ルニ外収入僅カニ二百円デアッタガ決(ママ)損八四百円余デアッタ。格納庫
収入ガ非常ニ助ケニナル
クツク完成 アブロノペラドウモ其マ、デイケナイラシイノデ四時頃カラ布張りヲ行フ
一時間遅レテ完成 七時帰宅

◆▼354ページ◆▲▼ 昭和2(1927)年12月6日(火)

天気晴

六時起床 朝食後出ルノガヤハリ八時 九時工場着 丁度クツクヲ出シテ居ル處デアッ
タ
十一時前森川外一名來場 アブロダケ検印終ル
クツク試飛行遅レ一週シタノミニテ着陸 安定板ノボラン動カズ、テールヘビーニテ検査
終了ニ至ラズ 九日再検査 宗里アブロ内部ト一所ニシテ貫フコトニ決定
稲垣父ヨリ先日ノ手紙ノ件実行セマリ來ル 多分田中宛ニヨコシタモノノ事デアロー
船橋ノ稲垣ヨリ給料ノ請求ト朝日ノ件ニツキ手紙ヨコス
田中ヨリ交渉済ンダ旨入電アリ 昨日田中所沢ニ行カズ。大蔵銀坐ニテ会ヒ金五十円
今朝津田沼ヨリ電送シタル由
リバテラジエター調査橋本へ報告 今後ノ作業方針今村ニ命ズ
近來勤人ラシイ気分ガスルノト帰宅ガ何ントナク楽ナル氣ガスル
夕方川辺來 昨日自宅へモ寄ツタソウダガ別ニ何ンノ話シモナカッタ 少シ變ダ

◆▼355ページ◆▲▼ 昭和2(1927)年12月7日(水)

天気晴

六時半起床 朝食後玉井氏來 協会ノ方玉井へ注文交渉シタトノコトデ昨夜鳥飼ヨリ
一番デ來イトノコトデ來タトノコト 八時同道シテ上京 スグ協会ニ行ク 利根川氏カ
スマケ浦行 稲田氏休ミトノコトニ山口君ニツモ、佐藤へ模型ヲ注文セラレタ成行ナガ
ラ話シテ協会ノ予算ヲ聞ク 三十円トノコトデソレデツクルコトトシテ鳥飼ニ行キ玉井

君ニヤラセルコトニキメル 三十円デハモト、ニナルノデ幾分手数ニナル様ニスルコト。岡崎ノ件ヲ鳥飼氏ニ大体報告シ佐藤ニ立寄り手紙ヲ受取り金五円借り太田自動車ヘカ―チスノ金具注文シテ一時工場ニ行ク 稲田來ラズ前田小見川ヘ行ツタトノコト
大口來ヘ居タノデ明日拂下代三十円ダケ借リル 三時半工場ヲ出テ鈴木ニ立寄ツタガ不在 スグ帰宅。此間カラ氣ニシタ茶ノ木ヲ掘リ起スト案外ニ太根 根ガ深イノデ切ツテ又モトノマ、植エテ居ク
夜十時田中來 橋本ト佐藤デ待ツテ居タトノコト 十一時明日ノ打合セラシテ帰ル
稲垣處分飛行部獨立、田中ノ處置ニツキ考ヘル

◆◆356ページ◆◆ 昭和2(1927)年12月8日(木)

天気 曇後雨

今日ハ非常ニ寒カッタ 工場方針ニツキ十一時頃迄自宅デ考慮ス 余リ冷エタノデ酒ヲ少シノム

一時工場着

夕方稲垣來 昨夜田中行キ三時頃話シ込ダノデ風ヲ引イテ今朝熱ガ出タトノ事デアツタ

支配人問題ニツキ所長承知ナラ差支ナシト返事シタ由 シカシ支配人ノ権限ト云フコトニツキ稲垣ハ何ニモ考ヘズニ返事シタ由。自分ノ今日ノ考ヘハ金融問題ト交渉條件ニシタイ考ヘヲ話ス

夜田中七時過來 局千八百円程金出タ。今夜又支配人問題中止ヲ申出タ 先日來數回心變ガスルノデ明朝工場デヨク眞意ヲ聞キタイト今夜夜ノ話シハ止メテ帰ヘス

◆◆357ページ◆◆ 昭和2(1927)年12月9日(金)

天気 雨

家内四時半自分五時半起床 朝食 六時半自宅ヲ出テ七時二十分工場着 マダタレモ來ズ清水一人 五分前樋口來 外ハ皆遅クレル 今日ハ雨デクライ精デモアツタカモ知レヌ

昨日萩原ガオーバーヲ持ツテ來タノデヤツト借り着デナクナツタ

八時半田中來 十一時頃迄工場方針ト金融ニツキ話ス 金融問題一両日中ニ方針ヲ立ツルトノコトナリシモ大体自分ノ方針通り決定 學校問題田中ニヤラセルコトトス
高橋ノ母來 今月末廿五日頃迄ニ約束ノ金(二百円)都合スルコト 四時半終ツテ帰ル
久シ振リデ工場ノ風呂ニ這入ル アカデヒドカッタ

◆◆358ページ◆◆ 昭和2(1927)年12月10日(土)

天気 晴後曇り雨

五時半起床 七時半工場出 八時半田中来 上京ス 振興局請求提出 坂本氏別府氏立野氏來 クック及旦那曲技擴張ノ爲メ 旦那終リ 天候雲多ククック高度試験出來ズ 尚テール角度ノ關係上ツヒテ検査終了セズ 之レニ又々大蔵、今村二面白カラズ。今日八元來今村ノ気分轉換ヲハカルベク予定セシモ時間ナク終業 明日日曜ニツキ自宅へ呼ブトトス

村山半日出

菊池カラペラ、アプロ円スベテオクレトノ入電アリシモ尚一應問ヒ合セル

▲▼359ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月11日(日)

天気 晴

八時迄ヨク眠ル

ウララカナ氣持チノヨイ天氣デアッタ 小等ト盆栽ヲ一カタツケシテ新聞ヲ讀ム處へ今村來 共ニ朝食後内デハ面白クナイノデ八幡へ散歩ニ出ル 帰途大蔵トノ關係及職工ノ能率等ニツキ話シ今日ノ会社狀況ニカンガミ反省ヲウナガス 明後日大蔵西田三人デ会合セシメ解決スベク考慮スナストノ事ニ話ヲ止メ帰宅後、ラジオノアンテナヲ張り盆栽ノ手入。油カス等ヲ水ニトカス。五時半夕食

▲▼360ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月12日(月)

天気 晴

五時半起床 七時十分工場着 村山ガ掃除シテ居タ
今村霞ヶ浦へ出張サセル
クック午後試飛行 四百米突ヨリ昇ラズ 大蔵明日局へ諒解ヲ得ニ出頭ノコト 田中終日工場所員ノ練習ニ関スル規定ニツキ協議 原案成ル
五時半帰宅 七時頃鈴木來 八時半頃帰ル

▲▼361ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月13日(火)

天気 晴

今日八家内モ少シ寢サセ自分八時起床 ドウモ頭ノ工合ガ悪イ モウ今日八十三日ト思フトヒヤットシタ

眞間ニテ回数券ヲ買ヒ電報ノ申込ミヲナシ八幡ニテ電話ノ申込ミヲシテ工場ニ行ク
午後大坂ノ岩井氏來 荒木ニヨツテアプロニ同乗サセル

馬詰君來 勘定ヲナス 大蔵帰りオソク馬詰停留所デ待ツ 自分帰宅

夜田村來 清水ノ金ノ件大藏東京ヨリ帰りニ寄ル

▲▼362ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月14日(水)

天気 晴

六時起床 七時四十分工場着

田中上京セシム 晝過ギル 橋本ニ遠藤ノ金受取り渡スコト 森川早川行キノコト
支拂所員數二十九月分全部スマス 外支拂ニ大ニ困難ス 清水濟ミ寺沢ノ金受取済ミ
願イノコト

夕方川辺來 昨カラ寄ツテ幾等程入用力聞イテ見テヤロウト思ツタガ暇ガナカッタ
今日來タノデ計算ダケ。ソレデモ幾等デモナルベク材料代ト九月分ノ格納料モ半分ニ
シテ廿三円程金ヲ取ツテ居イタガ、先生不服デ喰ツテカ、リ金ノコトハ云エナイノデア
ブロノ整備延引ノ事デ文句ヲナラベタガ彼レハ貰フモノト思ヒ込ミ居リ自分ニハ三百ト
アブロハ分配スベキモノトノ見解デ、ソノ様ニ話タコトデアッタノダガ之レガ間違ッテ居タ
ラシイ 今日ハ自分モ少シムツトシタガ考ヘテ見レバ、例ノクセデモアリ、コンナコトデア
僕ト云フモノトマス、遠■カル 彼レガカヘツテカワイソウニ思ワレタ
帰ルト橋本ガ來テ待ツテ居タ 田中ニ會ワナカッタトノコト 泊ラセル

▲▼363ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月15日(木)

天気 晴

五時半起床 今日ハパンモカユモマツカッタ パン一キレカユ一杯デ工場 橋本同乗三菱
改造ニツキ大藏西田等モ參ジテ協議 九時過ギヨリ上京 佐藤ニテ田中ニ會ヒ橋本同
道局ニ行ク 登録証明日出ル筈 課長ト早川氏ニクツクノ件金額相談 年内ニ出來事
二十日迄ニ手續キセヨトノ事デアッタ 大ニ安心ス。橋本ト分レ生麦ニ玉井氏訪問 模
型ヲ見ル ヤツテ木ニ出タノデ、糸ヲ張ラナイクテモ品モノハカタク出來テ居タ。少シ塑
ノ上ニ難ハアルガ先ヅ上出來ノ方デアッタ 安心ス 生産物ヲクレタノデ懇談 新橋デ
下車 市川屋ニ立寄り少シ買物シテ帰宅 家内ガ今日二十八度九分モ熱ガ出タトテ
寢テ居タ
夕方後床ニツク 昨夜朝ニ時迄寢ナカッタノデ眠カッタ

▲▼364ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月16日(金)

天気 晴

五時半起床 家内ガ起キテ朝メシガ出來タノデスマセテ出懸ケル

芝入、辻本氏來 十年式上部ロンゲロンノ曲リヲ直スコト 宗里アブロヨシ。宗里エンヂン
ローント取替エタガ又ダメ 使用ニ堪エズ
千早商会ヨリ五百円供託差押二千葉裁判所ヨリ來ル 田中應接 合資会社ノ故ヲ以
テ帰ヘス 菅野ノ自宅ヲ教エル。明日松岡氏へ想(ママ)談ノ事

▲▼365ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月17日(土)

天気 晴

丑時半六時起床 七時半工場着 今日ハ夕辺ノスシヲ辨當ニシテ持参
今日ハ九月分記帳 大キニハカドル

清水発分解 到底使用ニ堪エズ自分ノ方へ引取ルコトニ西田ヨリ交渉セシム 三時半自
分早引ケヲナス

宗里へ手紙デ昨日ノ決果報告セシム

夜六時半床ニ入ル 八時眠ル

田中局 クック及アブロ願書提出

▲▼366ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月18日(日)

天気 雪雨

六時起床 昨夜カラ小供トノ約束デ八幡様へ参詣ニ行ク 雪ガチラ、シテ居タ 今年
ノ初雪 八幡宮ニ参拜 少時散歩 神官ガ杏樹ノ落葉ヲカイテ處々百燈ヲ上ゲテ居
タノガ朝ノ冷氣ノ中ニユラ、ト立ノボリ繪ノ様デアッタ 一時間一寸デ帰宅。午前ラ
ジオノ地中線ノ取付ヲナス。ヨクキコウル様ニナツタガ声ガヤ、小サイ。サンパツヲナシニ
時頃ヨリ信太郎ヲ連レテ風呂ニ行ク。ユックリト、アカヲ落シヨクアタ、マツタ 久シ振り
デアッタノデ氣持チヨカッタ

三時頃佐藤ヨリ使ヒ來ル ソコ菱井氏來 岡崎銀行ノ件ニツキ打合せ 氏ハ峯谷氏ニ
依頼スル予定デ相談シテ居ルトノコト 松岡氏ト當方ハ相談ノ上辨ゴ士同士打合せテ
貰フコトトス

夜早く床ニ入ル

十時過ギ田中來

▲▼367ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月19日(月)

天気 晴後雪

今日カラ工場デ食事ヲスル事ニシタノデ六時起床 仕度シテスグ工場ニ行ク 丁度時
間。田中來 松岡氏、局、佐藤へヤル 廿一日松岡氏ト会见ノ事

山本父子來 菊池上野帰ルニ本莊氏トシバラク話ス 良三氏大坂デ練習サセルコトニツキ諒解ヲ求メラル 尚計算書ヲツクリ結局八十余ノ頼リニナツテ晝食ヲナシタ方帰ル。四時半大口大蔵西田同道帰途ニツク 雪チラ、降り出ス 帰宅 今日電気屋(メートル)ニシテ増設工事(二)ト執達吏ガ來タ由。ドチラモヨイ人デ電気屋ハカサナド余分ニ置イテ行ツタリ執達吏ハ身分柄ダカラトテ、張紙ナドスベテ目ニツカナイ處へ張り額ナドハ其マニシ價格ハ僅カニ七十余円ノ見積リヲシテ帰ツタ由 廿八日競賣ノ事
差押ハ初メテノ体験ダガ人ガヨカッタノデ非常ニ氣持ニサワラナカッタ。タゞ夕食ノ時信太郎ニ、チャブ台ヲ出サセル時裏ニ張ツテアツタ紙ヲハガシテシマッタノデ、スグ又張ラセテ居イタガ徳治ト二人デ何ソノ紙ダト聞カレヨワツタガ、オマジナイダト教ヘルト又ナンノマジナイト聞クノデお金ノ出來ルマジナイデゴマカシタ

◆◆3688ページ◆◆ 昭和2(1927)年12月20日(火)

天気晴

六時起床工場行き 田中同道上京 局行き 田中ノ失敗ノ詫ビヲナシ手續キヲ完了シテ出タノガ三時 局ニテ安藤氏ニ會フ 二十三日局デ受取ル金ガアルカラ渡ストノコト函根土地ノ川上氏ニ會フ 明日晝會ヒタイトノコト 約束ヲナス 松岡氏訪問 菱井氏ト会见 廿四日午後二時 日日ニ約束ヲナシ千早ノ件競賣ヲ受ケルコト 其時ノ注意ヲ聞イテ田中買取ルコトニ定メル

岡崎ノ件モ差押込來ルモト覺后(ママ)スルコト 其上ハコナイカラトノコトデアッタ ムシロ千早ノ方ガ破産迄コナケレバヨイガトノ心配デアルガ松岡氏ハ來タラ受ケルサトスコブルアツサリシテ居タ 宮本ハ交渉スベシトノコトデアッタ

日日ニ吉田氏訪問後明日立川ヘノ歳暮ノ買物ヲ銀坐ニテナシ雷門デ田中ト夕食 今村辭意アル時ハムシロ止メサセル方良策 ソレニツキ田中ニ方針ヲサツケル

◆◆3699ページ◆◆ 昭和2(1927)年12月21日(水)

天気晴

六時起床 七時四十分工場着 飛行機デ立川行ノ予定ナリシモ中島ビラ撒布アリ中止シテ手紙ト乗募ヲ受験者(荒木、藤田)ニ事傳ル。田中ト船橋ニ行き試験官(別府少佐)ニ挨拶シテ自分上京 日本銀行ニテ昨日デタ伊藤甲三、馬詰甲一、馬詰同ノ小切手ヲ現金ニ代エ函根土地ニ行キ川上氏ニ會フ 明日引取りニ行ク由 二台共津田沼送りノコト約束シテ局ニ行ク ナンダカ書類ニ間違ガナケレバヨイガ云フ氣ガシタノデアッタ處ハタシテ大変ナ間違ヒヲ生ジ登録申請ガ機体番號ヲ間違ッテ居タノデ堪航証ト登録書ト違ツタモノガ出テ居リ年内ニ金ガ間ニ合ヌノミナラズ之レガ訂正ニ非常ニ困難ナ模様ニテ閉口 明日迄ニ方法ヲ構(ママ)ズルトノコトニ佐藤ニ帰ル アトヨリ電話ニテ

明朝登録証ヲ持ッテ來テ呉レトノコトニ早川氏訪問ヲ止メテ金馬詰分橋本來ラズ佐藤店へ預ケテ帰所 停留所ニテ馬詰二十四補助金ノ内渡シ工場ニ行キ書類ヲマトメ菊池、西田、大蔵ニ立寄り荒木ニ会ヒ仕事ト明日ノ打合せシテ帰宅

▲▼370ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月22日(木)

天気 曇リ後晴

六時半起床 八時出ル 九時丁度局着 早川氏ノ出勤ヲ待ツ 課長早く課長ヨリ呼バレル。アプロ十五号ニツキ、シカラレル 愛知ノ十四號デ登録サレル事ニナツタノデ補助金ヲ貰エズ。セメテクックダケ課長ニ依頼ス 早川氏出 スグクック査定ニ着手サレタ。荒木學課試験アリ

途中買物ヲナシ鳥飼ニ歳暮協会ニ模型ヲ納メル 明日請求ノ事。佐藤ニヨリ橋本国雄ニ会ヒアプロノ結果ヲ話シテ年内ノ内(ママ)合セラナシ四時半帰宅

風呂ニ行ク 夕食時荒木來ル 体格証ヲ明日提出シナケレバナラヌトノコトデアッタ 今ハ丸ノ内醫院デスツカリ調べテ貰ツタガドコモ悪イ處ハナク、ヤハリ神経衰弱デアッタ 血圧ハ普通ノ人ヨリ低イ位デアッタ

▲▼371ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月23日(金)

天気 曇少雨

六時起床 七時工場出 田中スデニ來テ居タ メヅラシイコトデアッタ 仕事ノ方ヲ一通リ見ル 組立ハスデニ休ンデ居タ 女工ガ車輪ミガキ 田中昨日上京セズ 同道シテ十時出ル 田中菅野へ判ヲ取りニ下車 自分スグ局行キ。クック査定シテ昨日会計へ廻シタトノコト 監理課デハ今課長ノ判ヲ貰ツテ居ル處ダガ次官ノ判ヲ貰フデ年内ニ間ニ合ヌカモシレヌトノコト

荒木ノ試験學科ニ問題オカシタ爲メ不合格。之レデ一文モ今後ノ収入ナキ見込トナリ 途方ニクレル 協会ニ行キ金受取りノ準(ママ)序ヲ立テ鳥飼へ領収書ヲ渡ス

局デ遠藤ノ金三百六十一円受取り佐藤ニテ橋本ヲ待ツ 三時過來 金渡ス

井上長、安藤來 三菱運賃ヲ取ラヌコト 機体貰フコト、ロールスロイス送ッテ來テ補助金デ整備ノコト等ヲ約束ス。夕方ニナル。井上、安藤橋本四人デ夕食後橋本銀坐へ買物ニ行キ道中工場方針□消極策ニ橋本サンセイ

▲▼372ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月24日(土)

天気 晴

六時起床 工場行キ 鈴木明日ノ飛行ニツキ又ゴタツカヌ様ソレゞ、命ジル 大蔵中島

ヲ主張シ変ナ口振りセシモ相手ニセズ イツレ本人ノ爲メ二人ノナキ處デ云ヒキカセネ
バナラヌ

上京局行き 課長クツクノコト氣ニシテ聞イテ呉レタ

鈴木善雄函根土地ヘヤルコトニナツタカラト阿部氏ヨリ話シアリ 勝手ナモノダガマツ
助カツタ形チ

清水來ラズ 一時辭シテ松屋デ買物ヲナシ松岡氏事ム所ニテ待ツ 二時半菱伊氏來
会见打合せ 菱伊氏ニ峯谷氏ヲ依頼スルコト 第一回ハ延期 二回目ニテ承認ノ外アル
マイトノ事デアッタ

鳥飼二一寸寄り田辺氏訪問ス 夜八十二時頃ニナルトノコトデ松屋デ買ツタモノヲ預ケ
テ佐藤ニ行ク スデニ五時半 橋本ニ會フ。田中ヨリ電話アリ。後藤氏訪問スルトノコト

▲▼373ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月25日(日)

天気 晴

七時起床 朝食後久シ振リデ小鳥ト盆栽ヲ見九時ニテ工場行き 帳簿記入ヲ初メタ
處ヘ高橋ノ老母來 昨日カラ來テ居ルトノコト 氣ノ毒デアアルガ約束通り昨日手紙ヲ
持タセテヤッタノニ、少シシヤクダツタガ手紙ハ店ノ人ガ預ケ呉レテ居タラシイ 一時間
程損ヲシタ 五時迄カツテ九月分ダケ記入終ル 菊池三時迄手傳フ

帰宅 田中來テ居タ 例ニヨツテ九時過ぎ迄シヤベツテ帰ル 熱ガアルトカ自畫自讚 自
分ノシタコトハスベテガヨク所長ノシタコトガスベテガ失敗デアアルコトハ笑止千万 コンナニ、
ウヌボレテ居テハ仕(ママ)末ガ悪イ

▲▼374ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月26日(月)

天気 晴

温イ日デアッタ

朝鈴木菊來 アブロノ検査願ト名儀(ママ)変更届ヲ受取ル。尚白戸飛行場借りタイ事
ノ話シアリ 聞イテ見テヤルコトニス

九時ヨリ上京 佐藤ニ立寄りワイヤーヲ預ケ所沢ヘ電話ヲ申込ミ、話シハ紙ニ書イテタ
ノミ、スグ局行き 慎ノフィルム三巻ヲ返ス。十年式ノ登録変更申請ヲ提出 鈴木アブ
口臨時、藤田アブロ定期、門松月報等ヲ提出

荻野氏ニ會フ モウトテモダメトノコトニ、アキラメルコトニシタガ困ツタ事ダ。課長不在
話シ出來ズ。御原氏ニ會フ 同道シテ三越デ茶ヲノミ、名古屋東京間ノ定期支線実行
ノコトノ話シ出來 氏帰名後後援者ニ相談 スグ知ラストノコトデアッタ

買物ヲシテ朝日ヘセイボ持参。立川ニ行ク 木暮氏上京不在 金取レズ 木下氏ニ會フ
自分モ氣分スグ話進マズ先方モ少シ變ナ調子デアッタ。熊野氏一人 格納庫ハマダ

棟ガ皆上ガツテ居ナカッタ

帰りニ知覧ニ寄ツタガ不在。佐藤ニヨリ帰宅 西田大蔵居リ佐野ノ東京飛行機製作所ノ名刺ト菅原、高野今日辭職申出タトノコト 高野ハスデニ荷物運搬 今夜佐野ニ泊ル由。ソコへ今村ト高野菅原來ル。暇ヲ呉レトノコトデアツタガ今夜即答ハ出來又 今村ニ預ケル旨答ヘル。高野ハヤ、ステバチノ気味アリタレドモツヒニ暇ヲ與エズ帰ス

▲▼375ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月27日(火)

天気晴

六時起床 七時ヨリ工場行き 大蔵佐野ニ行ツタ由 道具ガ大分アツタトノコト 多分菅原ガ持チ出シタモノラシイトノ事デアツタ 実ニ不都合千万ナモノデアツタ。佐野ハ自分ニ挨拶處ガ自分口ヲ聞カナイト云ツタソウダ 將來ソレデ済メバ結構。佐野早川ダケハ必ず思ヒ知ラセテヤル。今村ヨリ工場將來ニツキ希望アリ 即チ高級所員ノトウタデアツタ。コンナ事ヲ考ヘテ居タカト思フトヤ、タノモシクナツタ
十時最後ノ手段トシテ猿田へ行クベク出ル 途中田中ニ会フ 駅迄同行 佐野ノ話シヲナス。十一時十八分発 二時佐原着 三時十分前小見川ノ猿田氏訪問 今日ハ腹痛デ就床中トノコト 一時間程他ニ來客モアリ待ツテ話ス 金高等ヲ聞キ兎ニ角明日午後一時迄ニ工場へ行クトノコト ヤ、成功ノ色アリ 確答ヲ求メンカト思ツタガ出來ナカッタ。ヤハリマダイケナイ處ガアル 九時帰宅ス。橋本国ガ來タ由

▲▼376ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月28日(水)

天気晴

七時起床 八時半田中來 九時半徳治恵美子ヲ連レテ散歩ニ出ル。信太郎ハ七時前荒木ヲ上野博物館へ出張ノ爲メ手紙持タセテヤル
十一時帰ツテ居タガマダ來ナイトノ事 猿田氏來ル爲仕度シテ工場ニ行ク 田中經過其他用件ノ爲メ上京ノ必要アリ 金太郎ヲヨコス事ニス
猿田氏來ラズ 前田氏ヨリコトワリアリ 計算ノ方ノ金モ來ラズ請求ス
大蔵今村対策 融和ヲハカル 今村答エズ明後日返スルトノコトニテ物分レ
夜田中七時ヨリ來 十一時半迄來年度ノ方針ニツキ意見ヲタカワス
樋口ノ辭職ヲフセグコト 上野引止メ策等
○差押ノ方ハ八十二円ニテ金太郎買取り終ル

▲▼377ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月29日(木)

天気晴

八時起床 今日ハ非常ニ眠カッタ 工場行き

十時過ギ田中來 岡田電通ニヤル

橋本國來ラズ 矢野氏來 大蔵ヲ佛國バキーム会社支店長ヘノ照介(ママ)状持參 遅ク追遊ンデ居タノデ帳面付出來ズ、四時帰途ニツク

六時田中帰ルト菱伊氏待ツテ居タガコトワル 明日佐藤ニ返ノ事

七時過ギ樋口來 田中鳥ヲ買ツテ來タノデ一所ノミナガラ樋口ノ意見ヲ聞ク 実ハ二三日来非常ニコマツテ居タトノコトデアッタガ自分ハ止メテモ其時ハ飛行機ヲ去ル時デ松サンノ様ナコトハ絶対ニシナイトノコトデアッタノデ今後ノ方針ヲ話シ大ニ奮励スルコトニナル。ソレトハ野ノ後上野ノ引止メ策ニツキ協議 十時半樋口帰り十一時半田中帰ルト田中ノ話シハ熱ガアツテ人ヲ動カスカハアルガ、少シシツコ過ギテアイテ方ニイヤ氣ヲオコサセルキライアリ。コトニ自己ノ効ヲホコルニ急ナル爲メ一度ハヨイガツヒニハ悪感ライダカシムルニ到ル

▲▼378ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月30日(金)

天気晴

七時起床 八時 工場行きデ上京

「ポツ、小口ノ入金アリ 第二泉屋へ十一月分拂ヲナス 以上前日ノ記事」

住友ニテ電通ノ小切手現金ニ換ヘ丸ノ内醫院ニテ薬ヲ貰ヒ支拂ヒヲナシ十一時半工場ニ帰ル 割アテヲナシ曲リナリ二十一月分全部工場員へ支拂フコトヲ得 晝過ギ橋本國來 三時半漸ク終リテ橋本ト同道帰宅ス

今日今村ヨリ菊池ト相談ノ決(ママ)果一曾工場ノ爲メ大蔵トノ融和ニツトメ勤務スルトノコトニ大蔵ヲ呼び対免(ママ)シテ相互ニ希望ヲ述ベ目出度終ル 此頃ヨリ寒ケハゲシク帰宅後益々ハゲシク、ツヒニ床ニ入ル

橋本支拂全然不可ニテ心配ス 鳥飼へ明朝寄ラセルコト 尚猿田へ今一度交渉スベク大蔵明日集金ニ行ク時話シサセル様橋本ヲ又津田沼ニヤル

今夜三十八度三分発熱 タンニ血マジル 左ノロツ骨痛ミ、セキタエズ大ニクルシム 風薬ト龍角散ヲノミシツプシテ吸入ヲカケ少シ楽ニナル

上野ニ田中ヨリ留任勧告考慮ノ趣キ 松田ノ仕事ヲ仕ツダウ由 然ルニ松田急病 本日ヨリ床ニツイタル由

▲▼379ページ▲▼ 昭和2(1927)年12月31日(土)

天気晴

今朝ハスデニ熱モ下リ非常ニ楽ニナツタノデ九時起床 オカザリ、餅切り、障子、襖張りデ夜ル十二時迄カ、ル

晝頃田中來 岡田千江、十錢日歩ニテ出來ルトノコトデ、ソレニヤル
高見氏ヨリ昨年ノ經費千円高見氏借金ノモノ非常ノサイソクニテ閉口 幾分デモ出來
タラ送金タノムトノコト。當方ノ事情ヲ申送り大連ノ機体ニテ處分方依頼ス
夜菊池荒木來 一時間程デ帰ル アトエ大蔵來 猿田四百円兎三角借りタ由 分工場
へ式百五十円廻スコトヲ命ジ内へ二十円受取ル
來年ノ計畫確立シ立タラ越年 明日八年初廻リ 二日三日ニ熟慮ノ事
自カラ努力ノ足ラザリシヲ省ミ一曾精力増進ノ急務ナルヲ覺ユ

▲▼404ページ▲▼ 手控

姓名 伊藤音次郎

住所 千葉県津田沼町鷺沼1440番地

勤務先 自宅

自宅電話 京橋56-1532

事故通知先 東京京橋区銀座二丁目十三番地

時計番号 29732. 936523145072

体量 十三貫四百匁

身長 五尺

帽子寸法 6 3/4

カラー寸法 14 1/2

家族誕生日

名前	誕生日	摘要
吉子	明治三十年三月十日	夜 酉 三十一才
信太郎	大正五年十二月九日	夜〇時三十分 辰 十二才 6 /1/3
徳次	九年八月四日	午前六時 申 八才
恵美子	十一年十月二十一日	午前五時三十分 戌 六才
仁三郎	十三年八月二十五日	午後二時三十分 子 四才
満	十五年十一月十九日	午後八時四十分 寅 二才

405～408 ページ

収入録

月日	摘要	金額
3/	鳥飼勘定 拂下ノ分	150-
	一月ヨリ掛金四月?	100-
5/1	木ノ下行	25-
5/2	内拂借	45-
5/15	五月分	25-
6/15	六月分	25-
6/20	返金 鳥飼氏渡	30.000
8/13	々 口銭ノ内	30.000
未詳	々 五月二日ノ分トシテ	50.000
3/	鳥飼分	150.000
々	掛金ノ残(タイプライター差引)	7.500
	工場 20 内 5-借分	25.00
	以上へ内入協会モケイ口銭	30.000
	差引掛金ノ残	2.500
	々 外ニ	150.000
406 ページ		
	伊藤キン大連行	150-
407 ページ		
4/	吉田偵治 高見氏ノ時	150-
5/7	返金	150-
7/30	橋本善嬉	500.000
	期十一月三十日 日歩 2.5	
408 ページ		
5/9	川辺 皇国ビラ配當金	30.000
々	々 競技会分 分事ム所入	150-
6/2	々 同上 工場入	50-
6/1	朝日四十七号追加分ノ端	30.220
6/1	井上長一ヨリ	50-
6/18	々	100-
7/	朝ニ式	700.000
々	々 ネピヤ運賃	41.500

7/29	橋本 280 手形 分工場 20-	500.000
	100 所長 セン風キ 10-	
	90 内渡	

419～423 ページ

支出録

月日	摘要	金額
28	電車賃	.36
々	野田氏贈物	7.30
々	汽車	7.05
々	自動車	1.00
々	雑誌ト新聞	.40
々	兄	20.00
29	土産 ワサビ漬	.90
々	々 ベン当ト土産	.70
々	朝食	1.00
々	車	.50
420 ページ		
9/23	旅行案内	.250
々	電報料御原氏	.30
々	汽車大坂?	6.05
24	名古屋宿	3.30
々	サンデー毎日ト新聞	1.7
々	電車賃	1.8
々	土産物	2.00
々	自動車	1.00
々	小供 千代子	.30
々	堺往復	.35
々	スリッパ	.85
25	電報料高見氏	.60
々	電話料東京へ	1.50
々	活動三人	2.20
々	切手トハガキ	.30
々	電報電車賃	.10
26	散歩	1.50
27	風呂	0.36
々	自動車	1.00
々	電車	.12
28	橋本	5.00

々	電話料堺へ	.50
421 ページ		
1/		35.00
/18		15.00
1/20		30.00
2/		10.00
2/20		10.00
3/2		10.00
3/6		30.00
3/18		10.00
4/10		20.00
4/20		5.00
5/1		23.00
5/17		30.00
6/2		50 -
6/17		5.00
6/28		10.00
7/6		40.00
7/15		30.00
7/25		5.00
7/30	賃	50.00
々		20.00
31		10.00
	合計	448.00
422 ページ		
11/30	同文館拂込ミ第一回	1.00
423 ページ		
	アルス拂込ミ第一回	2.50
12/29	第二回	2.50